

**グローバル COE プログラム**  
**生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点**



**平成 22 年度**  
**自己点検評価報告書**

# グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」

## 平成22年度自己点検報告書 目次

1. はじめに	1
2. プログラムの目標と進捗	2
3. 運営体制の整備	6
3.1. 運営体制と教育研究プログラム	
3.2. 委員会・部会組織と人員配置	
3.3. 事務局体制の整備	
3.4. 情報基盤の整備	
3.5. 平成21年度予算と配分状況	
4. 運営委員会の活動	9
4.1. 概要	
4.2. 特定研究員（グローバルCOE）および研究員（時間雇用）の採用	
5. 人材育成センターの活動	11
5.1. 大学院教育部会	
5.1.1. ASAFAS 新専攻「グローバル地域研究」および「持続型生存基盤講座」	
5.1.2. フィールドステーションを活用した若手研究者の育成	
5.2. 若手養成・研究部会	
5.2.1. 特定助教・特定研究員および非常勤研究員の活動	
5.2.2. 次世代研究イニシアティブ・研究助成の交付	
5.2.3. 研究会・シンポジウム等の開催	
5.2.4. 生存圏科学国際スクールへの若手部会メンバーの派遣	
5.2.5. 若手研究者のG-COE国際シンポジウムへの貢献	
5.3. 海外派遣助成	
5.4. アジア・アフリカ人材育成	
6. 研究イニシアティブ	28
6.1. パラダイム研究会	
6.1.1. パラダイム研究会の開催	
6.1.2. 国際シンポジウム	
6.2. 第2パラダイム研究会	
6.3. 研究イニシアティブ1	
6.4. 研究イニシアティブ2	
6.5. 研究イニシアティブ3	
6.6. 研究イニシアティブ4	
6.7. 図書資料ユニット	
7. 広報・成果出版部会	50
7.1. 研究成果発信	
7.2. ニュースレター	
7.3. ウェブページ	
8. 拠点基盤整備部会	58
8.1. データベース	
8.2. 図書	
9. 自己点検評価委員会	60
10. おわりにー今後の展望ー	63

Appendix 1. 外部資金獲得状況 **66**

Appendix 2. G-COE ワーキングペーパー リスト(平成 23 年 3 月現在) **72**

Appendix 3. G-COE 平成 22 年度業績リスト **86**

- (1) 論文
- (2) 著書
- (3) 講演、発表
- (4) G-COE 関連国際会議の成果としてのプロシーディングス等出版物
- (5) その他文章、および社会貢献
- (6) 受賞
- (7) 学位論文
- (8) 特許

## 1. はじめに

本プログラムは、アジア・アフリカ地域の持続的発展に関する学際的研究を、グローバルで長期的な視野から、多面的に行うために創出された。われわれは、アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に対応しつつ、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究したいと考える。

本プログラムの主幹部局である東南アジア研究所は、強い学際的な志向を持った京都大学の地域研究の伝統のなかで発展してきた。本プログラムは、アジア・アフリカ地域研究研究科が東南アジア研究所と協力して行った 21 世紀 COE プログラム（2002-2007 年）の成果を受け継ぎ、フィールドワークと臨地教育にもとづく大学院教育を継続するとともに、「持続型生存基盤コース」を新設し、若手研究者の養成を図る。さらに、生存圏研究所などから森林科学・木質科学、気象学・大気圏科学、物質循環論、エネルギー科学など「サステイナビリティ学」に関連するハードサイエンスの領域を加えて、地域研究における科学的研究の幅を広げる。それによって、先端科学技術の知識を、伝統的な地域研究を支えてきた生態学、政治学・経済学、社会学・人類学、歴史学、医学の知識と融合させ、これまでの体制よりもはるかに幅広い人文科学、社会科学、自然科学の諸分野につうじた地域研究の専門家や科学者を養成する。

4 年目にあたる平成 22 年度の第一の目標は、中間的な成果として刊行した論文集『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて』（杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編著、京都大学学術出版会、2010 年 3 月）の英語版を準備するとともに、最終成果である『持続型生存基盤論講座』（全 6 巻）の刊行に焦点を定めた共同研究の体制を構築することだった。他方、引き続き、広い学際性を維持しつつ共通の枠組を発展させるために、パラダイム研究会を 10 回、国際シンポジウム・セミナーを 13 回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催した。さらに、その成果を速報として公開するワーキングペーパー 21 冊を刊行した。

教育面では、本プログラムの開始を契機として、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科において、平成 21 年 4 月に「グローバル地域専攻」が設置され、そのなかに「持続型生存基盤論講座」が設置されて、定員 8 名（新専攻全体）でスタートしたが、平成 22 年 3 月には最初の博士予備論文（修士論文）の取得者を出すことができた。本プログラムが支援する他の博士課程在学者の研究も順調に進んでおり、来年度には関連するテーマで博士号取得者が出ることを期待できる。持続型生存基盤論講座に準備された講義には、他講座、他専攻からも多くの院生が参加した。

このように、本プログラムは、中間評価で「とくに優れた拠点」と評価された勢いを維持しつつ、パラダイム形成と人材育成を両輪として、着実に進展している。次年度においては、上記の最終成果の刊行に尽力するとともに、関連プロジェクトの発展や本プログラムを担った中心的な若手研究者の成果の刊行、就職を支援していきたい。

平成 23 年 5 月 31 日

拠点リーダー 杉原 薫

## 2. プログラムの目標と進捗

### パラダイムの形成

本拠点形成の第一の目的は、自然生態、政治経済、社会文化を包摂した総合的地域研究に人類の生存基盤を左右する先端的科学技術研究を融合させて、「持続型生存基盤パラダイム」研究を創成することである。

近年のアジア・アフリカにおける総合的地域研究の成果から、人間の活動範囲が政治経済のグローバリゼーションによって地理的・空間的に拡大しつつあることに加え、地域はグローバリゼーションの単なる受け手ではなく、地域間交流などを通じて、グローバリゼーションそのものに影響を与える能動的な主体であることが明らかになった。一方、現代社会の要請に応え、地球環境問題、エネルギー問題を視野に入れた21世紀世界を展望するには、資本主義が前提としてきた私的所有権からの発想を相対化し、地表から宇宙までの空間的広がりをもった「生存圏」の物質・エネルギー循環に関わる研究を取り込み、ローカルにもグローバルにも持続可能で、かつ、科学技術・社会制度・価値観の考察を包摂した、新たな生存基盤持続型発展径路を構築するためのパラダイムを創出する必要がある。

具体的には以下の4つの研究イニシアティブを通じてパラダイム研究を推進する。イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」は、人類が「生存基盤の確保」を主たる課題としてきた社会から、生活水準の向上や人口の増加、国力の増大を目指す「開発」型の社会に変化してきた過程を歴史的に解明し、先端科学の知見とつきあわせることによって、現代のアジア・アフリカ地域の環境、技術、制度にかかわる問題群を再検討する。イニシアティブ2「人と自然の共生研究」は、従来の地域に根ざした資源利用システム研究と、物質・エネルギー循環の危機を背景にした新しい研究・知見を融合させて、社会文化的に実現可能な資源利用システムを提言する。イニシアティブ3「地域生存基盤の再生研究」では、より大きな一地域（スマトラ・リアウなど）をとりあげ、森林の再生、第一次産品輸出経済の発展と周囲の植生、制度、雇用、地方政治との絡み合いを総合的に考察し、持続型発展のモデルを追究する。イニシアティブ4「地域の知的潜在力研究」は、人類の多様性を保証してきた文化、価値観のなかに、生存基盤の持続的発展の要因を探る。

これら4つの研究イニシアティブにおける取り組みの成果として、これまでに明らかになった知見は、次の三点にまとめられる。その第一は、人間と自然環境の関係を、これまでのように人間（開発）の側からだけ、あるいは自然環境の維持の立場だけから考えるのではなく、両者の相互関係を考慮した上で、人類の「生存基盤」をどのように持続させていくかという視点が重要だということである。われわれは、そうした視点を確立するために、グローバル・ヒストリーを書き直したり、生命を連鎖体として見る在来の「生存基盤の思想」を読み解いたりした。

第二は、人間と自然環境との関係を二項対立的に捉えるのではなく、「地球圏」、「生命圏」、「人間圏」という、長い歴史と固有の運動の論理をもった三つの圏が交錯して成立する「生存圏」として捉えることによって、これまで注目されていなかったさまざまな領域の問題を可視化し、総合化することができるのではないかということである。具体的には、大気の動きと降雨、植生の関係を学際的に研究することによって「熱帯生存圏」の諸相を理論的に解明するとともに、東南アジアの大規模植林をとりあげて、そこにおける生態系と生

物多様性の維持、地域社会との関係、バイオエネルギーの開発などのテーマを総合的、体系的に解明しようとした。

第三に、人間圏の理解を、従来の公共圏中心のものから、家族などの親密圏を基礎とし、それに支えられ、そこから展開していくものとして公共圏を捉える見方に転換する方向で、見直しを図った。公共圏の価値を自由、平等、博愛、そこでの活動の特徴を生産、労働で捉えるとすれば、親密圏の価値は愛情、尊重、尊厳であり、そこでの活動の特徴は生存、ケアだとも言えよう。現在われわれが行っている地域研究の成果も、このような視点から位置付けることによって日本を含む先進国の社会の問題点と切り結ぶことができるように思われる。

第四に、人間開発指数に代わる「生存基盤指数」の開発を試みた。従来の指数が一人当たり GDP、教育、健康など人間圏、それも比較的経済・社会の発展にかかわる指標のみを対象としていたのに対し、われわれは地球圏（災害への対応力、エネルギーの確保など）、生命圏（生物多様性、バイオキャパシティーなど）にかかわる指標を人間圏と同等に重要なものとして扱い、さらに人間圏の指標のなかにも生存にかかわるものを重点的に取り入れることによって、地域社会の生存基盤の実態に迫ろうとした。

## 成果の発信

われわれは、持続的生存基盤パラダイム形成の中間的成果としてとりまとめた単行本『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて』（京都大学学術出版会）を 2010 年 3 月に刊行し、書評（『アジア・アフリカ地域研究』など）や合評会をつうじて多くの建設的な反応を得ることができた。そして、それらを踏まえて、英語版を準備する（翻訳を終え、出版社と交渉中）とともに、最終成果である『持続型生存基盤論講座』（全 6 巻）の刊行に向けた共同研究の体制を構築した。すなわち、イニシアティブ 1 を基礎とした「第 1 巻 環境・技術・制度の長期ダイナミクス」、イニシアティブ 2 を基礎とした「第 2 巻 生命圏の再構築」、イニシアティブ 4 を基礎とした「第 3 巻 人間圏の再構築」、イニシアティブ 3 を基礎とした「第 4 巻 熱帯バイオマス社会における生存圏と生存基盤」、2010 年度に始めた第二パラダイム研究会の成果を基礎とした「第 5 巻 生存基盤指数」、さらに大学院での教育と図書・資料ユニットでの検討を基礎とした「第 6 巻 持続型生存基盤論ハンドブック」の 6 巻を 2011 年度中に執筆し、刊行準備を完了する方向で作業を進めた。

また平成 22 年度においては、本プログラムメンバーに加えて、国内外から関連研究者を招へいして、パラダイム研究会を 10 回、国際シンポジウム・セミナーを 13 回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催した。また、その成果を速報として公開するワーキングペーパー 12 冊を刊行した。国際会議での招待講演も、Annual Meeting for the 109th American Anthropological Association (New Orleans) における Noboru Ishikawa, 'Searching Radically Different Southeast Asia: From Non-State Centred Perspective', Asia-Pacific Economic and Business History Conference (Berkeley) における Kaoru Sugihara, 'Patterns and Development of Intra-Asian Trade, c.1950-1980' など、積極的に実施した。さらに本プログラムによるこうした刊行物に加えて、『東南アジア研究』、『アジア・アフリカ地域研究』、*Kyoto Review of Southeast Asia*, *African Study Monographs* などにおいても、本プログラムに關係する論考が現れている。

なお、杉原は、国立大学共同利用・共同研究拠点協議会設立記念 一般公開シンポジウム「地球環境変化と人類社会」（2010年4月3日、東京大学安田講堂）において、「人類社会の持続型生存基盤パラダイム」と題して講演し、本プログラムの成果を紹介した。

## **教育・人材養成**

本拠点の第二の目的は、パラダイム形成の現場に触れた、本格的な文理融合型研究を担う若手研究者を養成することである。本プログラムの特徴は、21世紀COEプログラム「世界を先導する総合的地域研究拠点の形成」によってアジア・アフリカ地域に設置した14ヶ所のフィールド・ステーションを継承・発展させ、フィールドワークから国際ワークショップにいたるまで、研究パラダイム形成の現場に博士後期課程の大学院生・ポスドク研究員・助教からなる若手研究者を主体的に参加させることによって、人材育成と研究を融合させるところにある。そのために、「生存基盤地域研究人材育成センター」を設置して、グローバルな人材発掘からはじめ、研究・教育を経て、国際キャリア支援にいたる、文理融合型の国際的人材育成システムを構築してきた。

また、海外の地域研究拠点（コーネル大学・ロンドン大学・ライデン大学・オーストラリア国立大学等）と連携し、アカデミック・ディベートを通じて地域研究や専門分野を超えたパラダイム形成能力を養成してきた。国際的発信能力強化のために、国際学術雑誌への論文掲載や単行本出版のための支援を行うとともに、コミュニケーション能力の向上や研究会・プロジェクトの企画運営能力の向上を目的とした人材育成プログラムを推進してきた。

これらのプログラムによって、これまでの実績以上の博士修了者を、世界の学术界を先導する大学・研究機関そして世界で活躍する民間企業に送り込む。また、国際連合、世界銀行、世界自然保護連合などの国際機関、政府行政機関、世界各地で活動を展開しているNGOにもアジア・アフリカ研究の専門家を輩出し、持続型生存基盤の構築に向けた国際的な公論形成に貢献する人材や、地域に根ざした技術開発をリードできる人材を供給する。

平成22年度においては、大学院生を対象としたフィールド・ステーション派遣、海外観測拠点派遣支援や論文投稿料支援、若手研究者を対象とした次世代研究イニシアティブ助成や海外派遣助成を実施した。また平成20年度に、アジア・アフリカ諸国の優秀な若手研究者を本拠点に招へいし、最先端の研究現場での議論への参加を促進する若手研究者交流を実施したことを受け、平成21年4月からは、アジア・アフリカ諸国の優秀な修士号取得者を対象として、京都大学への編入により博士号の取得を支援するプログラムを実施している。

これらの成果を踏まえて、新しいパラダイムのもとでの人材育成を制度化するため、平成21年4月より、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にグローバル地域研究専攻を新設した。そして、新専攻に設置される持続型生存基盤論講座に新規で教授2名を採用した。本講座は、「持続型生存基盤研究の方法」や「国際環境医学論」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「生存圏科学論」等の科目を提供し、本プログラム終了後の教育・人材育成の中核を担っている。

## 世界拠点の形成

2010年度に入って本プログラムのパラダイムに深く関係するいくつかのプロジェクトが立ち上がり、研究の裾野が広がるとともに、地域研究としての具体化が進んだ。例えば、「現代社会における『自然』概念を問う」と題して2009年12月に開催された本プログラムの第3回国際シンポジウムを組織した石川登氏は、熱帯バイオマス社会論の具体化を目指して「東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究」(基盤研究S)をスタートさせた。また、中間的成果として刊行した単行本の編者の一人である田辺明生氏は、人間文化研究機構プログラム「現代インド地域研究拠点」の代表となったが、南アジアの生存基盤への関心は中心拠点である京都大学の研究活動の一つの核であり、2011年1月には同拠点と本プログラムとの共催で国際シンポジウムが開催された。2010年にリアウとハノイで開催した国際会議も、われわれのパラダイムの他国の研究グループとの実質的な共有を含むものであった。本プログラムは、このように、内外の地域研究の動向に大きな影響を与え始めている。

本プログラムの開始時点では、生存基盤地域研究人材育成センターを、京都大学の将来構想と連動させ、持続型生存基盤パラダイムによる科学技術研究融合型地域研究の展開と戦略的な人材育成を目的とする京都大学地域研究グローバルユニット(仮称)として再編することを構想していた。しかし、現実にはその構想をはるかに超えて、すでに大学院アジア・アフリカ地域研究研究科のなかに持続型生存基盤論講座が新設されるとともに、持続型生存基盤論に関する多くの共同研究が内外で組織されている。本プログラム終了後の拠点・ネットワーク形成を担う特別経費事業「ライフとグリーンを基軸とする持続型社会発展研究のアジア展開」が平成23年度に開始されることが確定した。これらの新規プロジェクトがより多角的なニーズを満たすものとして構想されると確信している。

### 3. 運営体制の整備

#### 3.1 運営体制と教育研究プログラム

本プログラムは、地域研究を核とした幅広い文理融合による持続型生存基盤パラダイムの構築、パラダイム形成の現場における教育・人材育成、そしてこれらを通じた世界に類を見ない学際融合の拠点形成を目指すものである。そのために、以下の3点に配慮した運営を実施した。

- 1) プログラムに参加する研究者の研究領域間、そして所属する教育研究組織間での円滑で効率的な連携を推進すること
- 2) 国内での教育・人材育成とアジア・アフリカ地域でのフィールドワークの現場での教育・人材育成をリンクさせること
- 3) 最先端の研究活動と大学院教育・若手研究者の育成をリンクさせること

運営体制は、平成21年度と基本的に同様である。プログラム全体を総括し、運営の基本方針に関する意思決定を担う運営委員会のもとに、人材育成センターと大学院教育部会、若手養成・研究部会、広報成果発信部会、拠点基盤整備部会の4つの部会を配置した。これらのセンター・部会が、大学院教育制度の整備、海外拠点を活用した臨地教育、若手研究者のイニシアティブによる研究活動の支援などの人材育成と拠点整備を担っている。また、情報基盤整備を強化するために、これまで拠点基盤整備部会の小部会として機能していた情報基盤整備小部会を事務局直属の小部会として配置換えを行った。

また、研究活動については、持続型生存基盤パラダイムの構築に向けて、研究領域を横断するテーマを掲げる4つの研究イニシアティブとそれらを統合するためにパラダイム研究会および第2パラダイム研究会を組織した。パラダイム研究会および第2パラダイム研究会、4つの研究イニシアティブ、さらにそのもとで展開される個別の研究プロジェクトと重層的な研究推進体制とすることにより、研究領域間の融合を促進している。

さらに、これらの諸活動を点検・評価するために、自己点検評価委員会と国際アドバイザーボードの活動に継続して取り組んだ。自己点検評価委員会は、毎年度、自己点検評価報告書を取りまとめ、プログラム運営の絶えざる改善に努める。また国際的に活躍する研究者をメンバーとする国際アドバイザーボードからは、世界に類を見ない学際融合の拠点形成の推進に向けたアドバイスをお願いしている。

#### 3.2 委員会・部会組織と人員配置

本プログラムは、23名の事業推進担当者に加えて、東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、生存圏研究所、地域研究統合情報センター等に所属する多数の教員、研究員および大学院生の協力によって実施している。そこで、これらの関係者全員

がいずれかの研究イニシアティブに参加し、研究活動を展開するとともに、中核メンバーはセンター・部会に参加し、本プログラムの運営を担っている。いずれのイニシアティブ、あるいはセンター・部会に関しても、人員配置が研究組織・領域横断的になるよう配慮した。

### 3.3 事務局体制の整備

事務局は、総務、会計などの一般事務のみならず、情報基盤やホームページ、ニュースレターなど、拠点形成にとって不可欠な研究支援業務の補佐も担っている。そこで、複数の教員、研究員に加えて、一般事務に事務補佐員2名、研究支援業務に技術補佐員4名を配置した。事業推進の日常活動のエンジンとして、健全に機能している。

### 3.4 情報基盤の整備

本年度も広報活動および研究支援環境強化をおこない、安全に配慮しつつ円滑な広報・研究活動の推進を図ることができた。主な活動は下記の通りである。

#### ①WEB システムの基盤強化

2010年3月に移転した専用サーバにおいて、互換性に配慮しながら最新技術を採用入れることができるよう、サーバ上のシステムを可能な限り最新にする努力を続けた。さらに、世代バックアップを含む様々なレベルでのバックアップ体制を確立し、WEB管理者がFTPに代わってCMSへ直接アクセスできる仕組みを構築し、より効率的なWEB更新を実現した。

#### ②研究および研究支援活動の情報基盤環境強化

発足以来、Google Appsを利用したシステムを提供し、国内外において様々なデバイスで利用できる電子メールシステムを安定して提供しつづけている。また、統合セキュリティ管理システムおよびセキュリティソフトウェアダウンロードサイトの開発を通じて、様々な研究地域が対象であるが故に問題となるコンピュータウィルスなどの情報セキュリティ対策について、迅速かつきめ細かな対応を続けている。

### 3.5 平成22年度予算と配分状況

平成22年度予算は、直接経費167,411千円（間接経費無し）であった。これを、プログラム開始後、4つの部会と研究グループ、事務局で配分した。ほぼ当初の予定通りに予算を執行することができた。

表3-1 平成22年度予算と配分状況

(単位：円)

平成22年度 予算執行状況								
	G-COE 直接経費							合計
	大学院教育部会 (足立)	若手養成・研究部会 (山本博)	広報・成果出版部会 (小林)	拠点基盤整備部会 (荒木)	研究グループ (杉原・藤田・徳澤・水野・達光)	事務局 (河野)	人材育成センター (小杉)	
設備備品費	988,000	110,000	0	2,908,000	1,050,000	644,000	0	5,700,000
支出額	945,262	963,432	305,750	0	300,711	3,626,599	0	6,141,754
残高	42,738	-853,432	-305,750	2,908,000	749,289	-2,982,599	0	-441,754
国内旅費	658,500	1,088,000	225,000	500,000	2,925,000	903,500	250,000	6,550,000
支出額	74,800	1,955,775	0	0	2,370,400	527,860	43,140	4,971,975
残高	583,700	-867,775	225,000	500,000	554,600	375,640	206,860	1,578,025
外国旅費	13,756,500	5,175,000	0	679,000	13,875,000	6,700,000	1,464,500	41,650,000
支出額	9,719,936	3,485,323	0	46,800	11,425,413	4,447,328	1,036,940	30,161,740
残高	4,036,564	1,689,677	0	632,200	2,449,587	2,252,672	427,560	11,488,260
人件費	597,000	25,877,000	3,795,000	3,563,000	8,480,000	19,352,000	17,196,000	78,860,000
支出額	66,226	22,590,832	1,111,381	2,105,672	4,764,289	13,424,234	18,277,995	62,340,629
残高	530,774	3,286,168	2,683,619	1,457,328	3,715,711	5,927,766	-1,081,995	16,519,371
事業費	0	0	5,980,000	7,350,000	4,670,000	12,811,500	1,089,500	31,901,000
支出額	5,078,816	3,283,855	8,515,471	12,539,261	10,794,260	20,900,719	893,832	62,006,214
残高	-5,078,816	-3,283,855	-2,535,471	-5,189,261	-6,124,260	-8,089,219	195,668	-30,105,214
その他	0	2,750,000	0	0	0	0	0	2,750,000
支出額	0	1,788,688	0	0	0	0	0	1,788,688
残高	0	961,312	0	0	0	0	0	961,312
予算額合計	16,000,000	35,000,000	10,000,000	15,000,000	31,000,000	40,411,000	20,000,000	167,411,000
支出額合計	15,885,040	34,067,905	9,932,602	14,691,733	29,655,073	42,926,740	20,251,907	167,411,000
残高合計	114,960	932,095	67,398	308,267	1,344,927	-2,515,740	-251,907	0

## 4. 運営委員会の活動

### 4.1 概要

運営委員会は、拠点リーダーと人材育成センター、4つの部会、自己点検委員会、国際アドバイザーボードの担当者、パラダイム研究会、第二パラダイム研究会と4つの研究イニシアティブの幹事、事務局長によって構成し、本プログラムの活動計画について審議するとともに、活動内容を確認した。プログラム開始以来、毎月一回、定例で開催してきたが、プログラム運営が順調に推移している現状を踏まえ、運営委員会の開催を2カ月に1回、奇数月に開催することとした。平成22年度の開催日は以下のとおりである。

第29回運営委員会	2010年5月10日
第30回運営委員会	2010年7月5日
第31回運営委員会	2010年9月5日
第32回運営委員会	2010年11月1日
第33回運営委員会	2011年1月17日
第34回運営委員会	2011年3月7日

### 4.2 特定助教（G-COE）、特定研究員（G-COE）および研究員（時間雇用）の採用

本プログラムを推進するために、2007年8月と2008年1月に、特定助教（G-COE）および特定研究員（G-COE）を公募し、2007年10月1日に特定助教（G-COE）1名と特定研究員（G-COE）3名、2008年4月1日に特定助教（G-COE）2名と特定研究員（G-COE）4名を採用した。このうち、2007年10月1日に採用した特定研究員（G-COE）1名は、2008年3月31日付けで埼玉大学経済学部にて専任講師として異動し、また2008年4月1日に採用した特定助教（G-COE）は2009年4月1日付けで東南アジア研究所准教授に昇進した。

2009年度には若手主要メンバーの大規模な入れ替えがあった。2007年10月1日に採用した特定助教（G-COE）1名は、2009年9月1日付けで岡山大学大学院環境学研究科の准教授として異動、2008年4月1日に採用した特定助教（G-COE）1名は、2010年4月1日付けで富士常葉大学社会環境学部に准教授として異動した。また、2008年4月1日に採用した特定研究員（G-COE）のうち、1名は2009年12月1日付けで立命館アジア太平洋大学に、1名は2009年1月15日付けで筑波大学大学院生命環境科学研究科に、それぞれ助教として異動した。

上記の状況を鑑み、2009年9月に特定助教（G-COE）2名を内部公募し、2007年10月1日に採用した特定研究員（G-COE）2名が、11月16日付けで特定助教（G-COE）として昇進した。また、2009年11月および2010年1月に特定研究員および研究員（時間雇用）の公募を行い、特定研究員（G-COE）1名と、研究員（時間雇用）4名の採用（うち2名は博士論文提出を条件とし、それぞれ2010年4月16日付け、11月1日付けで採用）を決定

した。2011年4月1日現在の人員は、特定助教（G-COE）2名、特定研究員（G-COE）3名および研究員（時間雇用）4名である。

## 5. 人材育成センターの活動

人材育成センターの主たる責務は、本プログラムにおいて展開される先端的な研究と人材育成を融合させるとともに、文理融合型の国際的人材育成システムを構築することである。そのために推進すべき柱として、次の3つを掲げてきた。すなわち、(1) アジア・アフリカ地域に設置したフィールド・ステーションをさらに発展させ、そこにおいて博士後期課程の（またはそれに相当する）大学院生の積極的な参加を得て、フィールドワークや国際ワークショップを活発に展開すること、(2) 博士後期課程の大学院生・ポスドク研究員・助教からなる若手研究者がプログラム全体に主体的に参画することを促進して、彼らを新世代研究者として育成するとともに、若手研究者がパラダイム形成から個別研究に至るまで実質的に貢献できるよう支援すること、(3) 地域研究の全国的・国際的な拠点としての京都大学の将来構想と連動しつつ、新世代研究者の育成を図るための制度設計をおこなない、文理融合型の地域研究の国際的拠点を発展させる戦略立案をおこなうこと、である。

(1)(2) のために、大学院教育部会および若手養成・研究部会を設け、集中的な活動展開をおこなってきた（詳細については、5.1 および 5.2 を参照のこと）。また、若手育成を推進するための具体的施策として、選抜した若手研究者を長期に海外に派遣することをおこなった（詳細については、5.3 を参照のこと）。

また (3) については、本プロジェクト終了後に構想していた「京都大学地域研究グローバルユニット（仮称）」に相当するものとして、第3年度においてすでに、本プロジェクト参加部局の中でも大学院教育に特化している京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）において、他の本プロジェクト参加部局の協力を得て、「グローバル地域研究」専攻を新設した。特に、同専攻の中でも「持続型生存基盤論」講座が本プロジェクトによる持続型生存基盤研究と連動しているほか、他の2講座「イスラーム世界論」講座・「南アジア・インド洋世界論」講座でも、持続型生存基盤に関する研究において緊密に連携する体制をとっている。

新専攻設立によって研究と人材育成を融合するための体制スタート後の2年目に当たる本年度は、第2期生8名が入学し、第1期生とともに、教育・研究指導の両面で5年一貫制博士課程の学年が進行した。新専攻を通じて本プロジェクトの発展や成果をただちに大学院教育に直結させることによって、学知を創成し継承するプロセスがきわめて活性化されたことが実感される。

### 5.1 大学院教育部会

大学院教育部会では今年度、主に次の二つのことに取り組んだ。一つは、①大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）の第三の専攻として平成21年4月に設置されたグローバル地域研究専攻のもとで「持続型生存基盤論講座」を開設し、G-COE『生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点』が掲げる持続型生存基盤に関する講義および演習を実施した。いま一つは、②大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が掲げる臨地教育を推進する目的でアジア・アフリカ諸国に設置されているフィールド・ステーションを活用し、

若手研究者の育成を推進するための大学院生派遣プログラムである。

#### 5.1.1 ASAFAS 新専攻「グローバル地域研究」および「持続型生存基盤論講座」

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科では継続的にカリキュラムの改善を推進しており、平成 20 年度からは、本プログラムで創出しようとしている持続型生存基盤論 (Humanosphere Studies) の中核科目として、同研究科の共通科目「持続型生存基盤研究の方法」、「イスラーム世界生存基盤論」、「国際環境医学論」の提供を開始した。

さらに平成 21 年 4 月、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻および持続型生存基盤論講座を新設した。また同講座に新規で教授ポスト 2 を措置した。事業推進担当者を中心とする他部局の関連教員も、この講座の教育研究活動に協力教員として参画することにより、本プログラムで創生する持続型生存基盤研究 (Humanosphere Studies) を自主的・恒常的に継続・発展させることができる。同講座では、平成 22 年度に、「持続型生存基盤研究の方法 I」、「持続型生存基盤研究の方法 II」、「熱帯森林資源論」、「野生動物保全論」、「生存圏科学論」、「国際環境医学論」、「人間環境関係論」、「熱帯乾燥域生存基盤論」の 8 つの講義を開講し、自然生態、政治経済、社会文化を包摂した総合的地域研究と人類の生存基盤を左右する先端的科学技術研究を融合させた教育研究活動の継承・発展に取り組んできた。これらの講義の概要は以下の通りである。

##### 持続型生存基盤研究の方法 I (前期 2 単位、杉原薫)

アジア・アフリカ地域の生存基盤 (人間社会とそれをとりまく「生存圏」—森林や水域。大気圏なども含む—) の構造と変動を考察するためのさまざまなアプローチを紹介しつつ、歴史的な観点からの総合化を図る。理科系、文化系を問わず、地域研究の側から環境問題に関心を持つ大学院生を対象とする。

##### 持続型生存基盤研究の方法 II (後期 2 単位、河野泰之)

東南アジアを中心とする熱帯における農業開発、水利開発、農村開発委、農業生産と環境保全の競合などを含む自然資源の利用と開発、管理に関する基本的な視点を考察し、社会経済的側面を含む総合的な調査研究手法を学ぶ。

##### 熱帯森林資源論 (前期 2 単位、小林 繁男)

熱帯林における生態資源の現状を地域住民の生活との相関で説く。森林生態資源を生物資源と環境資源に区分し、前者を住民の生存基盤として人間の安全保障、後者を生存基盤として地球環境問題との関連性を言及し、熱帯林生態資源の持続的利用について考察する。

##### 野生動物保全論 (後期 2 単位、山越言)

野生動物の保全は、世界各地のさまざま生態系がもつ生物多様性を維持するための地球規模の問題群を構成するいっぽう、これらの動物と接して暮らす人々にとっては、固有の歴史と動物観に基づいた、きわめて地域特有な問題群の一部となっている。野生動物保全をグローバルとローカルが交差する現代的問題のひとつとして捕らえ直し、関連する基礎的

な概念について、読解・討論を通じて理解する。

#### 生存圏科学論（後期 2 単位、山本衛 他）

人類の生存圏である人類生活圏、森林圏、大気圏、宇宙圏などにおいて、人類社会の持続的発展を考える上で重要となる自然あるいは人為起源の現象がどのように生起しているのかについて明らかにする。特に、地球大気環境の精密な計測手法について紹介するとともに、観測情報の統合的な解析を通してそのメカニズムを総合的に分析する。また、森林の作用に注目しながら、生命科学的観点から森林資源としての木質の形成機構の解析・統御方法について考察するとともに森林の環境修復を目指した研究を紹介する。

#### 国際環境医学論（後期 2 単位、松林公蔵）

疾病ならびに人の老化のありさまと生態系、文化との関連を論ずる。また予防医学的な観点から、熱帯地域に滞在する場合の医学的注意事項に関する基礎的な知識の習得もめざす。疾病と老化に関する基本的事項を総論的に解説したのち、人の疾病、老化と自然生態系ならびに文化に関する諸問題について、各受講生の関心領域との関連で、自由討議をおこなう。

#### 人間環境関係論（後期 2 単位、田辺 明生）

人間と環境の相互作用的な関係について、社会と技術と生態の連関に注目しながら論じる。持続型生存基盤の構築に向けて、人間と環境の関係をどのように再構築できるかを地球と地域の両方の視点から考察する。

#### 熱帯乾燥域生存基盤論（前期集中 2 単位、小杉泰・長岡慎介）

熱帯乾燥域である中東・北アフリカについて、歴史的にどのような生存基盤持続型の社会・経済・政治システムが展開してきたのか、その特徴とは何か、またそのような文明的な遺産を現代的に展開しつつあるイスラーム金融などの発展からいかなる将来的な展望が描きうるのか、考察する。

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科は、5 年一貫制大学院であり、これらの科目はいずれも、博士前期課程・後期課程を区別せず履修することができる。多くの大学院生は、第一年次や第二年次にこれらの科目を履修し、第三年次以降は、研究分野を横断する 3 名の指導教員による指導のもと、博士論文に向けた研究に専念している。

### 5.1.2 フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成

海外拠点を活用した研究教育支援体制の充実は、本プログラムにおける重要課題の一つである。本プログラムのもとで運営・整備されている海外拠点は、アジアに 5 カ所（ラオス、ミャンマー、インドネシア、ベトナム、カンボジア、インド、エジプト）、アフリカに 6 カ所（エチオピア、ケニア、タンザニア、ザンビア、ナミビア、カメルーン）のフィールド・ステーションと、6 カ所の海外観測拠点（インドネシア科学院生物材料研究センタ

一、パムング MF レーダー観測所、ポンティアナック MH レーダー観測所、赤道大気観測所、ムシフタンペルサダ社造林地（以上、インドネシア）、ペルサハーン・コシナル社造林地（マレーシア）が設置されている。これらのフィールド・ステーションや海外観測拠点は、大学院生の研究活動に活用されている。またこれら拠点には、教員が頻繁に訪問しており、現地調査期間中も教育・論文指導を実施できる体制を構築している。

フィールド・ステーションを活用した若手研究者の育成に関して大学院教育部会の ASAFAS 委員会では、前・後期の二回にわけて「フィールド・ステーション等派遣経費支援」プログラムの公募を行うこととし、前期の募集期間を平成 22 年 3 月 17 日－3 月 31 日、後期を 8 月 10 日－8 月 31 日に設定してそれぞれ募集した。なお、募集要領（前期分）は以下の通りである。

---

グローバル COE プログラム 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」  
2010 年度フィールド・ステーション等派遣経費支援の申請について

グローバル COE 大学院教育部会

下記の通り、フィールド・ステーション等派遣支援の募集を行います。これは、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」(<http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>)の一環として、ASAFAS が臨地教育の拠点としてきたフィールド・ステーションを継承、発展させながら、大学院生の教育研究を推進しようとする事業です。当支援では、博士予備論文の内容を拡充し、それを博士論文につなげるためのフィールド調査を奨励しています。

希望者は申請書に記入の上、電子メールに添付して**3月31日（水）正午までに** GCOE 教育部会事務局宛に送信してください。

**送信先のアドレスは <gcoe\_eduoffice@cseas.kyoto-u.ac.jp> とし、件名は「フィールド・ステーション等派遣経費の申請」としてください。**

### 1. 申請資格

申請者は、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の大学院生で、博士予備論文を提出し合格した院生、他研究科で修士号を取得して本研究科に編入・転研究科した院生、および本研究科の研修員で博士号を取得していない者にかぎります。フィールド調査を予定している国や地域に ASAFAS のフィールド・ステーションがなくても応募できます。**なお申請にあたっては、必ず指導教員の承諾を得てください。**

### 2. 助成内容

2010 年度中の派遣に対して、旅費、滞在費等を支援します（年度をまたいでの渡航に対する助成はできません）。ただし、備品の購入は対象外です。

### 3. 選考基準

研究計画の質、実行可能性、博士予備論文との関連性、ならびに博士論文への発展性を考慮して選考を行います。

#### 4. 審査結果の通知

提出された申請書は、グローバル COE プログラム教育部会において厳正に審査の上、4月15日までに審査結果をメールで通知します。

#### ※注意事項

##### 1. 報告書の提出

派遣を終了し帰国した日から45日以内に、調査結果を要約した報告書の提出を求めます。報告書は、[1]派遣報告書（A4一枚の簡単なもの）、[2]ホームページ掲載用の和文報告書（2,000字以下）、および [3]ホームページ掲載用の英文報告書（400語程度）の三点を提出してもらいます。また[2]および[3]には、調査研究の様子がわかる写真を添付してもらう必要があります。

2. 本派遣事業の成果として論文が出版された場合には、論文の謝辞あるいは Acknowledgement に、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」の支援を受けた事を明記してください。

和文例) 本稿は、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」における研究成果の一部である。

英文例) This paper is a part of the outcome of the JSPS Global COE Program “In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa”.

以上

---

公募の結果、前期17名、後期11名、計28名の応募があり、それぞれ選考委員会を開催して、前期17名、後期9名の派遣を決定した（表5.1）。

表5.1 平成22年度院生派遣状況

番号	氏名	専攻	指導教員	渡航先国	支給額	申請書の渡航期間			題目
						出発日	帰国日	日数	
1	小西鉄	アジア	岡本正明	インドネシア	230	10/11/21	11/01/10	51	インドネシアでのオイルパーム・ビジネスにおける民間企業の活動をめぐる政治経済分析—スマトラをフィールドとして—
2	田崎郁子	アジア	速水洋子	タイ	387	10/04/01	11/03/31	365	タイ山地カレン社会における生業・民族をとりまく表象と実践—商品作物生産に着目して—
3	千葉悠志	アジア	小杉泰	エジプト、レバノン、カタール、アラブ首長国連邦(UAE)	275	10/10/05	10/11/21	48	現代アラブ世界におけるメディアと国家
4	Kurniawati Hastuti Dewi	アジア	岡本正明		176	10/07/02	10/08/02	32	
5	Muhammad Hakimi Bin Mohd Shafia	アジア	小杉泰	マレーシア	261	10/10/04	10/12/05	63	Islamic Finance for Agricultural Development: Theoretical and Practical Considerations, with a Reference to Activation of Idle Land in MalaysiaSpecial
6	Nipaporn Ratchatapattanakul	アジア	小泉順子	タイ	176	10/07/02	10/08/02	32	バンコクの社会史—近代における「公共性」をめぐる諸問題を中心に
7	Nobpaon Rabibhadana	アジア	速水洋子	タイ	230	10/08/06	10/09/18	44	Life and Formation of families within the community of laborer from Myanmar in Maesot and Samutsongkhram(Thailand)
8	泉直亮	アフリカ	太田至	タンザニア	520	10/09/01	11/03/31	212	東アフリカ農村社会における民族移動にともなう生業の新展開と外部社会との動態的關係
9	伊藤千尋	アフリカ	島田周平	ザンビア	405	10/06/15	10/07/25	41	生業の選択と実践における社会的ネットワークの機能: ザンビア南部州を事例に
10	姜明江	アフリカ	島田周平	ザンビア、ナミビア	495	10/09/13	10/11/30	79	アフリカ社会で必要とされる痛みのケアと緩和医療の現状—ハンセン病回復者定着村の事例から—
11	砂野唯	アフリカ	伊谷樹一	エチオピア	540	10/08/15	10/12/01	109	穀物の地下貯蔵庫ボロタの機能と役割—エチオピア・デラシェ特別自治区の事例を中心に—
12	關野伸之	アフリカ	山越言	セネガル	585	10/09/02	11/02/28	180	西アフリカの海洋保護区における沿岸総合管理に関する研究
13	成澤徳子	アフリカ	島田周平	ザンビア、ナミビア	630	10/08/01	11/01/31	184	アフリカ農民の農外就業と社会的ネットワークに関するジェンダー—人類的研究
14	久田信一郎	アフリカ	重田真義	エチオピア	520	10/05/08	10/08/31	116	地域住民の参加型研究を可能にする空間情報活用のためのインターフェイス開発の試み—エチオピア農村における土地利用の分析のために
15	溝内克之	アフリカ	池野旬	タンザニア	540	10/10/03	11/01/15	105	タンザニア・チャガ人の都市・農村関係の歴史的構築過程と現在の諸相
16	宮田寛章	アフリカ	高田明	トーゴ	600	10/09/01	11/03/30	211	トーゴ、カリスマティックチャーチにおける表象のコンテキストと日常生活の再編
17	山本佳奈	アフリカ	伊谷樹一	タンザニア	280	10/07/10	10/08/15	37	タンザニアの農村における住民の自然資源の利用・管理に関する研究

前期申請者

	18	小西龍一郎	アジア	藤田幸一	タイ	150	10/11/01	10/12/31	61	東北タイにおける農村金融と土地なし貧困層
	19	紺屋あかり	アジア	水野康祐	ベラウ共和国	150	11/01/08	11/03/31	83	ミクロネシア地域ベラウ共和国における詠唱文化に関する文化人類学的研究
	20	栃堀木綿子	アジア	東長靖	フランス、アルジェリア	200	11/01/08	11/02/10	34	アルジェリアの歴史表象—アミール・アブドゥルカーディル・ジャザーイリーを巡って
後 期 申 請 者	21	原田ゆかり	アジア	小林繁男	インドネシア、シンガポール	150	11/01/20	11/03/31	71	マラッカ海峡におけるマングローブ林生態系の地域利用と保全
	22	Cherry Amor Dugtong-Yap	アジア	岡本正明	名古屋、静岡、東京	100	10/10/15	10/10/31	18	The Filipino Diaspora in Japan: From Entertainers to Community Builders?
	23	Le Zhang	アジア	小林繁男	中国	150	11/01/05	11/02/23	50	Long-term rural livelihood transition in Yunnan, China
	24	臼井拓	アフリカ	梶茂樹	セネガル	350	10/11/20	11/03/20	121	セネガル共和国サールム・デルタ地域におけるセレール漁民の環境利用と生業変容に関する人類学的研究
	25	首藤あずさ	アフリカ	梶茂樹	シエラレオネ共和国	350	11/01/11	11/03/28	77	シエラレオネ国内で孤立するクリオにとっての養子縁組とは何か
	26	Ngalande Sande	アフリカ	梶茂樹	ザンビア	300	10/10/01	11/01/08	100	A Linguistic and Ethnographic Analysis of Nsenga Proverbs

## 5.2 若手養成・研究部会

若手養成・研究部会の活動は、主に以下の2本の柱から成る。1) 特定助教 (G-COE) 2名と特定研究員 (G-COE) 3名、非常勤研究員 (G-COE) 4名に対して、本プロジェクトの中核となって調査研究を推進することを指導し支援した。2) 11件の個人・グループの調査研究のために、総額650万円の「次世代研究イニシアティブ助成」を支給し、その活動を支援した。それら理系・文系の広い分野にまたがる若手研究者が、随時研究会を開いて情報・意見交換を行い、生存基盤持続型の発展を目指した学際的共同研究の可能性を積極的に探求することを奨励した。

加えて、生存圏研究所およびインドネシア科学院 (LIPI) とともに、インドネシア・リアウにおいて「生存圏科学スクール (Humanosphere Science School)」を共催した (平成22年6月10-12日)。また本プログラムのイニシアティブ4との共催で、若手研究者を対象としたシンポジウム「人間圏の再構築に向けて—親密圏・レジリエンス・知の接合」(平成23年3月11-13日)を開催した。

特定助教と特定研究員の他に、若手養成・研究部会が研究を支援した若手研究者は、平成19年度が博士課程大学院生11名、ポスドク研究員18名、平成20年度が博士課程大学院生16名、ポスドク研究員13名、平成21年度が博士課程大学院生6名、ポスドク研究員14名であった。平成22年度は、次世代研究イニシアティブ助成に加えて、生命圏科学スクールおよび研究合宿への参加助成により、博士課程大学院生25名、ポスドク研究員23名に対し、総額約800万円の支援を行った。

### 5.2.1 特定助教・特定研究員および非常勤研究員の活動

2名の助教と7名の研究員は、生存基盤に係わる問題系に積極的に取り組んで調査研究を行った。佐藤孝宏と和田は、生存基盤指数の策定に中心的な役割を果たしており、またその過程で第2パラダイム研究会を立ち上げるとともに、国際シンポジウム「持続型生存基盤指数の開発に向けて」において報告をおこなった。西は、イニシアティブ4の課題である「人間圏の再構築」に関わる研究成果の取りまとめに中心的な役割を果たすとともに、佐藤孝宏と共同でパラダイム研究会の運営にあたった。また藤田、増田、レトノ、渡辺は、それぞれリアウにおける共同フィールド調査に従事するとともに、イニシアティブ2の研究成果の取りまとめにも貢献している。佐藤史郎と舟橋は、イニシアティブ1の成果取りまとめに貢献するとともに、第二パラダイム研究会の議論にも参加している。各々の研究成果は、各自専門分野の論文として公表しているのに加えて、GCOEの最終成果出版物にも反映される予定である。

### 5.2.2 次世代研究イニシアティブ・研究助成の交付

以下の11件の研究課題に対して、総額650万円の助成を行った(研究代表者氏名、所属、研究課題、助成額の順に記載)。

1. 古市剛久、東京農工大学環境リーダー育成センター特任准教授、アジアの大流域にお

- ける開発と持続性及び河川防災：ミャンマー・エーヤワディー河における 21 世紀初頭の現状と土地・水質源情報整備、900,000 円
2. 藤田素子、東南アジア研究所特定研究員、大規模プランテーションを含む景観における鳥類の多様性研究、490,000 円
  3. 森拓郎、生存圏研究所助教、インドネシア木造住宅の生物劣化被害調査、600,000 円
  4. 佐藤奈穂、東南アジア研究所非常勤研究員、死別・離別女性のリスクに対応する社会関係、450,000 円
  5. Haris Gunawan、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程、The Estimation Amount of Biomass and Carbon Content on Varying Types of Tropical Peat Swamp Forest In Riau's Biosphere Reserve, Sumatra, Indonesia、510,000 円
  6. 佐藤史郎、東南アジア研究所特定研究員、非西洋的国際関係論の再検討—アジア・アフリカ地域の視点から、860,000 円
  7. 濱元聡子、東南アジア研究所研究員（科学研究）、〈被災地〉から〈かかわる場〉へ—生存基盤が支える個人とコミュニティの復興再生の研究、840,000 円
  8. 宮西香穂里、琉球大学国際沖縄研究所客員研究員、米軍基地と基地周辺社会との関係をめぐる人類学的研究—沖縄、韓国とフィリピンのアメラジアンを事例に、500,000 円
  9. 秋山晶子、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究員、南インドと欧米を結ぶ有機農産物の生産・流通・市場—代替的な農業をめぐる食の人類学的研究、500,000 円
  10. 竹田敏之、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科研究員、グローバル化時代における先端科学用語のアラビア語化、500,000 円
  11. 岩間春芽、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程、ネパール北西部農村における仕事と社会変化、350,000 円

### 5. 2. 3 研究会・シンポジウム等の開催

若手研究者による新たなパラダイムの創出を支援する目的で、以下の研究会・シンポジウムを開催した。

- 次世代研究イニシアティブ報告会（平成 22 年 3 月 27 日）

2009 年度次世代研究イニシアティブ助成の対象となった研究課題の成果報告会を開催した。報告者および発表題目は以下のとおりである。

1. 石坂晋哉（東南アジア研究所研究員）「インド環境運動による「生存基盤持続型発展」の規範・制度の構築」
2. 伊藤義将（ASAFAS 研究員）「エチオピア南西部、山地森林域における生存基盤としての『コーヒーの森』の持続的利用の可能性」
3. 海田るみ（生存圏研究所研究員）「熱帯人工林持続のための樹木の育種研究」
4. 北守顕久（生存圏研究所助教）「東南アジア諸地域における次世代現地型構法の開発に

に向けた木造建築実態調査」

5. 佐川徹 (ASAFAS 研究員) 「東アフリカ紛争多発地域において外部介入が生存基盤の再生に果たす役割」
6. 藤田素子 (東南アジア研究所特定研究員) 「熱帯大規模アカシア植林地における鳥類相の変化に起因する物質循環への影響」
7. 西真如 (東南アジア研究所特定研究員) 「エチオピア南西部の農村における生産・労働と HIV/AIDS の影響を受けた世帯 の生存基盤」
8. 宮本万里 (東南アジア研究所研究員) 「ブータンの民主化プロセスにおける開発・環境政策の変容と村落社会の価値体系の再編 に関する政治人類学的研究」
9. 渡辺一生 (東南アジア研究所研究員) 「東北タイ農民の生存戦略における自給的稲作の位置づけ」
10. 渡邊一哉 (東南アジア研究所研究員) 「東南アジア沿岸域が提供する生態資源と利用するヒトの動態」
11. 浜元聡子 (東南アジア研究所研究員) 「被災地に生きる選択ー生存基盤の確保と地域防災対策をめぐる研究」
12. Haris Gunawan (ASAFAS 院生) "The Ecological Characteristic of Peatland Ecosystem in Giam Siak Kecil -Bukit Batu Biosphere Reserve, in Riau Province, Sumatra, Indonesia."

#### ○「人間圏を解き明かすー人間の生存、人びとのつながり」(平成 23 年 3 月 11-13 日)

イニシアティブ 4 との共催で、若手研究者や大学院生による研究報告と討論を通して新たなパラダイム形成につなげるためのシンポジウムを実施した。趣旨文および報告者は次の通り。

趣旨文：

大規模な環境変動やエネルギーの枯渇が抜差しならない問題となりつつある現在、私たちはいかなる価値観をもち、いかなる方向を目指すべきかについて再考する必要性が高まっている。本 GCOE プログラムでは、資本の蓄積と生産性の向上を核とする既存の「生産」パラダイムを超えて、持続的に人々の「生存」を支える社会を構築することが重要であるとの認識のもと、多分野の研究者が連携しながら議論を進めてきた。「生存を支える『地域／研究』の再編成」(2008 年度)、「人間圏を解き明かす」(2009 年度)に続いて第 3 回目を迎える本シンポジウムでは、「親密圏」「レジリエンス」「知の接合」といった問題系に焦点を当てながら、人間圏の再構築に向けて議論を行いたい。

主流の開発ディスコースが指し示すような行程、例えば個々人のケイパビリティを高めることで力強い市民社会を構築したり、自然の客体的操作にもとづいて生産の効率化を推し進めるといった道筋が持続的な生存基盤に導くと考えることは、今日ではますます困難になっている。ここで「親密圏」と呼ぶのは、そこで見過ごされてきた、人々が具体的な他者と関係し、かつ他者の困難に応答しうることによって可能になるケアの実践、またそのような実践がつくりだす多様なネットワークであり、「レジリエンス」と呼ぶのは、不確実性を内包する自然のうえに柔軟な生存基盤を築き、それを持続させる人びとの力のこ

とである。これらの目的は、ローカルな知や技術・制度だけでも、科学技術や、市場や国家のような「インパーソナルな」諸制度だけでも達成されえない。この両者をいかに関係づけるかということが「知の接合」という問題系である。

本シンポジウムの目的は、以上のような問題について、具体的な事例の検討を通じて分野横断的な議論を行うことで、持続的な生存基盤に向けた人間圏の再構築の方向性を見定めることである。

報告者および演題：

1. 石本雄大（総合地球環境学研究所）「ブルキナファソの半乾燥地域における生計維持システムの研究—早魃や虫害への適応および対処行動に関する統合的分析」
2. 澤野美智子（神戸大学）「「親密圏」としての「家族」？—韓国の家族研究の展望」
3. 山本佳奈（京都大学）「湿地における「個人の土地」と「みんなの土地」のせめぎあい—タンザニア農村部の耕地と放牧地をめぐる住民の対立」
4. 鈴木遙（京都大学）「森林へのケア—インドネシア東カリマンタン州沿岸村落における木造住居の修理・建て替えを事例に」
5. 岡部真由美（国立民族学博物館）「現代タイにおける開発と僧侶をめぐる—考察—寺院および地域コミュニティにおける僧侶の実践とネットワーク形成を中心に」
6. 浅野史代（名古屋大学）「ブルキナファソ、ビサ社会における女性の生活と「開発」の関係」
7. 渡辺文（一橋大学）「関係性としてのスタイル—オセアニア芸術における個性と集合性の調停メカニズム」
8. 徳安祐子（九州歯科大学）「精霊がつなぐ人と自然—ラオス山地民カタンの村の事例から」
9. 大橋美晴（大阪大学）「新たな「市民性」創出としての先住民教育：ボリビア農村のコムニダにおける農村教師の教育実践から」
10. 李豪軒（大阪大学）「電子業界における日本企業と台湾企業のエンジニアの比較—共同体意識と「株」からの考察」

#### 5.2.4 生存圏科学国際スクールとシンポジウムへの若手研究者派遣

生存圏研究所、東南アジア研究所、G-COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」、およびインドネシア科学院 (LIPI) の共催により、平成 22 年 6 月 10-12 日にインドネシア・ジョグジャカルタにおいて開催された第 4 回生存圏科学スクール (Humanosphere Science School) に、若手養成・研究部会として Mohamad Najmul Islam (ASAFAS 院生)、浜元聡子 (東南アジア研究所研究員)、木下博子 (ASAFAS 院生) の 3 名を派遣した。生存圏科学スクールにおける各自の報告演題は次の通り。

1. Mohamad Najmul Islam, “Survival Strategies of the Riverbank Erosion Displaces: A Study on Padma River in Bangladesh”
2. Dr. Satoko Hamamoto, “Tracing Commitments to Disaster Restoration: Anthropological

Approaches in South Sulawesi and Yogyakarta”

3. Hiroko Kinoshita, “Indonesia al-Azharies in Contemporary Cairo: Through the Perspective of the Network Analysis”

#### 5.2.5 若手研究者の G-COE 国際シンポジウムへの貢献

GIS-IDEAS 国際学会 (The International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth & Allied Sciences) との共催により、ベトナム・ハノイ工科大学において、G-COE 国際シンポジウム「持続型生存基盤指数の開発に向けて (Towards the development of Sustainable Humanosphere Index)」を実施した(平成 22 年 12 月 9-11 日)。

G-COE 特定助教・研究員としては、佐藤孝宏助教および和田研究員が研究報告を行った。また西助教が、コメンテーターを務めた。このシンポジウムについて特筆すべきは、佐藤助教および和田研究員をはじめとする、本プログラムの若手研究者が中心となって、共催者である GIS-IDEAS 国際学会との綿密な打合せ・交渉を行いながらセッションを企画した上で、国内外の研究者に呼びかけ、「持続型生存基盤指数」の開発に向けた討論を実現した点である。

GIS-IDEAS 国際学会との共同セッションに関するセッション・ステートメントおよびプログラムは次の通りである。

### “Envisioning Environmental Security for Sustainable Development”

International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences (GIS-IDEAS)

9-11 December 2010, Hanoi, Vietnam

Joint Sessions with Kyoto University Global COE Program “In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa”

### **Towards the development of Humanosphere Index**

#### **Session statement**

We are currently running a Japanese government funded large-scale research project "In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa" at Kyoto University. The project is being carried out in a thoroughly interdisciplinary fashion, and researchers involved include area studies specialists as well as specialists in politics, economics, anthropology, agronomy, ecology, life science, wood science, sustainability studies, atmospheric science, electrical engineering, among others.

One of our research program aims is to develop global index, which name is “Humanosphere Index” to assess the fitness to “Sustainable Humanosphere paradigm”. “Humanosphere” is the term indicating ecological and social environment in which local people live, and composed by the three

spheres; Geosphere, Biosphere and Humanosphere (in a narrow sense). We believe that Sustainable Humanosphere will be realized by caring the original logic of three spheres: Circulation / Fluctuation (Geosphere), Selection / Adaptation (Biosphere) and Selves / Sympathy (Humanosphere). The index integrates indicators related to human interactions with other spheres, such as consumption of geospheric resources and efforts to conserve biodiversity. Human interaction would also include capacity to deal with geospheric disasters and efforts to control infectious disease. In these joint sessions, we hope to discuss the inter-spheric relationship between humanosphere and Geosphere / Biosphere in the local context, to discipline our development process of the index.

In the former session, we would like to discuss about the relationship between Geosphere and Humanosphere, focusing on flood. Flood is normally recognized as the disaster because it damages the human livelihood. However, different aspects of the flood also can be recognized, such as fertile soil movement. Desirable relationship between flood and humanity could be achieved by the deep understanding of its nature, and we might find it in the local knowledge. Through the presentation about the flood occurring in the three geologically different locations (Hanoi City, Mekong river delta and Red River Delta), we want to discuss how we can/should care for the original logic of geosphere.

In the latter session, we would like to discuss about the relationship between Biosphere and Humanosphere, in terms of the resource management and infectious-disease control. Firstly, drawing from public health issue, we discuss the distribution of infectious disease as an inter-spheric uncertainty accelerator. Then, we would focus on how to develop natural resource governance in a multi-ethnic area. Symbiosis within the humanosphere might be developed from the awareness of importance of biocultural diversity. Inter- and intra-spheric symbiosis would lead to human security and the sustainable humanosphere.

## **Joint Session Program**

**Dec 9<sup>th</sup>, 2010.**      Keynote Lectures      (10:330min)  
 10:30-12:30      “The Global COE (Center of Excellence) Program on Sustainable  
 Humanosphere at Kyoto and the Concept of a Humanosphere Index  
 by Kaoru Sugihara (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)

**Dec 10<sup>th</sup>, 2010**      Joint session      Chair: Takahiro Sato, Shiro Sato and Taizo Wada

13:00- 13:10      Introduction of the session  
 by Takahiro Sato (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)

### **Part 1: Flood and Human Development**

13:10- 13:15      Introduction of Part 1  
 by Shiro Sato (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)

- 13:15- 13:45 “A Hydro-Dynamic Model of Urban Flooding in Hanoi”  
by Pham Quy Nhan (Center for Water Resources Planning and Investigation, Hanoi, Vietnam)
- 13:45- 14:15 “Production for subsistence and agricultural cooperative in the Red River Delta, Vietnam”  
by Masayuki Yanagisawa (Center for Intergrated Area Studies, Kyoto University)
- 14:15-14:45 “Living with flood in Mekong River Delta, Vietnam”  
by Pham Van Cu (International Center for Advanced Research on Global Change,  
Vietnam National University)  
Le Xuan Thuyen (Ho Chi Minh University)
- 14:45-15:00 Break

**Part 2: Bio-Cultural diversity and symbiosis in our humanosphere**

- 15:00- 15:05 Introduction of Part 2  
by Taizo Wada (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)
- 15:05- 15:45 “Spatial analysis of influenza and cholera activities in temperate zones or/and the tropics by using a geographical information system”  
by Hiroshi Suzuki (Niigata Seiryō University / Niigata University)
- 15:45- 16:15 “Biocultural diversity: towards resilience in social-ecological systems”  
by Nathan Augustus Badenoch (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)
- 16:15-17:45 General Discussion  
Commentators:  
Osamu Kozan (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)  
Makoto Nishi (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)  
Yoichi Mine (Graduate School of Global Studies, Doshisya University)

### 5.3 海外派遣助成

国際的なディベート力を向上するため、日本学術振興会研究者海外派遣基金から助成を受けて実施している「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」と連携して、若手研究者の海外研究機関への派遣を推進してきた。平成 22 年度に「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」によって海外の研究機関に派遣された者は、のべ 25 名である。その中には、グローバル COE 特定助教が 1 名、同特定研究員が 3 名、同非常勤研究員が 3 名含まれており、派遣先国はイギリス、フランス、オランダ、インドネシア、マレーシア、ベトナムであった。これにより、派遣者の英語等での研究発表およびディベート能力が格段に向上するとともに、研究ネットワークを欧州および東南アジア諸国へと広げる効果があった。

なお「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」は、将来を担う国際的視野に富む有能な研究者を養成することを目指し、若手研究者を対象に、海外の研究機関や研究対象地域において研究を行う機会を組織的に提供する事業である。東南アジア研究所では、地域と世界を架橋し、「地域の知」に根差した「地球共生」理念を、地域の人々との協働により実現する創発的で実践的な社会発展モデルを構築するために、現地語に堪能で長期のフィールドワークの経験をもつ若手研究者を東南アジア諸国や世界諸地域の地域研究関連研究組織に派遣することを目的として、この事業を実施している。同プログラムによる平成 22 年度の派遣一覧は次ページの表の通りである。

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム 平成22年度派遣者一覧

氏名	派遣期間		日数	派遣先	研究課題
	(出発日)	(帰国日)			
KUSUMANINGTYAS Retno	H22.5.14	H22.7.26	74	Center for Agricultural Development Studies, Riau University (インドネシア)	Migrant Community and their natural resource management in Riau Province, Sumatra, Indonesia
蓮田隆志	H22.5.26	H22.8.8	75	オーストラリア国立大学アジア・太平洋研究院 (オーストラリア)	近世ベトナムにおける「伝統」社会・地域社会形成における外来者
SURYOMENGGOLO Jafar	H22.7.21	H22.8.10	21	Royal Netherlands Institute of Southeast Asian and Caribbean Studies at Leiden (オランダ)	History of Indonesian Labour Movement, 1945-1950
KUSUMANINGTYAS Retno	H22.8.3	H22.10.21	80	Center for Agricultural Development Studies, Riau University (インドネシア)	Migrant Community and their natural resource management in Riau Province, Sumatra, Indonesia
中口義次	H22.9.4	H22.9.27	24	国立衛生疫学研究所 (ベトナム)	東南アジアでダイナミックに広がる腸管感染症の多角的解析と比較研究
SURYOMENGGOLO Jafar	H22.9.15	H22.9.28	14	Trade Union Rights Center, Jakarta (インドネシア)	Indonesian Migrant Workers and their literature product
藤田素子	2010/9/22 2010/10/21	2010/10/18 2010/10/27	34	サバ公園局 (マレーシア)	大規模プランテーションを含む景観における鳥類の多様性研究
	H22.10.19	H22.10.20	2	Riau University 理学部 (インドネシア)	大規模プランテーションを含む景観における鳥類の多様性研究
渡辺一生	2010/10/3 2010/12/2 (2010/9/28(土)出発)	2010/11/23 2010/12/30	81	Riau University 理学部 (インドネシア)	インドネシア・リアウにおける森林バイオマス推定のためのグランドトゥールズデータの取得
和田泰三	2010/10/4 2010/12/13	2010/12/6 2010/12/18	70	University of Leicester, Department of CardioVascular Science (イギリス)	高齢者の起立性低血圧と生命予後の関連
	H22.12.7	H22.12.12	6	Hanoi University of Mining and Geology (ベトナム)	高齢者の起立性低血圧と生命予後の関連
増田和也	H22.10.11	H22.11.12	33	Riau University 理学部 (インドネシア)	インドネシア、泥炭地帯の開発過程における旧住民・移民・開発企業間の社会関係の解明
中口義次	H22.10.14	H22.11.7	25	プリンスオブボンクラ大学理学部 (タイ)	東南アジアでダイナミックに広がる腸管感染症の多角的解析と比較研究
鮫島弘光	H22.10.28	H22.11.6	10	サバ州森林局 (マレーシア)	自動撮影カメラによる熱帯雨林の地上徘徊性哺乳類多様性調査手法の確立
	H22.11.7	H22.12.29	53	Riau University 理学部 (インドネシア)	自動撮影カメラによる熱帯雨林の地上徘徊性哺乳類多様性調査手法の確立
嶋田奈穂子	H22.11.1	H23.1.21	82	Laos National University (ラオス)	ラオスの地域社会における「鎮守の森」を中心とした神聖空間の立地特性と住民の暮らしに関する研究
藤田素子	H22.11.7	2010/12/11 (11/29(土)-2012科学技術振興費補助金経費)	35	Riau University 理学部 (インドネシア)	大規模プランテーションを含む景観における鳥類の多様性研究
KUSUMANINGTYAS Retno	H22.12.7	H23.2.6	62	Riau University 理学部 (インドネシア)	Migrant Community and their natural resource management in Riau Province, Sumatra, Indonesia
佐藤孝宏	H22.12.15	H23.2.15	63	フランス国立農業開発国際協力センター (フランス)	オブジェクト指向プログラミング言語Smalltalkを用いた自然資源管理モデルの構築
UAMTURAPOJN, Pichai	H22.12.23 (出発は12/23)	H22.12.28	6	コンケン大学メコン研究所 (タイ)	Interaction of informal institution in Mekong's transboundary infrastructure
	H22.12.29	H23.1.6	9	Mekong River Commission (ラオス)	Interaction of informal institution in Mekong's transboundary infrastructure
北村由美	H23.1.10	H23.3.11	61	International Institute for Asian Studies, Leiden University (オランダ)	インドネシア華人の移動
瀬戸裕之	H23.1.10 H23.3.6	H23.2.15 H23.3.10	42	ラオス政治行政学院 (ラオス)	ラオスの土地・森林政策をめぐる中央地方関係
	H23.2.16	H23.3.5	18	ポール・セザンヌ大学 (フランス)	ラオスの土地・森林政策をめぐる中央地方関係
増田和也	H23.1.15	H23.3.22	67	Riau University 理学部 (インドネシア)	インドネシアにおけるアブラヤシ栽培の拡大と地域社会における土地利用と社会関係の変容についての研究
佐藤史郎	H23.1.28	H23.2.28	32	Institute for Area Studies, Leiden University (オランダ)	アジア地域研究をベースとする非西洋的国際関係理論の構築を目指して
中口義次	H23.1.29	H23.2.20	23	アンダラス大学医学部 (インドネシア)	東南アジアでダイナミックに広がる腸管感染症の多角的解析と比較研究
秋山晶子	H23.2.20	H23.5.4	74	Wayanad Social Service Society (インド)	南インドと欧米を結ぶ有機農産物の生産・流通・消費一帯的農業をめぐる食の人類学的考察
KUSUMANINGTYAS Retno	H23.3.4	H23.4.4	32	Van Vollenhoven Institute for Law, Governance and Development, Leiden University (オランダ)	Effect of Bio-fuel project on rural community in Indonesia
中口義次	H23.3.14	H23.3.29	16	Faculty of Biotechnology and Biomolecular Sciences, Universiti Putra Malaysia (マレーシア)	東南アジアでダイナミックに広がる腸管感染症の多角的解析と比較研究

#### 5.4 アジア・アフリカ人材育成

優秀な大学院生に対する経済的支援は本プログラムの目的の一つである。そこで、平成20年度より博士号取得支援と若手研究者交流を開始した。

博士号取得支援については、平成21年1月に3名の若手研究者（マレーシア、バングラデシュ、インドネシア各1名）を招へいし、ワークショップを開催した結果、3名とも大学院アジア・アフリカ地域研究研究科への編入を推薦することになった。3名は編入が認められ、3名が平成21年4月から5年一貫制博士課程の第3年次に編入し、今年度は2年目を迎えて、積極的に研究、フィールドワークを展開した。

3名の研究の進展を確実なものとするため、本プログラムの運営委員会の中に指導教員群（各3名）と連携する「リエゾン委員」を設け、適宜研究状況のモニターをおこなってきた。22年度において、3名とも順調に研究活動を遂行した。年度末のリエゾン委員からの報告では、3名とも1年後の学位取得が見込まれている。

なお、3名の研究生生活の経済的な側面について言えば、1名は日本学術振興会特別研究員（DC）（グローバルCOE 枠）に採用され、もう1名は本プログラムのRAとして採用、そして残りの1名は本国政府からの奨学金を財政的基盤としており、3名とも十分なサポートがなされている。

## 6. 研究イニシアティブ

### 6.1 パラダイム研究会

研究イニシアティブは、プログラムのメンバーが4つのイニシアティブにわかれて共同研究を行うために設置された。パラダイム研究会は、本報告書の2で述べた「パラダイム形成」という目標を担うとともに、イニシアティブ相互の関連や全体の流れを議論する、本プログラムの中心となる研究会である。

地域研究に社会・制度・経済等のグローバル化の視点を導入することはこれまでも行われてきたが、この研究会ではさらに気候や生態等の自然科学の視点とテクノロジーの視点を取り入れることで視野の拡大を図ってきた。逆に理論・技術の一般化の限界が叫ばれ、研究の複合化が期待される自然科学者や技術者にとってローカルな視点、歴史的視点を導入することは、研究を新たな地平へと導くこととなる。

過去のパラダイム研究会の活動を通じ「生産から生存へ」「圏間のつながり」「生のつながり」「親密圏と公共圏」等のキーワードが生まれた。また生存基盤指数の策定を念頭に置いて「国際規範の指標化」が議論されたことに加え、東南アジアや南アジアといった諸地域の生存基盤をマルチディシプリナリーな視点から長期の発展経路として理解しようとする議論も行われた。パラダイム研究会の活動は4つのイニシアティブの活動に/からスピノフ/インされ、グローバル COE としてパラダイム形成に向けた議論の深化に貢献してきた。

#### 6.1.1 パラダイム研究会の開催

平成22年度には、10回のパラダイム研究会が開催された。詳細は以下の通りである。

「持続型生存基盤パラダイムの構築に向けて」[第27回研究会]2010年4月19日

杉原 薫 「持続型生存基盤論研究の課題と方法：最終成果に向けて」

藤田幸一（イニシアティブ1）

柳沢雅之（イニシアティブ2）

水野広祐（イニシアティブ3）

速水洋子（イニシアティブ4）

佐藤孝宏（第2パラダイム研究会）

『地球圏・生命圏・人間圏』書評会」[第28回研究会]2010年5月17日(月)

谷誠（京都大学大学院農学研究科）

池谷和信（国立民族学博物館）

「インドネシア共同調査報告会」[第29回研究会]2010年6月21日(月)

全体報告（水野広祐）

バイオマスチーム（川井秀一・渡辺一生）  
多様性チーム（鮫島弘光・藤田素子）  
社会チーム（水野広祐・増田和也）

「熱帯半乾燥地における生存基盤」[第30回研究会] 2010年7月12日(月)  
舟橋和夫（龍谷大学社会学部）  
伊谷樹一（ASAFAS アフリカ専攻）

「生命圏と人間圏の多様性」[第31回研究会] 2010年9月28日(火)  
Nathan Badenoch（京都大学東南アジア研究所）“One less butterfly, one less language - who cares? Considering biocultural diversity and the future of governance”

「最終成果出版に向けて：第3巻の構想」[第32回研究会] 11月1日（月）  
報告1：「3つの圏の論理と生存基盤指数への展開」  
佐藤孝宏（G-COE 助教）  
報告2：「生存基盤持続型社会に向けた人間圏の再構築：生のつながりからケアまで」  
速水洋子（京都大学東南アジア研究所教授）  
報告3：「ケアの実践と社会のレジリエンス」  
西真如（G-COE 助教）

「最終成果出版に向けて：第1巻の構想」[第33回研究会] 11月12日（金）  
杉原薫（京都大学東南アジア研究所教授）  
脇村孝平（大阪市立大学大学院経済学研究科教授）  
峯陽一（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

「最終成果出版に向けて：第4巻の構想」[第34回研究会] 2011年1月24日(火)  
水野広祐（京都大学東南アジア研究所教授）  
川井秀一（京都大学生存圏研究所教授）  
藤田素子（京都大学東南アジア研究所特定研究員）

「最終成果出版に向けて：第2巻の構想」[第35回研究会] 2011年2月16日(水)  
柳澤雅之（京都大学地域研究統合情報センター准教授）  
河野泰之（京都大学東南アジア研究所教授）  
神崎護（京都大学大学院農学研究科准教授）

「最終成果出版に向けて：第5巻の構想」[第36回研究会] 2011年3月28日（月）  
報告1「第5巻の趣旨と構成」  
佐藤孝宏（G-COE）  
報告2 「第1編 既存指標の生成過程とその批判的継承（主章である第1章に関して）」  
峯陽一（同志社大学）

報告3 「人間圏の指標化とその限界（第2編および第3編の内容について）」

和田泰三（G-COE）

報告4 「地球圏・生命圏の指標化とその限界（第2編および第3編の内容について）」

佐藤孝宏（G-COE）

平成22年度においては、これまでの本プログラムの成果を確認しつつ、最終成果出版を見すえて各研究イニシアティブ間の合意を形成することが、パラダイム研究会の中心的な課題となった。西、佐藤（孝）を中心に、杉原、河野、柳澤、水野、川井、峯をはじめ各研究イニシアティブのメンバーと連携しながら、最終成果出版の各巻で想定される議論について、活発な議論が行われた。「多様性」「バイオマス社会」「ケア」「公共圏と親密圏」のように、これまで各々の学問分野で精緻な議論が行われてきた概念を、本プログラムのパラダイムに取り込むために、パラダイム研究会の場で真に学際的な討論が行われたことは、特筆に値する。

#### 6. 1. 2 国際シンポジウム

平成22年度に実施された国際シンポジウムのうち、プログラム全体のパラダイム形成との関連という観点から、特に重要と思われるのは次の3つである。

1. International Conference for Scientific Exploration and Sustainable management of Tropical Peatland Ecosystems, 20 October 2010, University Riau（イニシアティブ3とリアウ大学の共催）
2. International Conference “Towards the development of Sustainable Humanosphere Index”, 9-10 December 2010, Hanoi University of Technology（第2パラダイム研究会とGIS-IDEAS学会との共催）
3. International Conference “Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities”, 29-30 January 2011, Kyoto International Community House（GCOEとNIHUプログラム「現代インド研究」との共催）

このうち1. については本報告書の6. 4 研究イニシアティブ3の項目、また2. については5. 2. 5 若手研究者のG-COE国際シンポジウムへの貢献の項目に報告があるので、ここでは3. について、その趣旨とプログラムを以下に示しておく。

[趣旨]

Contemporary India is rapidly developing as a global power. This globalization process is not a mere encompassment under a neoliberal regime. Rather, global India is diversifying the process of globalization itself. What India is doing is important for the understanding of the entire process of globalization, because India has a historically unique capacity of absorbing, preserving and enriching diversity through enabling interactions of different peoples, things and information.

This international symposium seeks to understand global India by focusing on the historical

nature of the South Asian path of development and its implications for the contemporary world. Our hypothesis is that the South Asian path is intrinsically global in nature, arguably more so than any other comparable regional path; The Indian subcontinent lies in the center of Eurasian world and Indian Ocean world; It has been the meeting place of different peoples, cultures and social groups; And the ecological diversity in the subcontinent allowed for development of diverse social groups with different modes of living, and their interaction led not to homogenization but to heterogeneous coexistence. Thus India has always been a global arena for encounters and interactions of multiplicities. In what ways would this depth of diversity contribute to ongoing globalization in the long run? This symposium will discuss issues related to this question by organizing the following three sessions.

Session 1 “India as Global History” seeks to understand the significance of the “open” nature of India’s path of development from a long historical perspective, taking into account its ecological and geographical conditions. In particular, it will ask how the ecological diversity has been coped with and translated into the coexistence of diverse cultures and norms, and how India has succeeded in maintaining the largest population out of all tropical regions for so long a period.

Session 2 “Water-centered Perspectives of Indian Society” considers water resource and its management, as the key to understanding the South Asian path of development. Most colonial institutions that had been introduced to India were “land-based”, and the relationship between human and environment has since been mediated through the system of landholding and modern tax systems and legal institutions based on it. This leaves a number of important human-nature interactions, fundamental to shaping the development path, unaccounted for; And one such phenomenon is the availability of water. The session will discuss the effects of seasonal changes in water availability and how technology and social systems developed to deal with scarcities, floods and water-borne diseases. It will also reflect on the limits of the current institutions in dealing with them, with the aim of identifying the direction of intellectual reorganization.

Session 3 “Connecting Diversities: Socio-Political Foundations of Globalization” aims to understand the present dynamism of India and its global influence by paying attention to the increasing participation of diverse social groups in public activities such as democratic politics, economic enterprises and social movements. It will be argued that India’s vast human resources had until recently been under-utilized as a result of the failure to exploit her ecological and cultural diversities to the full. The increasing public capacity that has emerged in recent years, which enables interaction and negotiation between diverse knowledge, viewpoints and values, can be seen as a significant source of strength for Global India, as well as an inspiration for the world at large.

[プログラム]

<b>January 29th</b>	
9:30～	Registration
10:00～10:10	Opening Address by Akihiro KINDA (President, NIHU)
10:10～10:20	Welcome Address by Akio Tanabe (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)
Session 1 “India as Global History” Chair: Tsukasa Mizushima (The University of Tokyo)	
10:20～10:25	Aim of Session by Kaoru Sugihara (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)
10:25～10:55	"The South Asian Path of Economic Development: A Note on Diversities and Integration" Kaoru Sugihara (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)
10:55～11:25	"Ecological diversity and transnational circulations: the case of South Asian merchants" Claude Markovits (Centre National de la Recherche Scientifique)
11:55～12:25	"The Bay of Bengal and India's Global Connections" Sunil Amrith (Birkbeck College, University of London)
12:25～12:55	"Trade as Connecting Diversities: Ecological Constraints and Cultural Resilience in the South Asian Market" Sayako Kanda (Faculty of Economics, Keio University)
14:30～15:45	Discussion by Osamu Saito (Hitotsubashi University)& Takashi Oishi (Department of International Relations, Kobe City University of Foreign Studies)
Session 2 “Water-centered Perspectives of Indian Society” Chair: Hidenori Okahashi (Hiroshima University)	
16:15～16:20	Aim of session by Kohei Wakimura (Faculty of Economics, Osaka City University)
16:20～16:50	"Cholera Pandemics and the Problem of Water in the 19th Century India" Kohei Wakimura (Faculty of Economics, Osaka City University)
16:50～17:20	"Making Modern Flows: The Great Hydraulic Transition in Colonial India" Rohan D'Souza (Centre for Studies in Science Policy, Jawaharlal Nehru University)
17:20～18:00	Discussion by Masahiko Mita(Faculty of Letters, Nagoya University)
<b>January 30<sup>th</sup></b>	
Session 2 “Water-centered Perspectives of Indian Society” (continued)	
9:30～10:00	"Whither Tank Irrigated Rural Society in Southern India?: Perspectives from the

	Recent Field Surveys in Madurai District, Tamil Nadu" Koichi Fujita (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)
10:00~10:30	"Municipal Water Reforms as Conduits of Neoliberal Governance in India" Karen Coelho (Madras Institute of Development Studies)
10:30~11:20	Discussion by Yasuyuki Kono (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)
Session 3 "Connecting Diversities: Socio-Political Foundations of Globalization" Chair: Nobuko Nagasaki (Ryukoku University)	
11:50~11:55	Aim of session by Akio Tanabe (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)
11:55~12:25	"Connection, Friction and Vibrancy: Vernacular Democracy, Circumfluent Economy and Globalization in Contemporary Rural Odisha, India" Akio Tanabe (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University)
12:25~12:55	"New Social Movements and India's Development Discourse: A Contemporary Focus" Sarmistha Pattanaik (Indian Institute of Technology, Bombay)
14:30~15:00	"Indian Democracy, the production of vernacular theories of social justice and conflict in North India" Lucia Michelutti (School of Interdisciplinary Area Studies, Oxford University)
15:00~15:30	"The Politics of Development and Identity under Globalization: 2010 Bihar State Assembly Election, India" Kazuya Nakamizo (Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University/ National Institutes for Humanities)
15:50~17:05	Discussion by Minoru Mio (National Museum of Ethnology) & Fumiko Oshikawa (Center for Integrated Area Studies, Kyoto University)
17:25~18:25	General Discussion
Chair & Concluding Remarks: Kohei Wakimura (Faculty of Economics, Osaka City University) Discussant: Haruka Yanagisawa (The University of Tokyo)	

## 6.2 第2パラダイム研究会

第2パラダイム研究会は、生存基盤指数の構築に関するプロジェクト横断的な研究会である。これまで、本グローバルCOEプログラムにおける研究活動は、プログラムメンバーが共同研究を行うために設置された4つの研究イニシアティブと、「パラダイム形成」という目標を担いつつ、イニシアティブ相互の関連や全体の流れを議論するパラダイム研究会という、5つの研究組織を中心として進められてきた。「持続型生存基盤パラダイム」を具体的に指し示す方途として開発を進めている生存基盤指数に関する研究は、当初、イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」の研究サブグループにおいて進められてきたが、プロジェクト最終成果における大きな柱の1つとなる本研究については全プロジェクトメンバーを巻き込んだ議論が必要であるとの観点から、平成22年度より新しい形で研究会を再編し、不定期に開催する研究会と、電子掲示板を活用したWebベースでの議論、という2つの軸を中心に、活動が進められてきた。

国連開発計画（UNDP）は、経済成長至上主義に対する理念的カウンターバランスとして、アマルティア・センのケイパビリティ理論に立脚した人間開発（Human Development）を提案し、その理念を実践に適用する目的で人間開発指数（Human Development Index: HDI）を1990年の人間開発報告書で初めて発表した。狭義のHDIは、「人々の生活を向上させ、人々が享受できる自由を拡大する方法を模索する」ために不可欠な、①出生時平均余命で測定される長命で健康な生活、②成人識字率と初・中・高等教育総就学率で測定される知識、③一人当たり国民総生産で測定される人間らしい生活水準、という3つの要素における各国の平均的達成状況を測定する複合指数である。しかしながら、国際規範としての地位を確立しつつある人間開発において、国連の「環境と開発に関する委員会」が1987年に発行した報告書“*Our common future*”において提唱された「持続可能な開発」という理念をどのように取り込んでゆくのかは、未だに明らかにされていない。

「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」という視点をとりこみつつ、HDIで明示的に示された人間や社会の開発への視点を失わないような発展パラダイムを形成するために、生存基盤指数では、これまでの人間中心的世界観から、地球圏・生命圏・人間圏という固有の「論理」を持つ3つの圏から世界が構成されているとする分析枠組みを用意した。それぞれの圏の「論理」を尊重しながら、「生存のための価値」と「人間開発のための価値」の双方を追求した、「生存基盤持続型の発展のための価値」を指標化するために、3つの圏と2つの価値によって構成される、6つの考察範囲に関する議論を進め、「持続型生存基盤パラダイム」を具現化した生存基盤指数を構築する。

平成22年度には、計5回の全体研究会が開催された。詳細は以下の通りである。

◎ 第1回研究会「研究会の目的と指数の理念」

2010年4月26日 16:00~18:00

1. 佐藤孝宏 (GCOE) 「第2パラダイム研究会の趣旨と生存基盤指数」
2. 和田泰三 (GCOE) 「生存基盤指数をどのように構築するか？」  
Disability Adjusted Life Expectancy (DALE)と生活機能評価の視点から」
3. 西真如 (GCOE) 「生存基盤指数の可能性：個々人の潜在能力から人格間の関係性へ」

◎ 第2回研究会「地球圏・生命圏・人間圏における既存指標のレビュー」

2010年5月31日 17:00~19:00

1. 佐藤孝宏 (GCOE) : 趣旨説明
2. 木村周平 (富士常葉大学) 「Thirty years of Natural Disasters 1974-2003:The numbers」
3. 生方史数 (岡山大学) 「Environmental Performance Index」
4. 佐藤史郎 (GCOE) 「世界ガバナンス指数 (WGI) について」

◎ 第3回研究会「ケア関連指標のレビュー」

2010年6月28日 16:00-18:00

1. 佐藤孝宏 (GCOE) : 趣旨説明
2. 西真如 (GCOE) 「ケアの公共圏的展開」
3. 中西宏晃 (ASAFAS)、佐藤史郎 (GCOE)  
「人間圏における「軍事支出」指標の意味合い—ACDA と SIPRI のデータを中心に—」
4. 牧田幸文 (龍谷大学) 「ジェンダー指標のレビュー」
5. 佐藤奈穂 (CSEAS) 「Legatum Prosperity Index と社会関係資本」

◎ 第4回研究会「これまでの研究会の総括と今後の指数構築に向けて」

2010年7月11日 13:00-18:00

1. 佐藤孝宏 「3つの圏とその論理」
2. 和田泰三 「人間圏のコア部分—ケアをどのようにはかるか」

◎ 第5回研究会 「循環型社会像の比較分析」

2010年12月22日 17:00~19:00

1. 橋本征二 (国立環境学研究所)  
「持続可能な発展 (SD) 指標のレビューと SD 指標の枠組み試案」  
コメンテータ： 湯本貴和 (総合地球環境学研究所)

上記5回の研究会を経て発展してきた生存基盤指数の理念に関し、より幅広い識者から意見を求めることを目的として、2010年12月9日~11日にベトナム・ハノイで開かれた国際会議 (International Symposium on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences) において、生存基盤指数に関する特別セッションを設けた。特別セッションの講演趣旨およびそのプログラムの詳細は、「5.2.5 G-COE 国際シンポジウム

での発表」に示した通りである。

生存基盤指数に関する上記の研究会を通じて、これまでのプログラム横断的な議論が、さらに促進された点は特筆に値する。上記5回の国内研究会および国際会議における特別セッションの開催終了をもって、第2パラダイム研究会の目的は、指数に関する全体的な議論を行うことから、具体的な指数作成へと移行した。2010年12月21日以降は、毎週火曜日午後に若手研究者を中心とした作業報告会を開催し、最終成果としての叢書第5巻「生存基盤指数からみる世界」の出版に向けて、引き続き議論を進めている。

### 6.3 研究イニシアティブ1

研究イニシアティブ1「環境・技術・制度の長期ダイナミクス」の課題は、人類が技術と制度の発展を通じてアジア・アフリカ地域の環境に与えてきた影響を歴史的にたどることによって、将来の技術・制度変化の方向を探ることである。4年目の平成22年度は、4つの研究班の研究を発展させつつ、最終成果のとりまとめに向けた作業を本格化させた。

#### 全体研究会

1. Towards Re-Construction of 'Humanosphere' from Non-Western Perspective: A Challenge to Western International Relations Theory from Africa, 2010年9月27日  
Scarlett Cornelissen 教授 (ステレンボッシュ大学) “Urban Space, Collective Memory and Identities in Post-apartheid South Africa: Reflections from Cape Town”
2. 「イニシアティブ1 研究会」2010年10月23日  
陳来幸、陳天璽、上田貴子、溝口歩「パネル・ディスカッション：華僑華人ネットワークの新世代」
3. Politics of Non-Western International Relations from Asian Perspective -, 2010年11月29日  
“International Relations as an Academic Hegemony for Asian Studies” Shiro Sato (Researcher, Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)  
“The Post-Western Turn in International Theory and the English School” Josuke Ikeda (Post-doctoral Fellow, Kinugasa Research Organization, Ritsumeikan University)  
“Dangerous Liaisons? The English School and the Construction of a “Japanese” IR” Chen Ching Chang (Assistant Professor, College of Asia Pacific Studies, Ritsumeikan Asia Pacific University)  
“A Critique of South Korean Methods of Constructing a Korean School in IR” Cho Young Chul (Post-doctoral Fellow, Department of Political Science and International Relations, Yonsei University)
4. Changing Position of India in World Politics and Security, 2010年12月14日  
Keynote Speech by Swaran Singh (Professor, Jawaharlal Nehru University)

Hiroki Nakanishi (Ph.D. Candidate, ASAFAS) “Rethinking U.S.-India Civilian Nuclear Cooperation Agreement: Trade-off between India’s Right of Nuclear Test and Nuclear Cooperation”

Shiro Sato (Researcher, CSEAS) “On the Possibility of Treaty of Non-First Use of Nuclear Weapons between India and China”

Tomoko Kiyota (Ph.D. Candidate, Takushoku University) “India’s Arms Procurement Policy: Equilibrium between Requirement of Indigenous Production and Acquisition”

5. 「東南アジア史における交易網と中継港の役割合同研究会」2010年12月19日  
川村朋貴（富山大学）「19世紀初頭の東南アジア域内貿易：ペナン、シンガポールを中心に」  
久末亮一（政策研究大学大学院）「『帝国の時代』における香港とシンガポールー 二つの経済的要衝：その連動と分岐から見る経済圏 ー」  
柿崎一郎（横浜市立大学）「東南アジア大陸部の外港～後背地関係の研究の可能性」
6. 「東南アジア史における交易網と中継港の役割」第2回合同研究会2011年2月27日  
太田淳（台湾中央研究院）「19世紀中葉、蘭領東インド外島部における非植民地産品の貿易」  
西村雄志（松山大学）「金為替本位制移行期におけるシンガポール商業会議所の役割」  
宮田敏之（東京外国語大学）「19世紀末から20世紀初頭にかけての東南アジア域内貿易：バンコク - シンガポール貿易とバンコク - 香港貿易の再検証」

「古典のなかのアジア経済史」研究会（代表 籠谷直人）

現時点におけるアジア経済史研究でしばしば言及される文献を取り上げて、その研究史的意義を検討する。

7. 「イニシアティブ1 研究会」2010年6月12日  
籠谷直人「大島真理夫編『土地の希少化と勤勉革命の比較史—経済史上の近世』（ミネルヴァ書房、2009年12月）をめぐる論点」
8. 「イニシアティブ1 研究会」2010年7月3日  
籠谷直人「最初の地球の歩き方—佐野実編『南洋諸島巡航記録』と堤林数衛翁を中心に」
9. 「古典のなかのアジア史」2010年7月17日  
論題：杉原薫、川井秀一、河野泰之、田辺明生編著  
『地球圏・生命圏・人間圏 ー持続的な生存基盤を求めて』（京都大学学術出版会、2010年3月）をめぐる「古典班」からの論点。  
報告：脇村孝平（大阪市立大学）、瀬戸口明久（大阪市立大学）

10. 「古典のなかのアジア史」 2010 年 7 月 24 日  
籠谷直人「成果報告に向けて」  
西村雄志「ケインズのインド通貨論 Part2」
11. 「イニシアティブ 1 研究会」 2010 年 10 月 30 日  
石川亮太「田保橋潔の朝鮮感」
12. 「イニシアティブ 1 研究会」 2010 年 11 月 27 日  
島田竜登「ブーケの「二重経済論」」
13. 「イニシアティブ 1 研究会」 2010 年 12 月 18 日  
陳来幸「合股論再考」

「中東・イスラーム地域における環境・技術・制度の長期ダイナミクス」研究会 (代表 小杉泰)

- (1) 生存基盤持続型のイスラーム・システムの史的展開、(2) 湾岸地域と産油経済の長期戦略、(3) 資本主義のオルタナティブとしてのイスラーム経済、を主たるテーマとして研究する。平成 22 年度は、以下のような研究会・ワークショップを行った。

14. 「オスマン朝」[「イスラーム的システムの史的展開」シリーズ] 2010 年 6 月 4 日  
林佳世子 (東京外国語大学教授)「オスマン朝」
15. 「アッバース朝」[「イスラーム的システムの史的展開」シリーズ] 2010 年 7 月 8 日  
清水和裕 (九州大学准教授)「アッバース朝」
16. Media in the Middle East: Latest Issues, 2010 年 10 月 16 日  
Touyra Guaaybess (Visiting Associate Professor, Kyoto University) "Egypt channels must enter the Arab transnational broadcasting arena, or die: the case of Nile TV international"  
HOSAKA Shuji (Senior Research Fellow, Assistant Director, JIME Center, the Institute of Energy Economics, JAPAN) "Middle Eastern Cyberspace: A New Public Sphere or the Wild East?"  
ABE Ruri (Lecturer, Sophia University) "Media, Islam and Gender in Turkey"  
CHIBA Yushi (Ph.D Student, Kyoto University) "Arab Terrestrial Network in the Satellite Era: The Case of Media City"
17. Technology, Economics and Political Transformation in the Middle East and Asia, 2010 年 10 月 9-10 日  
Dr. Touyra Guaaybess (Blaise Pascal University) "Transnational TV in Arab Countries: Geographical Considerations"

IMAI Shizuka (Kyoto University) "Jordanian-Iraqi Relationship: A Historical Review"

Nicolas BALLESTEROS (Tokyo University of Foreign Studies) "Implications of the International Court of Justice statement about Kosovo "non-illegality" in a Local and International level"

CHIBA Yushi (Kyoto University) "Changing Media Landscape in the Arab World after the 1970s"

Omed GHYAR (Tokyo University of Foreign Studies) "The Prospect of the Success of Federalism in Iraqi Kurdistan, post 2003: Historical Background"

Parwana PAIKAN (Tokyo University of Foreign Studies) "Voting for an Individual in the Multi-Member District: The Political Consequences of Afghan Electoral Law"

Ascana GURUSINGA (Tokyo University of Foreign Studies) "The Durability of Peace Agreement in Maintaining Peace; Study Case of the Implementation of Helsinki MOU in Aceh, Indonesia"

KAWABATA Aruma (Kyoto University) "The Emergence of Global Halal Food Market: A Preliminary Survey"

INOUE Takatomo (Kyoto University) "Concepts and Activities of 'Islamization of Science': Capturing an Overview through Classification of the Tendencies"

SUNAGA Emiko (Kyoto University) "Mapping Urdu Literature in Contemporary Pakistan"

Maryam SHARIATZADEH (Tokyo University of Foreign Studies) "Post Revolutionary Transformation in Iranian Women Movement"

HAGIHARA Jun (Kyoto University) "Tradition and Change in Saudi Society"

HIRAMATSU Aiko (Kyoto University) "Where Should Kuwait's Oil Wealth be Invested?: Islamists' Demands in Kuwaiti National Assembly"

KAWAMURA Ai (Kyoto University) "Achievements and Prospects of Islamic Finance in Bahrain"

Muhammad HAKIMI (Kyoto University) "Islamic Agricultural Finance in Malaysia: Prospects and Challenges"

18. Science, Institutions and Identity in the Middle East and Muslim Societies, 2011 年 2 月 12-13

日

Nabil al-Tikriti (University of Mary Washington) "The State of Middle East Studies in the American Academy"

INOUE Takatomo (Kyoto University) "Practical Activities for Islamization of Science: Cases of IIIT and Institute of Islam Hadhari"

KAWAMURA Ai (Kyoto University) "Civil Disputes in Islamic Finance: A Study on Double Legal Constraints between the Islamic and the Western"

Patrick Mason (TUFS) "Webs of Contention: A network-based analysis of the insurgency in Afghanistan"

HAGIHARA Jun (Kyoto University) "Development of Saudi political institutions and governmental structure"

IMAI Shizuka (Kyoto University) “Jordanian Iraqi Trade in the 1980s: Reflection on Internal and External Factors”

Muhammad Duhoki (TUFS) “The Kurdish ethno-nationalism and Identity in Turkey”

MASHINO, Ito (Keio University, Graduate School of Letters) “Nation-Building and the Development of Iraqi Identity under Monarchy”

KAWABATA Aruma (Kyoto University) “Islamic Law and Modern Methods of Slaughtering: A study of Halal Meat”

Muhammad HAKIMI (Kyoto University) “Farmers' Life in Malaysia and their Land Use Problems: Can Be an Islamic Solution?”

Ladislav Lesnikovski (TUFS) “The politics of Muslim identities in the Balkans”

Nicolas Ballesteros (TUFS) “The Roma Minority: Analysis of the exclusion in the post-conflict Kosovo (1999 - 2009)”

「日本の自治村落とアジアの農村」研究会（代表 藤田幸一）

わが国では近世以来の小農社会の成立に伴って、現在にいたる農村制度の骨格ができあがった。高度な自治機能を備える「自治村落」はその中核的存在である。本研究では、近世に起源をもつ農村諸制度の発展の歴史的過程を念頭に置き、その研究を深化させるとともに、それとの対比でアジア農村の諸制度について分析・考察する。

平成 22 年度は、下記の研究会を開催した。なお 20. は、最終成果とりまとめのための研究会である。

19. 「アジア農村社会構造の比較研究」2010 年 10 月 10～11 日

加治佐敬（政策大学院大学）「フィリピン・ボホール島の灌漑管理と農村社会」

「中間報告書」の合評会（発表：松本武祝、坂下明彦、大野昭彦、小林知、樋渡雅人、大鎌邦雄、生方史数、藤田幸一の各氏）

20. 「農業・森林の管理制度の広域アジア間比較—村落構造と歴史的発展径路」2010 年 12 月 23 日

大鎌邦雄（東北大学名誉教授）「日本の自治村落と農村発展及び若干のアジア間比較」

藤田幸一（京大東南アジア研究所）「アジアの多様な農業と農村諸制度及び基盤にある村落構造」

岩本純明（東京農業大学）「日本の森林政策と村落構造及び若干のアジア間比較」

生方史数（岡山大学）「アジアの森林利用と管理制度の変遷過程」

21. International Seminar on Rural Social Structure in Vietnam, January 6, 2011

Koichi Fujita (Kyoto University) “Rural Social Structure in Asia in Comparative Perspective”

Yoshihiro Sakane (Hiroshima University), “Family and Kinship System in Vietnam”

Takashi Okae (Policy Research Institute, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, Japan), “Discussing Vietnamese Village Based on Yumio Sakurai’s Book ‘The Formation of Vietnamese Village’ and others”

「東南・南アジアの工業化と資源」研究会（代表 杉原薫）

本グループでは、西洋の資本集約型・資源集約型工業化とは異なる労働集約型・資源節約型の工業化が東南・南アジアでどの程度実現したのか、そしてそれはそれぞれの地域の資源・エネルギーの賦存状況とどのように関係していたのかについての理解を深めようとしている。本年度は、科学研究費補助金基盤研究B『『化石資源世界経済』の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較史的研究』（代表研究者杉原）などとの共催で、次の研究会を開催した。

22. ワークショップ「軍事化・非軍事化のポリティカル・エコノミー—南アジア・中東地域の趨勢と変動—」2010年7月4日（長崎科研（基盤研究B）と共催）

外川昌彦（広島大学）「マハトマ・ガンディーと原子爆弾—核抑止論と非暴力運動の意味」

吉田修（広島大学）「南アジアの核開発と「核」の将来」

佐藤史郎・杉原薫・中西宏晃（京都大学）「インド軍事化の長期趨勢—SIPRI, ACDA, IISSのデータによる国際比較—」

杉原薫（京都大学）「中東軍事紛争の世界経済的文脈—石油、兵器、資金の循環とその帰結—」

酒井啓子（東京外国語大学）「イラクにおける領域アイデンティティの生成について」

23. 「イニシアティブ1研究会」2011年3月7-8日

柳澤悠（東京大学特任教授）「タミルナドゥ州における農業の長期変動—「環境制約」説に留意して—」

神田さやこ（慶應義塾大学）「インドにおける労働集約型経済発展と「エネルギー資源」

谷口忠義（新潟青陵大学）「薪炭材生産の自然へのインパクト—大径木伐採選好—」

島西智輝（香川大学）「近代日本の砂利資源の採取と管理—多摩川流域を事例として—」

斎藤修「東アジア比較環境史の課題」

小堀聡（名古屋大学）「『日本のエネルギー革命—資源小国の近現代—』をめぐって」

## 6.4 研究イニシアティブ2

研究イニシアティブ2では、人間の生存圏（*humanosphere*）が *sustainable* であるためには、地球圏（*geosphere*）や生命圏（*biosphere*）に蓄積された資源を切り取って利用するのではなく、地球圏における水・熱・大気の循環する力と、生命圏における動植物の再生する力を利用した新しい人と自然の関係について考えることを課題としてかかげた。人間側の論理を前提にするのではなく、地球圏や生命圏の成立の歴史を理解し、その論理を十分にふまえた未来型の技術開発や制度構築を考えるために、我々の活動方針を *Nature-Inspired Technology and Institutions* として議論を進めた。2010年度は、国内研究会と国際シンポジウムを通じて考えてきた。以下では、それぞれの活動について述べる。

### 国内研究会

国内研究会では、特に熱帯地域の気象変動と地域社会の対応を検討する「熱帯の気象変動研究会」、人為的な自然の攪乱が自然をどのように改変し、それが逆に人間社会にいかに関与をおよぼすかを検討する「人為攪乱研究会」、熱帯地域の自然環境の特徴と農業との関係を検討する「熱帯の農業研究資料研究会」とを実施した。これらの研究会は単独で存在するというよりもむしろ、当該テーマのもとで、さまざまな研究会と共催しながら議論を深めるための研究会であった。具体的な研究会の発表者・タイトルは以下の通りである。

- イニシアティブ2研究会（第2回人為攪乱研究会）（2010/7/7）  
谷 誠（京都大学 農学研究科 森林水文学分野 教授）「山地河川の水流出量に対する森林利用の影響はどのように評価すべきなのか？」
- イニシアティブ2研究会（イニシアティブ2・4／人為攪乱研究会 合同研究会）（2010/7/13）  
平井將公（京都大学東南アジア研究所 GCOE 研究員）「人口稠密地域における自然利用の技術と制度—セネガルのセレール 社会の事例」  
村尾るみこ（日本学術振興会特別研究員 PD）「ザンビア西部州における生計活動の再編—移動性の高い女性による 現金稼得から—」
- イニシアティブ2研究会（「中国の環境問題と生存基盤 -公害, 環境政策, 生態移民-」）（2010/7/23）  
別所裕介（広島大学・平和構築連携融合事業(HiPeC) 研究員）「チベット東縁部・黄河源流域の生態移民と民俗文化の行方」  
児玉香菜子（千葉大学文学部日本文化学科・助教）「内モンゴル西部・黒河流域の生態移民と牧畜文化の行方」  
張玉林（南京大学社会学系・教授）「生態・環境災難の社会的分配と社会対応：中国山西省を中心に」  
山田勇（京都大学・名誉教授）「中国辺境域とアジア海域での生態資源利用の変遷に関わる中国人の役割」
- 「グローバル環境問題をめぐる政策の動向と課題—地域社会との接合を目指して—」（イニシアティブ2 研究会）（2011/3/27）

- 宮内泰介 (北海道大学) 「これからの環境保全—半栽培と順応的ガバナンス—」  
 佐藤 哲 (長野大学) 「生態系サービス概念の可能性と課題—科学と地域の協働に向けた地域環境学ネットワークの取り組みをめぐって」  
 金沢謙太郎 (信州大学) 「サラワクの熱帯雨林とグローバリゼーション」  
 小坂康之 (総合地球環境研究所) 「ラオスにおける産米林の形成と利用」  
 平井将公 (京都大学) 「セネガルのセレール社会における農地林の利用—アクター間の交錯に着目して—」

### 国際シンポジウム

- イニシアティブ2研究会 (2010/12/13~16)
  - David Hastings (U. S. Department of Commerce, NOAA National Climatic Data Center) 「HDX, HSX に関する研究打合せ」
- イニシアティブ2研究会 (ワークショップ: 「雲霧林と林冠部を探る: 林冠部研究の包括化を目指して」) (2011/2/5)
  - 秋山弘之 (兵庫県立人と自然の博物館/兵庫県立大学自然・環境科学研究所) 「蘚苔類のハビタット」
  - 神崎 護 (京都大学農学研究科) 「北タイ熱帯山地林における林冠内植物の多様性とハビタット分割パターン」
  - 遊川知久 (国立科学博物館 筑波実験植物園) 「ラン科の生活形と栄養摂取様式の進化」
  - 田中伸幸 (高知県立牧野植物園) 「生物資源としての着生ラン—ミャンマーでの利用について」
  - Prachaya Srisanga (Queen Sirikit Botanic Garden) "Forest and Flora of Thailand, Contribution from Queen Sirikit Botanic Garden to Plant Diversity Studies"
  - Somran Sudee (Bangkok Forest Herbarium) "The genus Platostoma (Lamiaceae) in South East Asia"
  - 原 正利 (千葉県立中央博物館) 「ヒマラヤ山脚部の雲霧林の植生地理」
  - Witchaphart Sungpalee (Maejo University) " Forest Structure, Biomass and Topography" Sakhan Teejuntuk (Kasetsart University): "Altitudinal Zonation of Forests of Doi Inthanon"
  - 田中洋 (京都大学大学院地球環境学堂) 「ボルネオ低地熱帯雨林の林冠着生シダと共生するアリの機能的な働き」
  - 石田 厚 (京大・生態研センター) 「タイ熱帯季節林における林冠葉の生理機能と森林機能」
  - 大久保達弘 (宇都宮大学農学部) 「ボルネオ島サラワクの熱帯山地林のブナ科の分布」
- イニシアティブ2研究会 「文化と歴史そして生態を重視したもう一つの草の根の農村開発に関する国際会議」 (2011/2/26-27)
  - 安藤和雄 (京都大学東南アジア研究所) 「くに(里)の連帯による新たな農村開発を」
  - 塚田勇 (保津町自治会) 「『生きもの』共生で町おこし保津川すいたん農園プラン」

酒井省五（農事組合法人 ほづ）「竹炭を使ってカーボンマイナス~ クールベジタブル~」

氏原学（高知県大豊町）「我が古里の課題~ U ターン者の視点から~」

アッケル・アリ、モモタズ・ベゴム 共同農村開発協会（JRDS・バングラデシュ）「バングラデシュの村の NGO による文化を中心とした農村開発の試み」

田中照敏（周防大島自然体感クラブ）「周防大島自然体感クラブの活動と地域づくり~ “与えられる” 地域づくりから “創り出す” 地域づくりへ~」

大西信弘（京都学園大学、バイオ環境学部）「地元大学は地域に何を貢献できるのか」

辰己佳寿子（山口大学エクステンションセンター）「農村開発・発展における『よそ者』の役割~ 地域へ息吹を吹き込む風の人~」

鈴木玲治（京都大学生存基盤科学研究ユニット）「地域研究における地域・自治体・大学の協働と地域起こしへの可能性」

矢嶋吉司（京都大学生存基盤科学研究ユニット）「ラオス国立大学農学部とタチャンパ村との協働~ 伝統文化保存をとおして~」

ウドム・ポーンカムペン（ラオス国立大学農学部）「ラオスにおける魚道の重要性和農学部の試み」

黒川孝宏（亀岡市文化資料館）「文化資料館と地域活性」

## 6.5 研究イニシアティブ3

G-COE 第3イニシアティブは、文理融合のフィールドワークに基づいた、持続的森林圏の研究あるいは、熱帯バイオマスの生存基盤価値の研究を通じて、生存基盤持続型発展の実証研究を目指してきた。

フィールドを、リアウ州のブンカリス県やシアク県などに広がるギアム・シアッ・クチル・バイオマスリザーブに設定して、リアウ大学、インドネシア科学院、林業省と協力して調査を実施し、同時に、この地域に広大な産業植林権をもつシナール・マス社とも協力した。調査は、持続的バイオマス生産に焦点を合わせつつ、同地域には泥炭湿地が広範に広がっていることから、泥炭地の劣化と改善に焦点を合わせた。

G-COE 第3イニシアティブの調査チームは、バイオマス生産チーム、生物多様性チーム、および社会経済チームより構成された。

バイオマス生産チームは、バイオマスの生産と同時に炭素の固定化および排出について研究した。これにより、バイオマス生産が土地利用や投入財にどのように規定されるのかを検討すると同時に、どれくらいの炭素がバイオマス生産によって固定されるのか、他方、泥炭地利用によってどれくらいの炭素が排出されるのかを研究した。

生物多様性チームは、泥炭湿地の保全のためにどのような樹種がどのように植林されるべきなのかについて、検討した。また、ことなつた土地利用の間の生物多様性の差を、動物や鳥、さらにミミズに関する研究によって明らかにしようとした。

最後の社会経済チームは、泥炭地利用において、泥炭湿地地域に長年住んできた地元住民と、最近移ってきたばかりの移民では、泥炭地利用のローカル・ノレッジの量や質に大きな差異があると考え、各々住民が多数を占める異なる村において、バイオマス生産の社会経済的特質を明らかにしようとした。具体的には土地所有や、オイルパームやゴム、そして漁業やその他の農業さらに商業サービス業の業態や所得、就業構想、あるいは親族組織を明らかにしようとした。また、特定集落の移民について、その出身や移民に至った理由や経路などを明らかにしようとした。

本年度、G-COE 第3イニシアティブは、インドネシア政府・調査時術担当国務大臣府から調査許可を取得し、内務省、林業省、リアウ州、ブンカリス県、シアク県、さらに警察や出入国管理事務所などからも各々必要書類を取得して調査を開始した。

調査は、主としてブンカリス県のブキットバトゥ郡にある、トゥミヤン村、スパハック村、さらにタンジュン・ルバン村などにおいて実施された。

バイオマスチームは、タンジュン・ルバン村などにおいて、ゴムやオイルパームについて、実際のバイオマス生産がどれだけであるのかを実測した。この具体的なデータは、衛星画像の分析と組み合わせることにより、ギアム・シアッ・クチル地域のバイオマス生産のフローとストックの量を特定することを可能にした。また、炭素の固定化および排出の研究は、各地の水位の変化の研究と結びつけられて実施された。

生物多様性チームは、泥炭湿地の劣化を押しとどめ、その回復を可能にするためにどのような樹種が適切なのかを、実際に色々な樹種を植えてみることで明らかにしようとした。ビンタンゴール、ジュルトウン、ラミン、メランティなどの樹種について多角的な研究を行うと同時に、自然な植生を行っている木からの苗の採取を行った。さらに、生

物多様性チームは、哺乳動物や鳥の分布を、カメラやレコーダーを広い地域に多数設置することによって調査した。

そして、社会経済チームは、タンジュン・ルバン村のバクティ集落において、約 70 世帯に対して、農家経済調査を実施した。ここでは、農民が利用する土地の一片一片について、面積、泥炭地であるのか、所有の経緯、所有の形態、その利用、生産、販売、投入財の利用、労働力の利用、泥炭地火災の有無、家からの距離を調べた。さらに、出生地や教育・職業などの家族構成のみならず、移民の経験や世帯主の過去の職歴などを調査した。

以上の調査から、タンジュン・ルバン村では、1998 年から 2007 年までに大規模な不法伐採と木材のマレーシアへの密輸が行われていたこと、またこの時期の泥炭地におけるアカシアやユーカリの産業植林、およびオイルパーム栽培の進行によって、これらのために泥炭地の水位が大幅に低下と泥炭地火災の頻発により大規模な泥炭地の劣化が生じたことが明らかになった。

他方、タンジュンルバン村の住民は、土地の分配などによって 4-5 片の土地を持っており、2-3 片はオイルパームやゴムの栽培で利用して生計を維持している一方、1-2 片は火災などの理由により土地を事実上放棄していることが明らかになった。イニシアティブ 3 は、この放棄地を再び泥炭湿地としビンタンゴールなどの泥炭湿地樹種を植林することと提唱した。

さらに、生物多様性チームの研究から、二次林の存在は、火災にあい荒廃した泥炭地の回復に積極的な意味をもつことを、二次林に生息する鳥が荒廃した泥炭地に種を落としてこれが二次林の再生につながっている事実を明らかにした。

そして、本研究は、原生林やアカシア林、オイルパーム、ゴムさらに住民の複合農業を、バイオマス生産のフローとストックを各々 X 軸、Y 軸、さらに生物多様性を Z 軸においた概念によって分析可能であること明らかにした。この X 軸、Y 軸、Z 軸は、利潤動機、保全動機、そして生存（サバイバル）動機に対応することも明らかにした。

このような、フィールド調査にもとづく研究を推進すると同時に、調査の共同研究機関との協力も推進した。

2010 年 10 月 20 日には、G-COE 第 3 イニシアティブ、リアウ大学において「熱帯泥炭地生態システムの科学的フロンティアの開拓と持続的マネジメント“Scientific Exploration and Sustainable management of Tropical Peatland Ecosystems”」と題する国際シンポジウムを開催した。このシンポジウムには、インドネシアのボゴール農業大学、ガジャマダ大学、インドネシア科学院（LIPI）の人間とバイオスフィアプログラム（MAB）インドネシア科学院、リアウ大学に属し、これまで泥炭地研究を行ってきた方々がその研究成果を明らかにした。

シンポジウムでは、まず、ボゴール農業大学のポエル氏は、泥炭地炭素排出削減戦略として、法律の遵守と既利用泥炭地の管理の改善を第 1 の政策とし、第 2 に泥炭地の回復と火災の防止、さらに土地利用計画および森林からの農地の転換政策の見直しを第 3 段階とする政策と、これらの実行のための融的および住民へのインセンティブと制度的枠組みについて提言した。一方、同大学のバスキ氏は、カリマンタンにおける研究結果を踏まえて、泥炭地利用によって泥炭層そのものが消失する可能性を強調してポエル氏の炭素排出推計は過剰だとし、その事実も踏まえた泥炭地問題への対処の重要性を訴えた。また、スピヤ

ンディ氏は、泥炭地保全のための生態系アプローチを唱え、地域ごと事情を踏まえ、ローカル・ノレッジを生かし、保全のための樹種の選定の重要性を唱えた。また、ガジャマダ大学のオカ氏は、同大学チームによる簡便な方法を用いた多数地点の排出炭素計測の方法と結果を紹介した。さらに、愛媛大学の嶋村氏は、泥炭地保全のための水門設置に関し、それが火災防止に役立ちその限りで一層の炭素排出を抑えるが、水門設置自身が炭素排出を抑えるとは限らないことを自らの調査に基づき明らかにした。

シンポジウムの内容は、翌日のリアウポストなどの地元紙に大きく報道された。このように、今回のシンポジウムでは、G-COE 研究の紹介とともに、多くの実績のある泥炭地研究者がその成果を発表し経験を交換する場となったのであった。そして、今後のインドネシア泥炭地研究に関し、G-COE をふくめて相互に協力してゆくことが確認された。

このシンポジウムが一つのきっかけとなり、リアウ大学において熱帯泥炭地研究センターが設立された。また今年度に、リアウ大学数理学部内に、京都大学のフィールドステーションが開設され、両大学の研究協力の拠点となり、また、G-COE 第3イニシアティブのリアウにおけるフィールドワークを支えている。

#### 6.6 研究イニシアティブ4

本研究イニシアティブは、生存基盤持続型発展のための、地域の知的潜在力を発見し理解することを目的としている。2010年度においては、最終年度における成果出版への準備を視野に入れつつ、人間圏からみた生存基盤の成り立ちに関して、これまで手掛けてきたいくつかの問題、すなわち紛争や災害とリスク、再生産、在来知、科学技術論、貧困論などの観点から理論的に考察すると同時に、世界の諸地域からの事例に基づいて人類学的・社会学的・歴史学的な検討を行った。

最終成果に向けた議論としては、人間圏を親密圏から公共圏へと開いていく価値や関係性に着目することによって視点を転換し、その過程でケア論を中心として、公正と正義の原則を補うもう一つの原理としてのケアと配慮について検討した。成果出版の核となる議論を意識的に立ち上げつつ、それを通じて、人間圏と生命圏をいかにつなぐかという点を中心に、テーマの広がりを確認した。

以下の通り、合計8回の研究会・ワークショップを実施した。

1. 「地域紛争と環境問題：ナイジェリア産油地域で起きていること」2010年4月19日  
島田周平（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）「地域紛争と環境問題：ナイジェリア産油地域で起きていること」  
コメンテーター：佐藤史郎（東南アジア研究所 GCOE 特定研究員）、佐川徹（日本学術振興会特別研究員 PD)
2. 「親子のつながりワークショップ」2010年5月15日  
速水洋子（京都大学）「趣旨説明」  
植野弘子（東洋大学）「娘に何を期待するのか——漢民族社会における親子のつながり再考」

高田明（京都大学）「転身の物語り：サン研究における「家族」の復権」  
宇田川妙子（国立民族学博物館）「親子関係の複数性という視点：イタリアの事例から」  
岩佐光広（国立民族学博物館）「親子関係の長期的展開——ケア論と親族／家族論の相互検討を通じて」  
鈴木伸枝（千葉大学）「トランスナショナルな家族とジェンダー関係の素描～フィリピン移住者研究の状況と今後の展開～（仮題）」

3. 「都市についての研究会」2010年6月27日  
木村周平（富士常葉大学）「趣旨説明」  
遠藤環（埼玉大学）「重層化する都市構造とインフォーマル経済：グローバル化時代のバンコクを事例に」  
原祐二（和歌山大学）「アジア都市の都市=農村の境界域におけるバイオリソースのフローのスケーリング」（仮）  
コメント：森田敦郎（大阪大）
4. 「アフリカの半乾燥地域における地域社会の潜在力」2010年7月13日  
平井将公（京都大学東南アジア研究所 GCOE 研究員）「人口稠密地域における自然利用の技術と制度—セネガルのセレール 社会の事例」  
村尾るみこ（日本学術振興会特別研究員 PD）「ザンビア西部州における生計活動の再編—移動性の高い女性による 現金稼得から—」
5. 「カンボジア農村における子と高齢者の世帯間移動の互助機能」 2010年11月1日  
佐藤奈穂（東南アジア研究所研究員）「カンボジア農村における子と高齢者の世帯間移動の互助機能」
6. Changing Position of India in World Politics and Security, 2010年12月14日（イニシアティブ1と共催）
7. 「人間圏の再構築に向けて—親密圏・レジリエンス・知の接合」2011年3月11-13日（若手教育・研究部会と共催 琵琶湖合宿）
8. GCOE 第3巻第3編「人間圏と生命圏／地球圏とをつなぐ技術と制度」会合（非公開）  
2011年3月27日 稲盛財団記念館3F 小会議室  
発表者：吉村千恵、篠原真毅、木村周平、孫曉剛、山越言、常田夕美子

## 6.7 図書資料ユニット

本プログラムでは、当初目的に謳った「持続型生存基盤研究ユニット」の設立に向けて準備を進めてきたが、平成21年4月にアジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻のなかに「持続型生存基盤論講座」を新たに設置することができた（5.1.1 参照）。

これに伴い、持続型生存基盤論の教育研究に焦点を絞った書籍の刊行を構想するに至った。

図書資料ユニットは、この書籍（『持続型生存基盤研究ハンドブック』と仮称）の学問的内容を構築するとともに、出版に向けた実務を担うために、本年度新たに立ち上げたものである。年度内に合計 10 回の会合を開き、平成 24 年 3 月の刊行に向けた準備を進めた。

## 7. 広報成果発信部会

広報成果発信部会の活動は、大きく三つに分かれる。1) 本プログラムの研究成果発信の場を設け、あるいは、既存の研究成果発信の場を本プログラムの研究成果発信のために補助促進する。2) ニュースレターの発行。3) ウェブページ作成、である。この他、本プログラムを推進していく上での、対外的なPRに関わる業務も、事務局と共同で進めている。例えば、発足当初のロゴの作成なども本部会が担当した。これらの業務を、四つの基幹部局の教員・若手スタッフと、事務局メンバーとで担っている。以下、追って平成22年度の活動を紹介する。

### 7.1 研究成果発信

- ① 既存の Kyoto Working Paper Series on Area Studies に、G-COE Series を設け、年度内に21号出版した。既刊のものと合わせて出版号数は113号である。  
Appendix 2 参照のこと。
- ② African Monograph Series  
African Study Monograph の下記2号の刊行にあたり出版を補助した。
  - ・ African Study Monograph No.31-2
  - ・ African Study Monograph No.31-3また、African Study Monograph No.31-4 についても、収録論文の英文校閲費を支援した。
- ③ Kyoto Review of Southeast Asia (多言語ネットジャーナル)  
2011年1月にネットで公開した Korean Special Issue に収録された三本の論文について、英語から日本語へ、英語からフィリピン語へ、タイ語から英語への翻訳経費を支援した。
- ④ 京都大学東南アジア研究所叢書出版  
以下の三冊の英語書籍の英文校閲・出版準備費用を支援した。
  - ・ *The Role of Development Monks in Northeast Thailand*, Pinit Laptananon, Trans Pacific Press & Kyoto University Press
  - ・ *Old Ghosts, New Sightings*, Edited by Ukrit Pathmanand and Okamoto Masaaki, National University of Singapore Press & Kyoto University Press
  - ・ *Popular Culture Co-productions and Collaborations in East and Southeast Asia*, Edited by Nissim Otmazgin and Eyal Ben Ari, National University of Singapore Press & Kyoto University Press
- ⑤ 若手投稿費助成  
昨年度から、若手の投稿・出版を促進するために、(A) 英文投稿論文の校閲費助成、(B)

査読雑誌への投稿費用の助成の二項目について、申請ベースで助成を行った。平成 22 年度の採用件数は 3 件（A-1 件、B-2 件）であった。

#### ⑥ 英語ダイジェスト（冊子配布物）

本プロジェクトの四つのイニシアティブの目的と活動内容を説明する英語冊子を作成した。巻末には、Kyoto Working Paper Series on Area Studies の G-COE Series のバックナンバーのタイトルリストを収録してある。本プロジェクトの全体像をつかむための資料として、国内研究会・国際シンポジウムなどの配布物として活用している。

### 7.2 ニュースレター

本年度は 2011 年 1 月に第 6 号を発刊した。ニュースレターは、国内 2,683 ヶ所に送付した。また、G-COE 関連の国内研究会・国際シンポジウムでは、過去の号を含めて、参加者に無料配布している。

第 6 号は、四つのイニシアティブと二つのパラダイム研究会の活動状況の紹介とともに、本プログラムの中核概念である〈生存基盤〉というキーワードに関する五名の G-COE 助教・研究員のエッセイを掲載した。そのことにより、第 6 号プロジェクトの発足以来、多くの場で分野横断型の議論を積み重ねてきた若手研究者が、新たなパラダイム形成に向けてどのような視点の拡大と転換を経験しているのかを広く知らしめる内容となった。

### 7.3 ウェブページ

本年度の WEB 運営は、初年度に導入した CMS(Content Management System)機能を活用し、専用サーバへと移転したことによる最新システムの様々な恩恵を享受しつつ、サーバメンテナンスを含め安定した環境でコンテンツ更新作業をすすめることができた。

#### ① HP コンテンツについて

平成 20 年度に設置した「HP 運営体制」と「コンテンツ基盤構築」を基に、コンテンツ作成を和文・英文ページともに円滑にすすめることができた。

本年度は、最終年度に向けた成果報告の発信をめざし、アクセス解析によるコンテンツ見直しと、トップページレイアウトのリニューアルを和・英ページともにすすめた。



図1：トップページデザイン（左：リニューアル前 右：リニューアル後）  
 イメージ表示機能（メインフレーム）の変更および、バナーコンテンツ設置、メディアギャラリーへのリンク（画面下イメージ）を設置した。

## デジタルブック

平成 22 年度に導入した、デジタルブック作成ソフト（ロゴスウェア：FLIPPER3）を活用し、自己点検評価報告書、ニュースレターのデジタルブック化をすすめた。



図2：「デジタルブックバックナンバー」ページ

## 研究活動の報告

昨年度に引き続き、研究活動の報告は、和文・英文ともに順調に更新がすすめられた。

また、複数のカテゴリに分けて掲載されている「研究活動の報告」をまとめた、「報告一覧」ページを設けた。(参：図3)

### 【研究活動報告の種類】

- ・次世代イニシアティブ成果報告
- ・若手研究者交流報告
- ・大学院派遣報告
- ・研究会活動報告 (G-COE パラダイム研究会・イニシアティブ1～4、若手養成・研究部会、国際集會・国際シンポジウム、連携国際集會)

▶ 報告掲載数 合計：373 件  
( 和文：179 件／英文：194 件 )

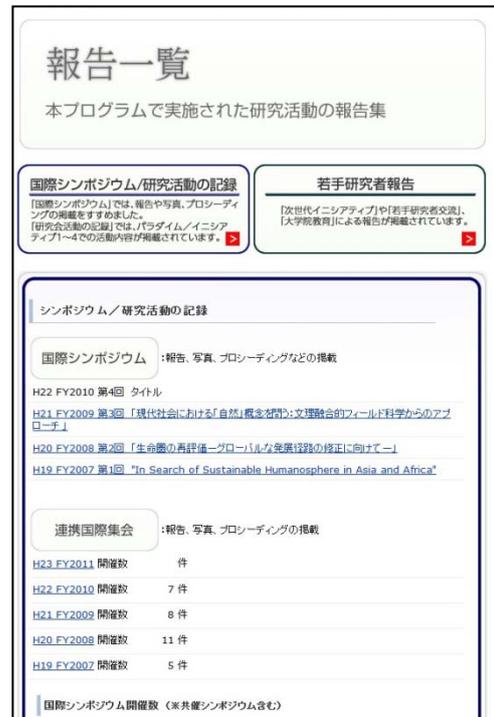


図3：「報告一覧」ページ

## 書籍ページ

成果発信の一つとして、プログラムメンバー書籍情報の掲載をすすめた。

- ・書籍紹介、目次、書評などが掲載されている。
- ▶ 書籍情報数 125 件



図4：「書籍紹介」ページ

## メディアギャラリー

プログラムメンバーが調査で撮影してきた写真やシンポジウム写真、ポスター、出版物などの画像をアーカイブしている。

地点情報入力ソースとしても活用できるようにしている。

- 画像掲載数 1,118 件



図5：「メディアギャラリー」ページ

## ②システム構築と開発

本プログラムでは、開発した汎用システムについては広く一般公開することをポリシーとしている。そのため開発段階から開発者コミュニティと密接に連携しながら、より使いやすく汎用性のある仕組みを取り入れている。この社会貢献活動は、IT系ニュースサイトで何度か紹介されており、その認知度は日増しに高まっている。

## システム管理

2010年12月 CMS（日本語サイト）のシステムバージョンアップ

## サーバメンテナンス

2010年3月末に専用サーバへ移転して以来、互換性に配慮しながら最新技術を取り入れることができるように、サーバ上のシステムを可能な限り最新にする努力を続けた。さらに、世代バックアップを含む様々なレベルでのバックアップ体制を確立、FTPにかわるCMSへ直接アクセスできる仕組みも提供し、より効率的なWEB更新を図るシステムを構築した。

## 地点情報

情報基盤部会と共同で、WEBサイトから地点情報のインポートとエクスポートが出来るシステムおよびレイヤー表示システムを活用し、コンテンツ導入をすすめた。



図6：「地点情報」ページ

### ③その他：インターネットを扱った広報活動

#### メールマガジン

アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）よりメールマガジン配信がすすめられている「アジア・アフリカ地域研究情報マガジン」について、2008年9月から発行協力を開始している。

- メールマガジンタイトル：アジア・アフリカ地域研究情報マガジン
- メールマガジン URL： <http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kaikaku/index.html>
- 発行周期：月刊
- 発行部数（購読申し込み数）：1,048
- 内容：メールマガジンの内容：ASAFAS スタッフ・大学院生のコラム・活動紹介の他、GCOEでの活動紹介（報告や研究会情報）など。

発行部数は、メールマガジンに興味・関心をもち、購読を継続希望される人数であると述べられる。この1,000部を超える発行部数は増加傾向である。つまり、本プログラムの研究活動への関心が高くなっているとも述べられ、それに応じた対象者への情報発信の価値は、非常に高いといえる。

### ④ウェブサイト解析と今後の課題

#### ウェブサイトのページ数

解析期間：2007年11月30日～2011年3月31日

日本語ページ数：2,176 ページ 英語ページ：1,021 ページ

- 総ページ数：3,179 ページ

#### アクセス数(日本語・英語ページ)

[解析期間]

日本語ページ：2007年11月30日～2011年3月31日

英語ページ：2008年1月28日～2011年3月31日

※解析ツール：Google Analytics (<http://www.google.com/analytics/ja-JP/index.html>)

[セッション：訪問者数]

日本語ページ：114,583 英語ページ：28,904

- 訪問者総数：143,487

[ページビュー：ページ閲覧数]

日本語ページ：650,373 英語ページ：134,003

- ページ閲覧総数：784,376

[Google Pagerank での評価]

- 6/10

本年度も、「セッション」「ページビュー」とともに多くの数が示された。また、Google Pagerank(ページランク)評価においても、6/10 という高い値が昨年にひきつづき継続して示されている。これは、学術情報サイトとして高い評価が表されたとも述べられ、SEO 対策の効果と HP 運営の成果の指標とも述べられる。

またそれらの効果について、ウェブアクセスログをオープンソース・ソフトウェアである「Webalizer」で直接解析するという異なる視点から検証した結果を下記に纏めた。

解析期間：2007年10月～2011年3月31日

日英アクセス総数：4,261,172 ページ

日英訪問者総数：720,190

日英ダウンロード総容量：296,340,914KB (約 296GB)

ウェブブラウザが利用する Cookie を使ったカウント手法を採る Google Analysis と異なり、検索エンジンやその他様々な接続方法をすべて記録するウェブアクセスログを解析しているため、アクセス数は Google Analysis よりもかなり多くなっている。しかし、双方のアクセス総数同士と訪問者総数同士の比率はいずれも「1:5」となり、伸び率は同じである。このことから、積極的な更新を続ける WEB サイトへの関心が高いことをうかがい知ることができる。2010年4月以降に収集した検索結果からの来訪者に関するキーワードについては、2010年度にアクセス数が最も多かった2011年2月を例にとってみると、検索エンジンが全体の3割ほどのアクセス数となっており、検索結果からの来訪については、「生き物と水のかかわり」「トランスサイエンス」「アブラヤシ研究会」「アジアの看護を理解しよう」「アグロフォレストリー」など、本グローバル COE の研究会で頻繁に出てくるキーワードがずらりと並ぶ。それに加えて、毎月コンスタントに出てくるのは、それぞれメンバー個人名での検索である。下記に、月ごとのアクセス数(赤)と訪問者数(青)をグラフ化すると、例年1月～3月に爆発的な増加をしつつも全体的にみると増加傾向にあると言える。爆発的な増加については、推測の域を超えないが、年度末の各種年度報告および次年度に向けた計画案を練るなどのために増えているのではないかと思われる。

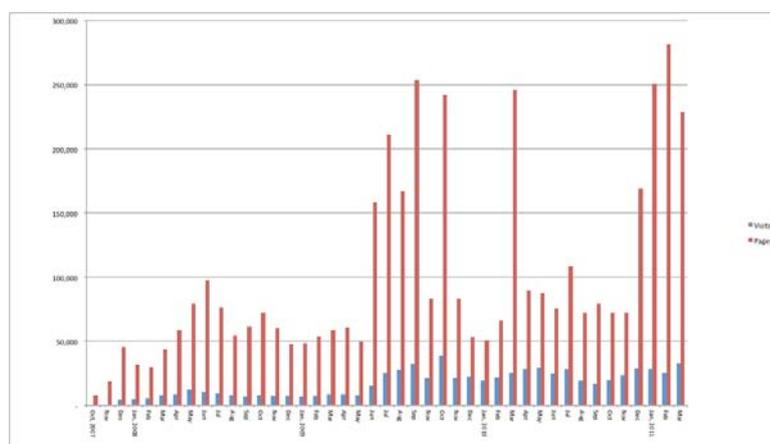


図7：「Webalizer」検証データ

## 海外からの訪問者解析

「海外からの訪問者による解析」(図8)によると、149カ国と多数の国からのアクセスがあったことが示される。本サイトの世界への情報発信効果があったと示される。

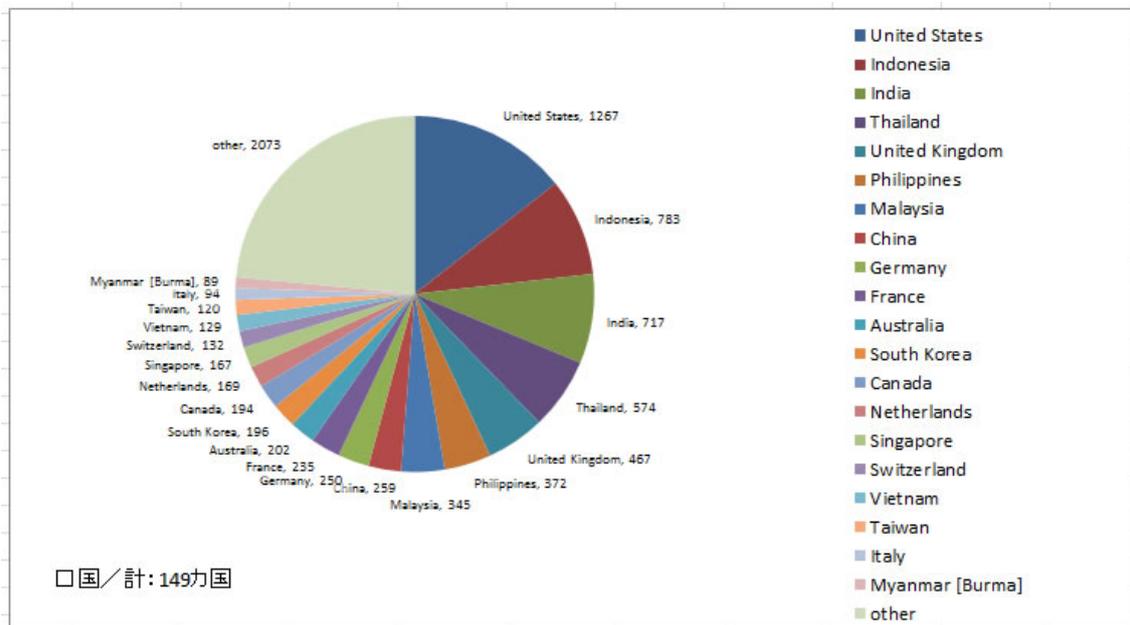


図8：海外からの訪問者解析（平成19年度～22年度）（英語ページ解析）

## まとめ

本年度もHP運営体制のもと、日・英ページともに、日々円滑にHPコンテンツ作成がすすめられ、情報発信に努めることができた。

その成果として公開されたページ数は、3,200ページにのぼり、アーカイブを目的とした画像数も1,118枚とコンテンツ規模の大きいHPとして成長している。

また、HP運営に欠かすことができない、システム面においても、細かなメンテナンスを行いながら、改良をすすめることによって安定したHPサービスの向上が達成されている。

最終年度にむけ、プロジェクト成果の情報発信のほか、成果物としてのWEBコンテンツへの取り組みをすすめる予定である。

## 8. 基盤整備部会

### 8. 1 データベース

昨年度開発された地点情報表示システムをもちいて、本年度は、平成 22 年度に行なわれた各イニシアチブの研究活動を地点情報化し、Web 公開を行なった。



図 1. イニシアチブ (1-4)に関する地点情報

図 2. イニシアチブの研究会情報

各イニシアチブの活動（研究会における個々の発表など）が地点情報として地図上に表示され、点をクリックすると活動内容が「吹き出し」で表示される。さらに、吹き出しのなかのリンクによって、各イニシアチブサイトにおける情報アクセスや、発表内容に関する PDF、関係論文の参照が可能となっている。

また、同様の情報を、各フィールドステーションの活動についてもおこなった。



図 3. フィールドステーションの活動状況

図 4. フィールドステーションの活動情報

## 8.2 図書

### ① 持続型生存基盤関連図書の整備

各イニシアティブで研究上必要な資料に加え、新たにアジア・アフリカ地域研究研究科に設置されたグローバル地域研究専攻の教育のために必要な資料を生存基盤関連図書として1箇所配架した。平成22年度までに580冊強の書籍を購入した。これらの書籍は、アジア・アフリカ地域研究研究科図書室が購入・整理・貸出し業務を行なっている。

### ② 地域研究関連図書の整備

現地語諸資料を中心とする図書の整備拡充を図るため、平成22年度に、東南アジア関係図書185冊、南アジア関係図書730冊、西アジア関係図書429冊、通地域（生存基盤）関連図書130冊、アフリカ関係図書305冊、雑誌16タイトル、マイクロフィルム420リールが購入された。これらは各部局の図書室に配架されているが、依然として圧倒的に収納スペースが不足しているのが現状である。

### ③ 書籍登録、分類等

図書予算の約2割を非常勤雇用にあて、書誌情報の入力、図書整理をおこなっている。

### ④ HP公開

図書小部会では、G-COEのHPに、新着情報、図書リスト、推薦図書などのコンテンツからなる購入図書情報を掲載している。

## 9. 自己点検評価委員会

自己点検評価委員会は、平成 22 年度自己点検評価報告書の原案を同委員会に一人・作成することを、第 3 4 回運営委員会（2011 年 3 月）において提案し、承認された。昨年度の様式を基本に原案を提示し、その後、報告書案の目次と分担に従って執筆を依頼し、部会及び委員会からの原稿を取りまとめた。原稿取りまとめと編集にあたっては、本委員会委員のほか、事務局の協力を得た。

報告書の告書の様式、目次案と分担を参考に記載する。

グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」

### 平成 22 年度自己点検報告書（案）

自己点検委員会 川井、佐藤、西

書式：A 4，上下左右マージン 30mm、MS 明朝 11 ポイント、40 字／行、40 行／頁

運営委員会での議題提出：3 月 7 日（川井から） 5 月 9 日運営委員会報告

メールで担当者に依頼

依頼状作成（川井）

報告書案の最終版作成（西、佐藤）

事務局より送付：少なくとも 5 月 9 日まで

原稿締め切り：5 月 31 日（事務局宛提出、自己点検委員会が整理・チェック）

発行：6 月下旬 7 月 4 日運営委員会報告

刷り上がり：約 70 ページ（予定）

印刷部数：200 部（配布先を確認のうえ、最終決定）

目次と分担、分担ページ

1. はじめに（杉原） 1p

2. プログラムの目標と進捗（杉原） 2p

パラダイムの形成

成果の発信

教育・人材育成

世界拠点の形成

3. 組織・運営体制（河野） 3p

3.1. 運営体制と教育研究プログラム

3.2. 委員会・部会組織と人員配置

3.3 事務局体制の整備

3.4 情報基盤の整備（木谷）

3.5 平成 21 年度予算と配分状況（河野・明渡）

4. 運営委員会の活動（事務局） 1p

4.1 概要

4.2 特定研究員（グローバル COE）および研究員（時間雇用）の採用

5. 人材育成センターの活動（小杉、伊谷、山本） 15p
- 3 / 7 運営委員会での確認事項
- ・ 貢献をできるだけ数値化して表現
  - ・ 大学院改革：新専攻の実態を数値化 学生数、講座、講義数
  - ・ フィールドステーション：できるだけ具体的に
  - ・ 学生援助：具体的に
- 5.1 大学院教育部会（伊谷）
- 5.1.1 新専攻「グローバル地域研究」、持続型生存基盤コースの現況について
- 5.1.2 TA・RA プログラム
- 5.1.3 フィールドステーションを活用した若手研究者の育成
- 5.2 若手養成・研究部会（山本）
- 5.2.1 G-COE 助教・研究員の活動
- 5.2.2 次世代研究イニシアティブ・研究助成の交付
- 5.2.3 研究会・シンポジウム等の開催
- 5.2.4 生存圏科学国際スクールへの若手部会メンバーの派遣
- 5.2.5 G-COE 国際シンポジウムでの発表
- 5.3 海外派遣助成（事務局）
- 5.4 アジア・アフリカ人材育成
6. 研究イニシアティブ 15p
- 6.1 パラダイム研究会 3p（杉原）
- 6.2 第2パラダイム研究会 3p（佐藤(孝)）
- 6.3 研究イニシアティブ1 7p（藤田）
- 6.4 研究イニシアティブ2 2p（柳沢）
- 6.4 研究イニシアティブ3 2p（水野）
- 6.5 研究イニシアティブ4 2p（速水）
- 6.6 図書資料ユニット（東長） 2p
7. 広報・成果出版部会（小林（知）） 15p
- 7.1 研究成果発信
- 7.2 ニュースレター
- 7.3 ウェブページ
8. 拠点基盤整備部会（荒木） 5p
- 8.1 データベース
- 8.2 図書（東長）
9. 自己点検評価委員会（川井） 1p
10. おわりにー今後の展望ー（川井） 1p
- Appendix 1. G-COE ワーキングペーパー リスト(2010年3月現在)（吉川）
- Appendix 2. G-COE 20年度業績リスト（吉川）
- (1) 論文
  - (2) 著書
  - (3) 講演、発表

- (4) G-COE 関連国際会議の成果としてのプロシーディングス等出版物
- (5) その他文章、および社会貢献
- (6) 受賞
- (7) 学位論文
- (8) 特許

注)各項目の内容は提案で決まったものではありません。必要に応じて追加訂正ください。また、ページは目安、参照程度に考えてください。

サンプル

## 1. はじめに (タイトル: 明朝)

(1行空け)

今回は、農業発展径路に焦点をあてます。農耕の開始により人類は、人口支持力の増大、さまざまな・・・

## 10. おわりに—今後の展望—

アジア・アフリカの地域研究に携わる研究者と、先端技術の開発に関わる科学者との学問的対話を促進するために、「持続型生存基盤パラダイム」という新しい考え方を提案し、地球温暖化のアジア・アフリカの地域社会への影響といった緊急の課題に答えるべく、ローカルな、あるいはリージョナルな持続的発展径路を追究することを目標として発足した本プログラムの平成 22 年度の活動を点検し、若干の評価と今後の展望について記す。

第一は研究分野横断型の研究推進についてである。平成 22 年度にはパラダイム研究会を 10 回、国際シンポジウム・セミナーを 13 回、生存基盤指数に関する議論を集中的に行うために今年度より新たに設置した第 2 パラダイム研究会を 5 回、その他、イニシアティブ研究会・ワークショップを多数主催・共催し、研究成果の国際的な発信を積極的に推進した。また、その成果を速報として公開するワーキングペーパー 21 冊を刊行した。

平成 22 年度に開催された国際シンポジウムは、“Scientific Exploration and Sustainable management of Tropical Peatland Ecosystems” (2010 年 10 月 20 日、リアウ大学との共催)、“Towards the development of Sustainable Humanosphere Index” (2010 年 12 月 9-10 日、GIS-IDEAS 学会との共催)、“Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities” (2011 年 1 月 29-30 日、NIHU プログラム「現代インド研究」との共催)等であり、いずれも本プログラムの目指すパラダイム形成に対して、参加者から積極的な評価を得ることができた。

同時に、4 つの研究イニシアティブとそれらを総括するパラダイム研究会の活動も活発に展開することができた。これらを通じて見出された知見は次の二点にまとめられる。その第一は、人間と（自然・生態）環境の関係を、これまでのように人間（開発）の側からだけ、あるいは自然環境の維持の立場だけから考えるのではなく、両者の相互関係を考慮した上で、人類の「生存基盤」をどのように持続させていくかという視点が重要だということである。われわれは、そうした視点を確立するために、グローバル・ヒストリーを書き直したり、人間開発指数に代わる「生存基盤指数」の開発を前進させたり、また生命を連鎖体として見る在来の「生存基盤の思想」を読み解いたりした。第二は、人間と環境との関係を二項対立的に捉えるのではなく、「地球圏」、「生命圏」、「人間圏」という、長い歴史と固有の運動の論理をもった三つの圏が交錯して成立する「生存圏」として捉えることによって、これまで注目されていなかったさまざまな領域の問題を可視化し、総合化する試みである。

持続的生存基盤パラダイム形成の中間的成果を、「生産から生存へ」、「地表から生存圏へ」、そして「温帯から熱帯へ」の 3 つの視点を柱にとりまとめ、単行本『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて』（京都大学学術出版会）を 2010 年 3 月に刊行した。22 年度には書評（『アジア・アフリカ地域研究』など）や合評会をつうじて多くの建設的な反応を得ると共に、本単行本の英訳を終えた。現在、出版社と翻訳本刊行の交渉中である。その他の成果出版物として既存の Kyoto Working Paper Series on Area Studies に、G-COE Series を設け、年度内に 21 号を出版した。既刊のものと合わせて出版号数は 99 号となった。

第二は大学院教育の制度整備についてである。大学院アジア・アフリカ地域研究研究科（ASAFAS）に持続型生存基盤研究講座を設置する方向で制度改革の努力を進めてきた。新しいパラダイムのもとでの人材育成を制度化するため、ASAFAS と人材育成センターの緊密な連携のもとに、協力部局の全面的なサポートを得て、当初計画の「持続型生存基盤コース」よりもさらに本格的な講座設置を推進し、平成21年4月より大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にグローバル地域研究専攻を新設した。新専攻に設置される持続型生存基盤論講座に新規で教授2名を採用した。現在本講座は、「持続型生存基盤研究の方法」や「国際環境医学論」、「熱帯乾燥域生存基盤論」、「熱帯森林資源論」、「人間環境関係論」、「生存圏科学論」等の科目を提供し、他専攻からも多くの院生が受講している。本プログラム終了後は、グローバル地域研究専攻が教育・人材育成の中核を担う予定である。

第三は、大学院生・若手研究者に対する支援体制についてである。平成 22 年度においては、若手研究者を対象とした次世代研究イニシアティブ助成（11 件）や、大学院生を対象にしたフィールド・ステーション派遣（26 名）を実施した。また「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」との連携により、GCOE 特定助教・特定研究員を含む若手研究者の海外研究機関への派遣も推進した。これらに加えて、海外観測拠点派遣支援や、論文掲載料支援、英語論文校閲支援を行った。これにより、若手研究者および大学院生の研究活動を当初計画通りに活性化することができた。また平成 20 年度に、アジア・アフリカ諸国の優秀な若手研究者を本拠点に招へいし、最先端の研究現場での議論への参加を促進する若手研究者交流を実施したことを受け、平成 21 年 4 月からは、アジア・アフリカ諸国の優秀な修士号取得者を対象として、京都大学への編入により博士号の取得を支援するプログラムを実施している。

グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」を開始して 4 年が経過した。最終度においては、これまでの各種研究会や国際会議での議論などを通じて蓄積されてきた「持続型生存基盤パラダイム」の関する知見を、各研究イニシアティブの代表者から発信するとともに、プロジェクト終了までの残り 1 年間を見据えた方向性を具体的に提示し、プロジェクト全体の今後の研究活動を幅広く議論する場としたい。さらに、人類の生存基盤の持続性を、地球圏・生命圏・人間圏の論理にもとづいて評価するための「生存基盤指数」を構築するとともに、最終成果を目指して「持続型生存基盤論講座」（全 6 巻）の刊行を企画・推進したい。

また本プログラムに関連して、特別経費事業「ライフとグリーンを基軸とする持続型社会発展研究のアジア展開」（23 年度～）や科学技術戦略推進費事業（22 年度～24 年度）など、いくつかの外部資金により本プログラム終了後の拠点・ネットワーク形成を担う事業が進みつつある。今後、これらの新規プロジェクトを通じてより多角的なニーズを満たす展開が構想されると確信している。

拠点リーダー  
自己点検評価委員会委員長  
事務局長

杉原 薫  
川井秀一  
河野泰之



## Appendix 1. 外部資金獲得状況

研究費の名称	期間	研究課題等	交付を受けた者	研究等経費総額（千円）
科研費基盤（A）	平成 21-23 年	東南アジアにおける複ゲーム状況の人類学的研究	杉島敬志	13,520 千円 （間接経費含む）
科研費基盤（A）	平成 19-22 年	アフリカ牧畜社会におけるローカル・プラクティスの復権／活用による開発研究の新天地	太田 至	33,600 千円
科研費基盤（A）	平成 22-26 年	アフリカ熱帯林におけるタンパク質獲得の現状と将来	木村大治	7,800 千円
科研費基盤（A）	平成 20-22 年	歴史的建造物由来古材の材質評価データベースと海外研究協力ネットワークの構築	川井秀一	27,900 千円
科研費基盤（A）	平成 19-22 年	産業利用を目的とした遺伝子組換えポプラの野外試験	林 隆久	47,000 千円
科研費基盤（A）	平成 19-22 年	アフリカ在来種の生成とそのポジティブな実践に関する地域研究	重田真義	8,300 千円 （平成 22 年度、間接経費含む）
科研費基盤（A）	平成 22-24 年	アフリカの開発＝発展におけるパラダイム・シフトに関する総合的地域研究	島田周平	1,500 千円
科研費基盤（A）	平成 19-22 年	東南部アフリカ農村における食糧確保と生業展開に関する社会経済的研究	池野 旬	29,000 千円
科研費基盤（A）	平成 22-25 年	東南アジア農山漁村の生業転換と持続型生存基盤の再構築	河野泰之	35,900 千円
科研費基盤（A） 海外	平成 21-25 年	東南アジア大陸山地林の攪乱動態と山地民の生活環境保全	竹田晋也	5,000 千円 （平成 21 年度）
科研費基盤（A） 海外	平成 22-24 年	東南アジアにおける宗教の越境現象に関する研究	片岡 樹	26,300 千円
科研費基盤（B）	平成 21-24 年	社会運動と開発—南アジアの事例を通して	藤倉達郎	2,000 千円 （平成 21 年度）
科研費基盤(B)	平成 21-23 年	「化石資源世界経済」の形成と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較史的研究	杉原 薫	14,700 千円

科研費基盤 (B)	平成 20-22 年	ドバイで働くフィリピン女性のアイデンティティの再編—キリスト教徒とムスリムの比較	細田尚美	690 万円
科研費基盤 (B)	平成 20-23 年	アフリカ諸語における統語構造と声調	梶 茂樹	15,900 千円
科研費基盤(B)	平成 20-23 年	ホイッスラーモード相対論加速による放射線帯形成過程の研究	大村 善治	17,810 千円 (間接経費を含む)
科研費基盤 (B)	平成 19 年-22 年	遺伝子組換え樹木：野外試験の海外調査	林 隆久	10,660 千円
科研費基盤 (B)	平成 21-23 年	国境地域における自然資源管理のクロスナショナル・ガバナンス	Wil de Jong	4,300 千円
科研費基盤 (B)	平成 19-22 年	ラオス地方文書とオーラル・ヒストリーの組織的収集・保存体制の構築	増原善之	10,600 千円
科研費基盤 (B)	平成 20-22 年	熱帯雲霧林の林冠内植物の多様性と動態:気候変動モニタリングに向けたサイト構築	神崎 護	3,510 千円 (22 年度)
科研費基盤 (B)	平成 20-23 年	アフリカの地域紛争にみられる新兆候に関する研究：ナイジェリアの事例を中心に	島田周平	2,200 千円
科研費基盤 (B)	平成 21-23 年	レスポンスレギュレーターARR1 によるサイトカインシグナル伝達機構	青山卓史	3,900 千円 (22 年度)
科研費基盤 (B)	平成 20-22 年	植物バイオマス資源からの均一ナノファイバー製造に関する基盤技	矢野浩之	3,510 千円
科研費基盤 (B) 海外	平成 20-22 年	熱帯大規模人工林における木材劣化生物の多様性評価と持続的管理	吉村 剛	4,600 千円
科研費基盤 (B) 海外	平成 20-23 年	グローバル化時代の東南アジアにおける地方政治の新展開—首都、エネルギー、国境	岡本正明	12,700 千円
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	地域在住高齢者の抑うつ危険因子とグループワークによる介入効果の縦断的検討	和田泰三	4,500 千円
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	経済的・文化的資源としての民族文化観光の可能性：ケニアの「マサイ」を事例として	中村香子	3,500 千円
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	耐乾性外来樹の拡大と地域水文/経済への影響	佐藤孝宏	800 千円
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	非化石資源のみから構成される木質材	梅村研二	3,400 千円

		料の開発		
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	民主主義の人類学—ヴァナキュラー・デモクラシーの課題と可能性	田辺明生	1,560 千円
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	タイ・ミャンマー国境域移動者の生活実践：少数民族の社会ネットワークと文化再生産	速水洋子	3,300 千円
科研費基盤 (C)	平成 20-22 年	アジア・アフリカ地域における睡眠文化の多様性に関する研究	重田眞義	1,100 千円(22年度、間接経費含む)
科研費基盤 (C)	平成 22-24 年	スリランカにおける植民都市、都市型住居の形成とその現代的展開に関する研究	山田協太	1,000 千円
科研費基盤 (C)	平成 21-23 年	非化石資源のみから構成される木質材料の開発	梅村研二	120 千円
科研費基盤 (S)	平成 22-26 年	東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究	石川登	51,220 千円 (間接経費含む)
科研費若手 (A)	平成 21-23 年	木造建築の部材・接合部の生物劣化を考慮した残存耐力の評価法に関する基礎的研究	森 拓郎	13,340 千円
科研費若手 (B)	平成 21-24 年	カンボジア仏教の再生と変容に関する総合的研究：ヒト・モノ・カネの移動と制度の再編	小林 知	900 千円
科研費若手 (B)	平成 21-23 年	トルコ地方小都市、世俗主義とイスラームのはざまの<社会>：震災復興の経験から	木村周平	3,400 千円
科研費若手 (B)	平成 21 年-23 年	開発実践の福次効果と住民活動の創造的展開—タンザニアにおける農村開発の事例	黒崎龍悟	1,040 千円
科研費若手 (B)	平成 21-22 年	<核軍縮・不拡散の現実主義>の理論的基盤—再保証のコミットメントに着眼して	佐藤史郎	650 千円
科研費若手 (B)	平成 19-22 年	南部アフリカにおける開発政策と先住民運動にともなう狩猟採集社会の再編に関する研究	丸山淳子	800 千円
科研費若手 (B)	平成 20-22 年	資源を巡る対立・協調の多元性と固有性：東南アジアの事例から	生方史数	2,700 千円
科研費若手 (B)	平成 20-22 年	ミャンマー・カレン村落の焼畑土地利用履歴と森林生態系の長期的変遷に関	鈴木玲治	3,200 千円

		する研究		
科研費若手 (B)	平成 22-23 年	人為的な影響の大きい中央アジア・アラル海流域における水資源データベースの構築	甲山治	2,000 千円 (間接経費含む)
科研費若手 (B)	平成 22-24 年	タイ高度経済成長期の天水田集落における自給的稲作継続メカニズムの解明	渡辺一生	2,700 千円
科研費若手 (B)	平成 20-24 年	代謝ネットワーク制御に基づくバイオ燃料化に適した木質の分子育種	梅澤俊明	14,100 千円
科研費若手 (B)	平成 20-23 年	現代北インドにおける「不可触民」の仏教改宗運動と生活実践に関する文化人類学的研究	舟橋健太	1,040 千円 (間接経費含む)
科研費若手(S)	平成 19-23 年	養育者一子ども間相互行為における責任の文化的形成	高田明	10,100 千円 (平成 21 年度)
科研費、新学術領域研究 (研究課題提案型)	平成 21-23 年	泥炭湿地における大規模植林が水・熱循環および周辺環境に与える影響評価手法の構築	甲山治	18,070 千円
科研費補助金特定領域研究	平成 21-22 年	植物細胞形態形成におけるリン脂質シグナルの役割	青山卓史	2,900 千円 (22 年度)
科研費補助金・日本学術振興会外国人特別研究員奨励賞	平成 21 年 11 月 16 日-平成 23 年 11 月 15 日	セルロースナノファイバーの構造化に関する基礎的研究	矢野浩之	900 千円
科研費補助金・挑戦的萌芽研究	平成 22-24 年	西アフリカ森林地域における村落周辺林の生態史	山越言	1,300 千円
日本学術振興会特別研究員奨励費	平成 22 年	北東アフリカ紛争多発地域における民族間の和解と多元的共生社会の生成に関する研究	佐川徹	1,000 千円
日本学術振興会特別研究員奨励費	平成 20-22 年	熱帯における持続的な人工造林：生態、経済、政治研究の融合	河野泰之	2,000 千円
日本学術振興会特別研究員奨励費	平成 22-24 年	東南アジア大陸部の生業のマッピング-生業の指数化と地理情報システム-	河野泰之	2,000 千円
組織的な若手研究者等海外派遣プログラム	平成 22 年 3 月 1 日-平成 25 年 2 月 28 日	地域と世界を架橋する東南アジア研究の展開を目指す若手研究者海外派遣	河野泰之	65,800 千円

論文博士号取得 希望者に対する 支援事業	平成 18-22 年	ベトナム北部山地における過去 50 年間の土地・森林資源と人々	河野泰之	6,100 千円
三井物産環境基金	平成 21-23 年	森林の水循環における諸機能を流域管理計画に導入する戦略に関する研究	谷誠	34,510 千円
人間文化研究機構地域研究推進事業「現代インド地域研究」研究員基礎活動費	平成 22 年	現代インドの環境思想と環境運動—ガーデンディー主義と〈つながりの政治〉	石坂晋哉	200 千円
科学技術総合推進費補助金 国際共同研究の推進	平成 22-24 年	熱帯多雨林における集約的森林管理と森林資源の高度利用による持続的利用パラダイムの創出	神埼護	27,281 千円
新農業展開ゲノムプロジェクト (バイオマス・飼料作物の開発) (独立行政法人農業生物資源研究所)	平成 20-24 年	イネリグニン合成パスウェイの改変	梅澤俊明	138,000 千円
新エネルギー技術研究開発／バイオマスエネルギー等高効率転換技術開発(先導技術開発)	平成 21-24 年	エネルギー植物の品種改良に係わる代謝情報と遺伝子発現情報に関する研究開発	梅澤俊明	31,758 千円
科学技術振興調整費アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進(国際共同研究の推進)	平成 22-24 年	熱帯多雨林における集約的森林管理と森林資源の高度利用による持続的利用パラダイムの創出	梅澤俊明	5,000 千円
JAXA	平成 21-22 年	開発途上国における植林事業のための衛星情報活用モデル	川井秀一	5,800 千円
パナソニック電工(株)	平成 22 年	非枯渇資源を用いた新規木質用バイオマス接着剤の研究	川井秀一	1,120 千円
環境省再委託事	平成 22 年	大気浄化機能を有するスギ間伐材を活	川井秀一	300 千円

業		用した蓄熱防止に資する断熱材の開発		
財団法人海堀奨学会 奨学金	平成 20-22 年	熱帯造林木の持続的な生産・利用と環境貢献	川井秀一	7,500 千円
トステム	平成 22 年	有害化学物質ゼロ素材の研究	梅村研二	1,402 千円
宇宙利用促進経費	平成 21-24 年	偏波合成開口レーザデータを用いた大規模植林地のマイクロ波散乱メカニズムの解明とバイオマス推定手法の開発	大村 善治	3,611 千円 (21 年度)
独立行政法人森林総合研究所	平成 21-23 年	地域住民による生態資源の持続的利用を通じた湿地林保全手法に関する研究	竹田晋也	5,667 千円 (21 年度)
JICA 草の根支援事業	平成 20-22 年	コクタイン合作社の市場化対応「capacity building」プロジェクト-ベトナム紅河デルタの「村おこし」モデルの形成	日本ベトナム研究者会議	4,650 千円
NEDO 「グリーン・サステナブルケミカルプロセス基盤技術開発」	平成 22 年 3 月 31 日—平成 23 年 3 月 18 日	研究開発項目④「化学品原料の転換・多様化を可能とする革新グリーン技術の開発」「セルロースナノファイバー強化による自動車用高機能グリーン部材の研究開発」	矢野浩之	378,578 千円
財団法人平和・安全保障研究所、国際交流基金日米センター「RIPS 日米パートナーシップ・プログラム」	平成 21 年 8 月-24 年 8 月	日米同盟における威嚇型と約束型のコミットメント	佐藤史郎	900 千円
林野庁補助事業「住宅分野への地域材供給シェア拡大総合対策事業」	平成 21-22 年	アメリカカンザイシロアリの診断・防除法の確立	吉村剛	1,200 千円
文部科学省/地球観測技術等調査研究委託事業	平成 22-23 年	「偏波豪製開口レーザデータを用いた大規模植林地のマイクロ波拡散メカニズムの解明とバイオマス推定手法の観察」	大村 善治	7,973 千円 (間接経費含む)

## Appendix 2. G-COE ワーキングペーパーリスト (2010年3月現在)

CSEAS No.	G-COE No.	発行年月	タイトル	名前	所属
3	1	March 2008	STUDIES ON HANOI URBAN TRANSITION IN 20th CENTURY BASED ON GIS/RS	Ho Dinh Duan/Mamoru Shibayama	Institute of Resources Geography, HCMC, Vietnam/CSEAS
4	2	March 2008	Beyond the Sunni-Shiite Dichotomy: Rethinking al-Afghani and His Pan-Islamism	Junichi Hirano	ASAFAS
5	3	June 2008	Impacts of the Tank Modernization Programme on Tank Performance in Tamil Nadu State, India	Kuppanan Palanisami/Muniandi Jegadeesan/ Koichi Fujita/Yasuyuki Kono	CSEAS
6	4	September 2008	Struggle for Political Space in post-War Iraq: Contending Relations between ex-Exile Ruling Parties and Later-formed Parties	Dai Yamao	ASAFAS
7	5	September 2008	The Institutional Formation Process of Communal Forest Management in Northeast Thai Villages	Fumikazu Ubukata	CSEAS
8	6	October 2008	Pagodas and Wedding Vows: Buddhist and Sectarian Practices in Karen State	Yoko Hayami	CSEAS
9	7	October 2008	Health Hazards in 19th Century India: Malaria and Cholera in Semi-Arid Tropics	Kohei Wakimura	Graduate School of Economics, Osaka City University
10	8	December 2008	Centering Peripheries: Flows and Interfaces in Southeast Asia	Noboru Ishikawa	東南アジア研究所
11	9	December 2008	A virus, Democracy, and Sustainable Society: the Experience of Community-based HIV/AIDS Programs among the Gurage, Southern Ethiopia	Makoto Nishi	東南アジア研究所
12	10	December 2008	Historical Formation of Pan-Islamism: Modern Islamic Reformists Project for Intra-Umma Alliance and Inter-Madhahib Rapprochement	Junichi Hirano 2	アジア・アフリカ地域研究研究 科
13	11	December 2008	Monitoring of Lightning Activity in Southeast Asia: Scientific Objectives and Strategies	Toru Adachi/Yukihiro Takahashi/Hiroyo Ohya/ Fuminori Tsuchiya/Kozo Yamashita/Mamoru Yamamoto/Hiroyuki Hashiguchi	IRSH

14	12	December 2008	Cambodia Area Studies 1 カンボジアにおけるコメ産業の現状とその課題 Present Condition and Problems of Rice Industry in Cambodia	石川 晃士	名古屋大学大学院 国際開発研究科
15	13	December 2008	Prospect of Building a Local Self-government at the Upazila/ Thana Level : Towards a Decentralized Rural Administration in Bangladesh	Md. Taufiqul Islam/Koichi Fujita	CSEAS
16	14	January 2009	Transformation of the Iraqi Islamist Parties and their Framing in the Changing Regional and International Political Environments	Dai Yamao 2	ASAFAS
17	15	January 2009	東北タイにおける信用組合の展開 Rural Credit Unions in Northeast Thailand	大野 昭彦/Patcharin Lapanun	青山学院大学国際政治経済学部
18	16	February 2009	「アーユルヴェーダ」をいかに現代に活かすか インド、アメリカ、日本における実践からの一考察 How to Utilize Ayurveda in Contemporary India, United States and Japan	加瀬澤 雅人	東南アジア研究所
19	17	January 2009	Enzymatic Saccharification and Ethanol Production of Trunk in Tropical Trees	Rumi Kaida/Tomomi Kaku/Kei'ichi Baba/ Masafumi Oyadomari/Takashi Watanabe/Sri Hartati Enny Sudarmonowati/Takahisa Hayashi	IRSH
20	18	January 2009	Depression of Community-Dwelling Elderly in Three Asian Countries: Myanmar, Indonesia, and Japan	Taizo Wada	東南アジア研究所
21	19	February 2009	トルコにおける地震の記憶の活用をめぐって Utilizing Disaster Memory as Cultural Resource in Turkey	木村 周平	東南アジア研究所
22	20	March 2009	可能性としてのハイパー・モビリティ:生存基盤持続型社会の潜在力の表現としての人の移動に関する広域比較研究・序説 Perspectives from Hyper Mobile Societies: Towards Sustainable Humanosphere Paradigm	石橋 誠/小張 順弘/渡邊 暁子/細田 尚美	東南アジア研究所
23	21	February 2009	Improving Primary Raw Materials for Biofuels	Rumi Kaida/Takahisa Hayashi	生存圏研究所
24	22	February 2009	インドネシア海洋大陸域における日変化特性の研究 A Study on Characteristics of Diurnal Variations over Indonesian Maritime Continent	田畑 悦和	生存圏研究所

25	23	February 2009	現代アラブ世界の展開と学術用語の整備-タアリーブ(アラビア語化)による外来語受容とナハトによる造語法を中心に- The Growth of Modern Standard Arabic and the Adaptation of Scientific Technological Terms with Special Reference to Ta'rib and Naht	竹田 敏之	アジア・アフリカ地域研究研究科
26	24	February 2009	Land-use Change in the Lake Inle Catchment, Myanmar: Implications for Acceleration of Soil Erosion and Sedimentation	Takahisa Furuichi	アジア・アフリカ地域研究研究科
27	25	February 2009	The Making of 'Thai Silk' as a National Tradition	Junko Koizumi	東南アジア研究所
28	26	February 2009	リスク人類学シリーズ 1 2004年インド洋大津波のプーケット観光への影響 Effect of the 2004 Indian Ocean Tsunami on Phuket Tourism	市野澤 潤平	東京大学大学院総合文化研究科
29	27	February 2009	リスク人類学シリーズ 2 生活を脅かす“リスク”と浮遊する“安全な水”～バングラデシュ飲用水砒素汚染問題の事例から～ “Risk” in life and “Safe Water” in uncertainty: A Case Study on Arsenic Contamination Problem of Drinking Water in Bangladesh	松村 直樹	名古屋大学大学院国際研究科
30	28	February 2009	リスク人類学シリーズ 3 老いはリスクか？ Is “Growing Old” the Risk? : From the Viewpoint of Nursing Care	福井 栄二郎	島根大学法文学部
31	29	February 2009	リスク人類学シリーズ 4 生命という不確実性とリスク:インドにおける代理懐胎をめぐる Uncertain Life and its Risk: A Study of Surrogacy in India	松尾 瑞穂	人文科学研究所
32	30	February 2009	リスク人類学シリーズ 5 日本における HIV/AIDS とリスクの構築—「ゲイ・コミュニティ」言説の生成プロセスに関する視点から— HIV/AIDS and the Construction of Risk in Japan: From the Perspective of Process of Forming Discourses on “Gay Communities”	新ヶ江 章友	名古屋市立大学大学院看護学研究科
33	31	February 2009	リスク人類学シリーズ 6	西 真如	東南アジア研究所

			不一致と関与—エチオピアのグラゲ県住民による HIV/AIDS への取り組み— The Involvement Approach to HIV/AIDS		
34	32	February 2009	リスク人類学シリーズ 7 不安・リスク・不確実性: 人類学的リスク研究への一考察 Angst, Risk, and Uncertainty: A Step toward Anthropology of Risk	木村 周平	東南アジア研究所
35	33	February 2009	リスク人類学シリーズ 8 降りる、逃げる、旅立つ—リスク社会の人類学的オルタナティブ構想— Quit, Escape or Go on a Journey: Toward an Anthropological Alternative to the Risk Society	東 賢太郎	宮崎公立大学人文学部
36	34	March 2009	生存圏に宇宙は必要なのか-イノチのつながりと人と世界- Do We Really Need to Develop Space for Sustainable Humanopshere?	篠原 真毅	生存圏研究所
37	35	March 2009	Nomadic Pastoralists Adapting to the Challenge of Sedentarization in Arid Area of East Africa	SUN Xiaogang	東南アジア研究所
38	36	March 2009	タイにおける持続可能な稲作由来バイオマス発電の現状と展望 Current Status and Future Perspective of Sustainable Biomass Power Generation derived from Rice Field in Thailand	園部 太郎/佐藤 孝宏/奥村 与志弘/広田 勲/ 津田 冴子/小石 和成/大村 善治	東南アジア研究所
39	37	March 2009	タンザニア南部、マテンゴ高地における農村開発の展開と住民の対応-住民参加型開発プロジェクトの「副次効果」分析から- People's Response to Rural Development Dynamics in the Matengo Highlands, Southern Tanzania: with Special Reference to the "Side Effect" of the Participatory Rural Development Project	黒崎 龍悟	アジア・アフリカ地域研究研究科
40	38	March 2009	Getting Villagers Involved in the System: the Politics, Economics and Ecology of Production Relations in the Thai Pulp Industry	Fumikazu Ubukata 2	東南アジア研究所
41	39		ナミビア乾燥地域に暮らす農牧民の自然資源利用におけるフロンティアの役割とその変化 Changes in Natural Resource Use in the Local Frontier among Agro-pastoralists of North-Central Namibia	藤岡 悠一郎	アジア・アフリカ地域研究研究科
42	40	March 2009	Reconsidering <i>Mudaraba</i> Contracts in Islamic Finance: What is the Economic Wisdom ( <i>Hikma</i> ) of Partnership-based Instruments?	Shinsuke Nagaoka	アジア・アフリカ地域研究研究科
43	41	March 2009	熱帯アシアの育種	鈴木 史朗/服部 武文/梅澤 俊明	生存圏研究所

			Molecular Breeding of Tropical Acacia		
44	42	March 2009	Cultural Politics of Life: Biomoral Humansphere and Vernacular Democracy in Rural Orissa, India	Akio Tanabe	人文科学研究所
45	43	March 2009	技術と社会のネットワーク b—研究課題と展望— Network between the Technological and the Social: Research Agenda and Perspective	田辺・加瀬澤 編	人文科学研究所・東南アジア研究所
46	44	March 2009	The Potential of Ambiguous Identities among Pastoralists in the Modern State: a Case Study of the Emergence of New Ethnic Identities in Northern Kenya Following a National Election	Naoki Naito	アジア・アフリカ地域研究研究科
47	45	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 1 ザンビアにおける食糧安全保障体制と生存基盤 Food Security Institution and Humansphere in Zambia	松村 圭一郎	人間環境学研究所
48	46	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 2 友を待つ—ダサネッチによる「敵」への歓待と贈与— Waiting on a Friend: Gift and Hospitality to the 'Enemy' in the Daasanach of Southwestern Ethiopia	佐川 徹	大学院アジアアフリカ地域研究研究科
49	47	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 3 野宿者にとって「地域福祉」とは何か What is "Community Welfare" for Homeless People?	山北 輝裕	関西学院大学大学院社会学研究科
50	48	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 4 公共空間をつくる—ポスト社会主義期モンゴル・ウランバートル市の事例から— Making Public Spaces: A Case Study in Ulaanbaatar City, Post-Socialist Mongolia	西垣 有	大阪大学大学院人間科学研究科
51	49	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 5 ビルマ: 紛争の現代的特徴と難民キャンプの生活世界 Current Features of Conflict in Burma and Social World of Refugee Camp in Thailand	久保 忠行	神戸大学大学院国際文化学研究科
52	50	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ 6 焼畑耕作がミャンマー・バゴー山地カレン村落周辺の森林植生の長期的変化に与える影響 Effect of shifting cultivation on long-term change in forest vegetation around Karen village in the Bago Mountains, Myanma	鈴木 玲治/竹田 晋也	東南アジア研究所/アジアアフリカ地域研究研究科

53	51	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ7 レバノン内戦の記憶に関する予備的考察—宗派という視点— A Preliminary Study of Civil War Memory in Lebanon: Sect as a Viewpoint	池田 昭光	東京都立大学大学院社会科学 研究科
54	52	March 2009	生存を支える地域/社会シリーズ8 レソト山岳地の生業とその変遷 Changing Livelihoods in a Mountain Area of Lesotho	長倉 美予	アジア・アフリカ地域研究研究 科
55	53	March 2009	Coal, Firewood and Plant Stalks: Availability of Fuel and Development of Industries in Early Nineteenth-Century Bengal	Sayako Kanda	慶應義塾大学経済学部
56	54		Transformation of Clan Politics into Party Politics in Kyrgyzstan (2005-2008)	Esen Urmanov	東京外国語大学
57	55	March 2009	現代中央アジアにおける女性の仕事:ウズベキスタン、ホラズム州ヒヴァ市の絨毯工房を取り上げて Work and Women in Contemporary Central Asia: A Case Study of Carpet Factories in Khiva, Khorazm Province, Uzbekistan	宗野 ふもと	アジア・アフリカ地域研究研究 科
58	56	March 2009	Islam and Democratization in Contemporary Kuwait: The Political Participation of Women and the Formation of the Civil Society	Aiko Hiramatsu	アジア・アフリカ地域研究研究 科
59	57	March 2009	Games to get Hegemony in Iranian Politics: Participation of Islamic Jurists after the Revolution	Kenji Kuroda	アジア・アフリカ地域研究研究 科
60	58	March 2009	SCM(Supply Chain Management)による救急医療体制の最適化 Optimization of Emergency System by SCM (Supply Chain Management)	亀井 敬史	生存基盤科学研究ユニット
61	59	March 2009	Ethnobotanical Study of Local Practices Maintaining Landrace Diversity of Bananas ( <i>Musa spp.</i> ) and Enset ( <i>Ensete ventricosum</i> ) in East African Highland	Yasuaki Sato	アジア・アフリカ地域研究研究 科
62	60	March 2009	Generation of DEM for Urban Transformation of Hanoi, Vietnam	Go Yonezawa	生存基盤科学研究ユニット
63	61	March 2009	West African Rice Green Revolution by Sawah Eco-technology and the Creation of African SATOYAMA Systems	Toshiyuki Wakatsuki/Moro M. Buri/Oladimeji I. Oladele	近畿大学農学部
64	62	March 2009	東南アジアの農村はどれくらい自給的か How Did Peasants in Southeast Asia Change their Subsistence Agriculture?	星川 圭介	地域研究統合情報センター

65	63	March 2009	Occupational Change and Upward Mobility of Low Income Residents in Bangkok	Tamaki Endo	埼玉大学経済学部
66	64	March 2009	The Impact of CPA's Power Sharing Arrangements on the Process of Democratic Transformation in Sudan	Mohamed Omer ABDIN	東京外国語大学大学院 平和構築・紛争予防プログラム
67	65	March 2009	Cambodia Area Studies 2 カンボジア王国の精神医学・医療についての報告 A Report on the Mental Health Situation in Cambodia Naofumi Yoshida	吉田 尚史	早稲田大学大学院文学研究科
68	66		19世紀の東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑の移動	籠谷 直人	人文科学研究所
69	67	March 2009	アイデンティティの柔軟性と重層性に関する研究－東アフリカの牧畜社会における他者と自己の構築 Construction of Self and Others in the East African Pastoralists' Societies: Flexibility and Plurality of Identities	中村 香子/内藤 直樹	アジア・アフリカ地域研究研究科
70	68	March 2009	タイ国・バンドン湾における沿岸域利用 Coastal-zone use of Bandon bay: Area Study in SuratThani Province, South Thailand	渡邊 一哉	東南アジア研究所
71	69	March 2009	Cambodia Area Studies 3 カンボジア農村におけるベトナム人と地方行政の関わり「不当な」料金徴収とその影響をめぐって Ethnic Vietnamese and Local Authorities A Look at B Village, Prey Veng, Cambodia	松井 生子	広島大学大学院
72	70		A Multivariate Model of the Integrated Radiometric Correction Method of Optical Remote Sensing Imageries with Consideration to Terrain Irradiance	Shoko Kobayashi/Kazadi SANGA-NGOIE	生存圏研究所
73	71	March 2009	Aspects of Labour Intensive Economy around Bicycles in Modern India with Special Focus on the Import from Japan	Takashi Oishi	神戸市立外国語大学
74	72	March 2009	生のつながりへの想像力 1 生のつながりへの想像力—再生産の文化への視点 Imagining Relatedness of Life: New Perspectives towards the Culture of Reproduction	速水 洋子	東南アジア研究所
75	73	March 2009	生のつながりへの想像力 2 人の断片化か、新たな関係性か: イタリアの生殖技術論争の事例から Fragmentation of Person or Generation of New Relatedness?: Through the Debate on the Reproductive	宇田川 妙子	国立民族学博物館

			Technology in Italy		
76	74	March 2009	生のつながりへの想像力 3 同性愛者のパートナーシップと家族、次世代への継承 Partnership, Family and Continuity to the Next Generation among Gay Men and Lesbians	砂川 秀樹	実践女子大学
77	75	March 2009	生のつながりへの想像力 4 トランスナショナルな家族にみる“つながり”の生成と再編: パキスタン人男性と日本人女性の国際結婚の事例から (Re)Creating “Relatedness” through a Transnational Family: Case Studies of Pakistani Migrants and Their Japanese Wives	工藤 正子	東京大学大学院総合文化研究
78	76	March 2009	Series on Imagining Relatedness of Life 5 Creating a New Life through Persimmon Leaves The Art of Searching for Life-design for Greater Well-being in a Depopulated Town	Nanami Suzuki	National Museum of Ethnology
79	77	March 2009	災害に立ち向かう地域／研究 生存基盤持続型の発展に向けた再想像＝創造のための素描 Tackling Natural Disasters Re-Imagining Area Studies for Sustainable Humansphere	清水 展	東南アジア研究所
80	78	April 2009	Living in an Occupied Hometown, Jerusalem: A Study on the Lives of Palestinians under the Israeli Policy of the “Residency Right”	Hiromi Tobina	ASAFAS
81	79	June 2009	Aspects of Tank Irrigated Agrarian Economy in Tamil Nadu, India: A Study of Three Villages	Muniandi Jegadeesan/Koichi Fujita	東南アジア研究所
82	80	June 2009	Discourse and Social Relationships in Land Tenure Evaluation: A Claim for Land Rights in an African Agrarian Society	Shiraishi I Soichiro	関西学院大学
83	81	June 2009	Islamic Higher Education in Contemporary Indonesia: Through The Islamic Intellectuals of al-Azharite Alumni	Kinoshita Hiroko	連環地域論講座
84	82	November 2009	アフリカ地域社会における資源管理とガバナンスの再編—住民の生計戦略をめぐる協働とコンフリクト Reforming Resource Management and Governance in African Rural Societies: Collaboration and Conflict in Livelihood Strategies	白石 壮一郎 編	関西学院大学大学院社会学研究科

85	83	November 2009	植民地期のカンボジアにおける対仏教政策と仏教界の反応 The Policies toward Buddhism and the Responses of the Buddhist Monks in Colonial Cambodia	笹川 秀夫	立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部
86	84	February 2010	Media History of Modern Egypt: A Critical Review	千葉 悠志	ASAFAS 博士一貫課程
87	85	February 2010	モンゴル牧畜社会における銀製品 —その経済的な価値と文化的な価値 Silver goods in Pastoral Society in Mongolia: Their Economic values and cultural meanings	風戸 真理	地域研究統合情報センター
88	86	February 2010	The Reconfiguration of Cambodian Rural Social Structure: With the Special Focus on the People <i>called</i> as <i>Chen</i> and <i>Khmae</i>	小林 知	東南アジア研究所
89	87	March 2010	地球圏・生命圏・人間圏の世界地図-生存基盤指数の構築に向けて- The Atlas of Geosphere, Biosphere and Humansphere - Toward	佐藤 孝宏/和田 泰三/黒崎 龍悟	東南研/東南研/京大アフリカ地域研究資料センター
90	88	may 2010	東南アジアでの自然災害に即応する情報提供:ミャンマー国サイクロン・ナルギス関連情報ウェブサイトの経験 Potential of a website for disaster relief and restoration in Southeast Asia:Experience of Cyclone Nargis, Myanmar	古市 剛久	東京農工大学 環境リーダー育成センター
91	89	may 2010	依存から「自律」へ—難民の自助的活動に関する人類学考察— From Dependence to “Autonomy” of Refugees:An Anthropological Study on Refugees’ Self-help Activities	久保 忠行	神戸大学大学院
92	90	may 2010	祭りの「参加」制度の変更と「関与」の連続性—三重県熊野灘沿岸部・相賀浦地区を例として— Change and Continuity in a Local Village Festival:A Case Study of the Okaura Area in Mie Prefecture	中川 千草	関西学院大学大学院社会学研究
93	91	may 2010	都市に／が居座ること—出来事としての都市についての試論— Obduracy in/of City: An Anthropological Essay on the City as a Chain of Events	木村 周平	富士常葉大学社会環境学部
94	92	June 2010	ダンスホール・ゴスペルの男性イメージとジャマイカの教会コミュニティ—男性イメージが集団に与える影響を考察するための概念整理にむけて— Dancehall Gospel’s Male Image and Jamaican Church Communities: Conceptual Framework to Study the Influence of the Male Image on Social Groups	二宮 健一	神戸大学大学院国際文化学研究科・博士後期課程
95	93	June 2010	現代モンゴルの地方社会における牧畜経営—草原と定住地の関係を中心に—	富田 敬大	立命館大学先端総合学術研究

			Pastoral Management in Local Society in Modern Mongolia: Focusing on the Relationship between Settlement and Pastureland		科・一貫制博士課程
96	94	June 2010	被差別マイノリティによる「民族」の主張—エチオピア南西部に暮らすマンジョの請願活動と政 府決議— Claiming Ethnicity by Discriminated Minority: Petitions by the Manjo and Resolution in Southwest Ethiopia	吉田 早悠里	名古屋大学大学院文学研究 科・博士課程
97	95	June 2010	ミャオ族の麻文化—人と人、人と死者のつながりの変化と持続から— Hemp Culture among the Miao People: Change and Sustainable Connection between the Living and the Living, or the Living and the Dead	宮脇 千絵	総合研究大学院大学文化科学 研究科地域文化学専攻・博士課 程
98	96	June 2010	妖術を管理する：サハラ以南アフリカにおける妖術と国家 Administrating Witchcraft: State and Witchcraft in Sub-Saharan Africa	神谷 良法	名古屋大学大学院文学研究科 博士研究員
99	97	June 2010	少年の移動と「ストリート・チルドレン」—ブルキナファソ ワガドゥグの事例から— Movement of Children and “Street Children”: A Case study in Ouagadougou, Burkina Faso	清水 貴夫	名古屋大学大学院文学研究科 博士後期課程
100	98	June 2010	争われる投票モラルティ—フィリピン選挙における売買票とポピュリズム— Contested Voting Moralities: Vote Buying and Populism in Philippine Election	日下 渉	京都大学人文科学研究所
101	99	June 2010	大規模開発プロジェクトと周縁社会—エチオピア西南部のダム／農場建設と地域住民の初期対応 — Large-Scale Development Projects and the Marginalized Society in Ethiopia	佐川 徹	大阪大学人間科学研究科
102	100	December 2010	中東都市計画物語序説—番匠谷堯二の歩みと業績— Introduction to the Story of the Middle Eastern Urban Planning: The works of Banshoya Gyoji	松原 康介	筑波大学大学院システム情報 工学研究科社会システム・マネ ジメント専攻都市計画分野
103	101	February 2011	近代都市あるいは都市の近代—植民都市から世界の見通しを考える— A Review on History of Modern Urban Studies: Reconsideration of World Perspective from a Viewpoint of Colonial City Studies	山田 協太	ASAFAS
104	102	February 2011	Border Crossing and labor Migration of the Lahu Hilltribe	Tatsuki Kataoka	ASAFAS

105	103	February 2011	Human Flows, Capital Advancement, and the Dynamics of a Border Social System in the Thailand-Burma Borderland	Lee Sang Kook	Assistant Professor of Institute for East Asian Studies, Sogang University, Seoul, Korea
106	104	February 2011	The Phenomenon of Cross-Border Human Trafficking: Complexities of Exploitation Issues in Thailand	Aungkana Kmonpetch	所属要確認
107	105	February 2011	The Challenge of Education Policy for Migrant children in Thailand from security standpoints	Premjai Vungsiriphisal	Senior Researcher, Asian Research Center for Migration, PhD Candidate in Development Education, Faculty of Education, Chulalongkorn University, Thailand
108	106	February 2011	Thai Female Migration to Japan: Flows and Consequences	Pataya Ruenkaew	所属要確認 associate to the Asian Research Center for Migration, Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand.
109	107	December 2010	セラピー統治とその脆弱性 北部ウガンダ・アチョリ地域における「平和構築のための伝統」 Therapeutic Governance and its Vulnerability “Tradition for Peace-Building” in the Acholi Sub-Region of Northern Uganda	榎本 珠良	東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程
110	108	December 2010	Inventory of Birds in Acacia Plantation in PT. Musi Hutan Persada, Indonesia.	Motoko S. Fujita/Tsuyoshi Yoshimura/Muhammad Iqbal/Satrio Wijamukti/Dwi Mulyawati/Wilson Novarino/Yuli Lestari/Bambang Supriadi/Rosyid Gunawan/Dewi M. Prawiradilaga	CSEAS
111	109	January 2011	Should Microcredit Be a Right for the Poor?: Credit Demand of Poor Households in Laos	ChansathithCHALEUNSINH/Koichi FUJITA/Fumiharu MIENO/Akihiko ONO	Graduate School of International Cooperation Studies, Kobe University/cseas/Graduate School of International Cooperation

					Studies, Kobe University/School of International Politics, Economics and Communication, Aoyama Gakuin University
112	110	February 2011	The Roles of Thai Labor Solidarity Committee and Alliances on the Movement for the Protection of Migrant Workers in Thailand	Tassanee Surawanna	Master of Arts Program in International Development Studies Faculty of Political Science Chulalongkorn University
113	111	February 2011	Constructed Reality of International Migration in Homeland Community:The Narratives of Life Histories of Returned Migrants in Northern Thailand	Tomoko Matsui	Researcher of Graduate School of Letters, Kyoto University
115	113	March 2011	市場経済化以後のカンボジア：経済活動の多面的な展開をめぐって Cambodia after the Marketization of Its Economy: An Examination of Three Facets of Economic Development	小林編 小林 知/ンガウ ペンホイ/柴沼 晃/功能 聡子 /矢倉 研二郎/山田 裕史	CSEAS/名古屋大学大学院国際開発研究科/政策研究大学院大学博士課程/ARUN, LLC. 代表/ 阪南大学経済学部/上智大学アジア文化研究所特別研究員

### Appendix 3. G-COE 平成 22 年度業績リスト

(1) 論文	
片岡 樹	片岡 樹(2011) 「跨境民・ラブ族」『中国 21』(愛知大学現代中国学会) 34 号: 225-242. (査読なし)
Wil de Jong	W. de Jong. Forest rehabilitation and its implication for forestry transition theory. 2010. <i>Biotropica</i> , 42(1): 3-9.
	Pacheco, Pablo, Wil de Jong, James Johnson. 2010. The evolution of the timber sector in lowland Bolivia: Examining the influence of three disparate policy approaches. <i>Forest Policy and Economics</i> , 12 271-276.
	Peter Cronkleton; Marco Antonio Albornoz; Grenville Barnes; Kristen Evans; Wil de Jong. 2010. Social geomatics: Participatory forest mapping to mediate resource conflict in the Bolivian Amazon. <i>Human Ecology</i> 38:65-76.
	K. Evans, W. de Jong, P. Cronkleton. 2010. Participatory methods for planning the future in forest communities. <i>Society and Natural Resources</i> 23 (7): 23: 604-619,
	B. Pokorny, C. Sabogal, W. de Jong, P. Pacheco. N. Porro, B. Loumann, D. Stoian. 2010. Challenges of community forestry in tropical America. <i>Bois et Forêts des Tropiques</i> 303 (1) 53-66.
長岡慎介	Shinsuke NAGAOKA “Reconsidering Mudarabah Contracts in Islamic Finance: What is the Economic Wisdom (Hikmah) of Partnership-based Instruments?” <i>Review of Islamic Economics</i> . 13(2), pp. 65-79, 2010.
	Shinsuke NAGAOKA “Kulliyah Korner: On the Theoretical Dichotomy of Islamic Finance.” <i>Opalesque Islamic Finance Intelligence</i> 6, pp. 19-20, 2011.
高田 明	高田 明 (2011). 転身の物語り: サン研究における「家族」再訪. <i>文化人類学</i> , 75(4), 551-573.
	高田 明 (印刷中). 文化人類学の考え方. 田島信元・南徹弘(編), 発達科学ハンドブック, 第 1 巻, 発達心理学と隣接領域の理論・方法論. 東京: 新曜社.
	Takada, A. (in press). Pre-verbal infant-caregiver interaction. In A. Duranti, E. Ochs, & B. B. Schieffelin (Eds.), <i>Handbook of language socialization</i> . Oxford: Blackwell.
	Takada, A. (in press). A personal environment: The application of folk knowledge amongst the San of the central Kalahari Desert. In <i>Handbook of indigenous knowledge and changing environments. Local and Indigenous Knowledge Systems (LINKS) Programme</i> , UNESCO.
	Takada, A. (in press). Language contact and social change in North-Central Namibia: Socialization via singing and dancing activities among the !Xun San. In C. Konig & O. Hieda (Eds.), <i>Tokyo university of foreign studies: Studies in linguistics Vol.2, Geographical typology and linguistic area: With special reference to Africa</i> . Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

山本佳奈	山本佳奈「湿地開発をめぐる住民の対立と折り合いーボジ高原イテプーラ村の事例」『アフリカ地域研究と農村開発』京都大学学術出版会、2010 p.123-146
田中雅一	田中雅一「伝統のリズムにのって——一九九〇年以後の共同研究のあゆみ」谷泰・田中雅一編『人類学の誘惑——京都大学人文科学研究所社会人類学部門の五〇年』2010、pp.32-38。
	田中雅一「寡婦——都合のいい女？それとも悪い女？」椎野若菜編『「シングル」で生きる——人類学者のフィールドから』御茶の水書房、2010、pp.127-140。
	田中雅一「通過儀礼」田中雅一・田辺明生編『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社、2010、pp.118-130。
	田中雅一「王権と支配」田中雅一・田辺明生編『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社、2010、pp.131-143。
	田中雅一「男性身体と野生の技法」床呂郁哉・河合香史編『もの人類学』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2011、pp.157-176。
	田中雅一「運命的瞬間を求めて——フィールドワークと民族誌記述の時間」西井涼子編『時間の人類学——情動・自然・社会空間』世界思想社、2011、pp.115-140。
	田中雅一「交叉イトコ婚からシマイ交換婚へ——スリランカ・タミル漁村における初潮儀礼と結婚式の分析」『関西学院大学社会学部紀要』111号、2011、pp.57-70。
	田中雅一「コンタクト・ゾーンとしての占領期ニッポン——「基地の女たち」をめぐる」田中雅一・船山徹編『コンタクト・ゾーンの人文学 第1巻 Problematique/問題系』晃洋書房、2011、pp.187-210。
水野広祐	水野広祐 2010「センチュリー銀行スキャンダルとインドネシア経済」『東亜』No.515、2010年5月号、10-11 ページ
	水野広祐 2010「ポスト権威主義体制下・民主化インドネシアの労働運動と労使関係」『Int'lecowk-国際経済労働研究』Vpl/65,No.5・6. 2010年5/6月号、50-51 ページ
	水野広祐 2010「汚職スキャンダルとインドネシア政治」『東亜』No.518、2010年8月号、10-11 ページ
	水野広祐 2010「ACFTA とインドネシア「非工業化」のジレンマ」『東亜』No.521、2010年11月号、10-11 ページ
	水野広祐、2011「民主化インドネシアにおける華人—苦悩と発展」『東亜』No.524、2011年2月号、10-11 ページ
	Mizuno, Kosuke, Haris Gunawan, "Conservation of peat bog and agroforestry in Indonesia", Takamitsu Sawa et al. ed., <i>Achieving the Global Sustainability :Policy Recommendation</i> , UN University Press, pp.162-174 (近刊、査読有)
吉村 剛	Morina Adfa, Tsuyoshi Yoshimura, Kenichi Komura, Mamoru Koketsu, 「Antitermite activities of coumarin derivative and scopoletin from <i>Protium javanicum</i> Burm. f.」, J. Chem. Ecol., 36, 2010, 720-726
	Aya Yanagawa, Tsuyoshi Yoshimura, Takashi Yanagawa, Fumio Yokohari, 「Detection of a humidity difference by antennae in the termite <i>Coptotermes formosanus</i> (Isoptera: Rhinotermitidae)」, Sociobiology, 56 (1), 2010, 255-269

吉村 剛	吉村 剛、「アメリカカンザイシロアリの生態と防除の動向」、住宅と木材、2010年6月号(第390号)、2010年、13-17
	吉村 剛、「熱帯人工林におけるシロアリおよび木材腐朽菌類の多様性調査」、しろあり、No.154、2010年、13-20
	吉村 剛、「最新のシロアリ防除法にはどんなものがあるか?」 木材工業、65(11)、2010年、553
	吉村 剛、「シロアリの生態とその防除方法に関する研究」、環動昆、21(4)、2010、259-265
	Tsuyoshi Yoshimura, 「Evaluation of biodiversity of termites and wood-decaying fungi in tropical plantation forests」, Sustainable Humansphere, No.6, 2010, 9
	大村和香子、桃原郁夫、木口 実、吉村 剛、竹松葉子、源濟英樹、野村 崇、金田利之、三枝道生、前田恵史、谷川 充、「異なる劣化環境下における日本産および外国産樹種の耐蟻性能」、木材学会誌、57、2011、26-33
	Michael Lenz, Chow-Yang Lee, Michael J. Lagey, Tsuyoshi Yoshimura, Kunio Tsunoda, 「The potential and limits of termites (Isoptera) as decomposers of waste paper products」, J. Econ. Entomol., 104(1), 2011, 232-242
	Evren Terzi, Cihat Tascioglu, S. Nami Kartal, Tsuyoshi Yoshimura, 「Termite resistance of solid wood and plywood treated with quaternary ammonium compounds and common fire retardants」, Int. Biodeter. Biodegr., 65, 2011, 565-568
篠原真毅	Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, Hiroshi Matsumoto, Masayuki Aiga, Nagisa Kuwahara, and Takeshi Ishii, “Experimental Study on Axial Dependence of Anode Current Distribution in an Oven Magnetron”, IEEE Trans. ED, vol.57, no.5, 2010, pp.1167- 1172
	Taro Sonobe, Tomohiko Mitani, Kan Hachiya, Naoki Shinohara, and Hideaki Ohgaki, “Zinc Plasma Emission from Zinc Oxide Ceramics under a Microwave Electric Field”, Japanese Journal of Applied Physics (JJAP), Vol. 49, 2010, pp.080219-1 – 080219-3
	Naoki Shinohara and Hiroshi Matsumoto, “Research on Magnetron Phased Array with Mutual Injection Locking for Space Solar Power Satellite/Station”, Electronics and Communications in Japan, Vol. 173, No.2, 2010, pp.21-32
増原善之	“Ekasan Thang Lasakan nai Samai Anachak Lan Sang (ランサン王国時代における行政文書について; ラオス語)” In The Collection and Conservation of Local Documents and Oral History in Lao PDR (FY 2007~2010), Ketsadong Silythone ; Masuhara Yoshiyuki (eds.). Vientiane: Faculty of Social Science, National University of Laos. 2011: pp.236-258.
甲山 治	甲山 治. 2011. 「モンスーンアジアにおける水田と大気・水循環」 『シーダー4号 水はめぐる—水田がつなぐ知恵— 昭和堂 (2011/03)』, p44-53.
大村善治	Mitsuru Hikishima, Yoshiharu Omura, and Danny Summers, Microburst precipitation of energetic electrons associated with chorus wave generation, Geophysical Research Letters, VOL. 37, L07103, doi:10.1029/2010GL042678, 2010. (査読付き)

大村善治	J. S. Pickett, B. Grison, Y. Omura, M. J. Engebretson, I. Dandouras, A. Masson, M. L. Adrian, O. Santolik, P. M. E. Decreau, N. Cornilleau-Wehrin, and D. Constantinescu, Cluster observations of EMIC triggered emissions in association with Pc1 waves near Earth's plasmapause, <i>Geophysical Research Letters</i> , VOL. 37, L09104, doi:10.1029/2010GL042648, 2010. (査読付き)
	M. N. Nishino, M. Fujimoto, Y. Saito, S. Yokota, Y. Kasahara, Y. Omura, Y. Goto, K. Hashimoto, A. Kumamoto, T. Ono, H. Tsunakawa, M. Matsushima, F. Takahashi, H. Shibuya, H. Shimizu and T. Terasawa, Effect of the solar wind proton entry into the deepest lunar wake, <i>Geophysical Research Letters</i> , 2010. (査読付き)
	Yoshiharu Omura, Jolene Pickett, Benjamin Grison, Ondrej Santolik, Iannis Dandouras, Mark Engebretson, Pierrette M. E. Décreau, and Arnaud Masson, Theory and observation of electromagnetic ion cyclotron triggered emissions in the magnetosphere, <i>JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH</i> , VOL. 115, A07234, doi:10.1029/2010JA015300, 2010.(査読付き)
	K. Hashimoto, M. Hashitani, Y. Kasahara, Y. Omura, M. N. Nishino, Y. Saito, S. Yokota, T. Ono, H. Tsunakawa, H. Shibuya, M. Matsushima, H. Shimizu, and F. Takahashi, Electrostatic solitary waves associated with magnetic anomalies and wake boundary of the Moon observed by KAGUYA, <i>GEOPHYSICAL RESEARCH LETTERS</i> , VOL. 37, L19204, doi:10.1029/2010GL044529, 2010. (査読付き)
	Mitsuru Hikishima, Yoshiharu Omura, and Danny Summers, Self-consistent particle simulation of whistler mode triggered emissions, <i>JOURNAL OF GEOPHYSICAL RESEARCH</i> , VOL. 115, A12246, doi:10.1029/2010JA015860, 2010(査読付き)
千葉悠志	千葉悠志「アラブ世界の衛星放送市場化をめぐる一考察：多チャンネル化の進展とアクセシビリティの変化に着目して」『越境するメディアと社会変容に関する共同研究』、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究家大学院教育改革支援プログラム支援室、pp.3-11、2011年3月。
	Chiba Yushi. The Transformation of Contemporary Arab Media: Regional and Grobal Competition. IPSJ SIG Technical Report. Vol.2011-DD-80 No.10. 6p. 2011年3月。
	千葉悠志「ナショナル・メディアの時代：1950～80年代のエジプトにおけるメディア政策の変容」『日本中東学会年報』第26(2)、pp. 57-88、2011年2月。
	千葉悠志「〈主題年表〉現代アラブ世界におけるメディア史年表」『イスラーム世界研究』4(1)、印刷中。
佐藤史郎	佐藤史郎「NPTの不等性」と『非核兵器国に対する安全の保証』の論理」、『平和研究』、第35号、早稲田大学出版部、2010年10月、109-127頁。査読あり。
速水洋子	Hayami, Yoko“Pagodas and Prophets: Contesting Sacred Space and Power among Buddhist Karen in Karen State” <i>Journal of Asian Studies</i> . Vol.70 No.3. 2011 (accepted for publication 11月発行予定 掲載頁は未定) 査読有
	速水洋子「序 親子から生のつながりを問い直す <特集>親子のつながりー人類学における親族／家族研究再考」『文化人類学』75巻4号：483-493頁。2011年 査読有

峯 陽一	峯 陽一 「アパルトヘイトの経験を通して『違う未来』を見る」 ミーダーン 〈パレスチナ・対話のための広場〉 編『〈鏡〉としてのパレスチナ—ナクバから同時代を問う』現代企画室、2010年5月、第4章、158-188 ページ。
	峯 陽一 「外国人の子どもの教育と人間の安全保障・社会的再生産」 佐藤誠編『越境するケア労働—日本、アジア、アフリカ』日本経済評論社、2010年12月、第12章、222-246 ページ、（小島祥美との共著論文）。
	Yoichi Mine 'Human Security: Bounds of Possibility' 『同志社グローバル・スタディーズ』第1号、2011年3月、pp. 81-91.
古市剛久	Furuichi,T., Wasson, R.J., accepted. Placing sediment budgets in the socio-economic context for management of sedimentation in Lake Inle, Myanmar (Burma). In: <i>Sediment Problems and Sediment Management in Asian River Basins</i> (ed. Walling, D.E.), IAHS Red Book.
	Sidle, C., Furuichi, T., Kono, Y., 2010. Unprecedented rates of landslide and surface erosion along a newly constructed road in Yunnan, China. <i>Natural Hazards</i> . DOI 10.1007/s11069-010-9614-6.
	古市剛久, 2010b. 東南アジアでの自然災害に即応する情報提供. —ミャンマー国サイクロン・ナルギス関連情報ウェブサイトの経験—. <i>Kyoto Working Papers on Area Studies</i> No.90 (G-COE Series 88), 16pp.
東長 靖	東長 靖、スーフィズムの成立と発展、佐藤次高編『イスラームの歴史1 イスラームの創始と展開』、2010年、155-195 頁
	東長 靖、スーフィー教団の革新と再生、小杉泰編『イスラームの歴史2 イスラームの拡大と変容』、2010年、62-91 頁
	東長 靖、クシャイリー『クシャイリーの論攷』より「聖者の奇蹟」章 解題・翻訳ならびに訳注、イスラーム世界研究、4巻 1/2号、2011年、
	東長 靖、民間信仰としてのスーフィズム—聖者信仰をめぐる、小林春夫ほか編『イスラームにおける知の構造と変容—思想史・科学史・社会史的視点から』、2011年、285-306 頁
和田泰三	Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Ishine M, Ishikawa M, Nakajima S, Hozo R, Ge RL, Norboo T, Otsuka K, Matsubayashi K. Strong association between polycythemia and glucose intolerance in elderly high-altitude dwellers in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> . 2010 Mar;58(3):609-11.
	Matsubayashi K, Wada T, Ishine M, Sakamoto R, Okumiya K, Ishikawa M, Yamanaka G, Yamamoto N, Otsuka K, Nishinaga M, Doi Y, Murakami S, Fujisawa M, Yano S. Community-based geriatric assessment and preventive intervention lowered medical expenses for the elderly. <i>J Am Geriatr Soc</i> . 2010 Apr;58(4):791-3.
	Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Ishine M, Ishikawa M, Nakajima S, Hozo R, Ge RL, Norboo T, Otsuka K, Matsubayashi K. Diabetes mellitus and hypertension in elderly highlanders in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> . 2010 Jun;58(6):1193-5.
	Matsubayashi K, Wada T, Ishine M, Sakamoto R, Okumiya K, Otsuka K: Mood disorders in the community-dwelling elderly in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> .58(1)213-214.2010

舟橋健太	舟橋健太、「不可触民」、田中雅一・田辺明生（編）『南アジア社会を学ぶ人のために』、世界思想社、2010年10月20日、60-73頁
	舟橋健太、「信じるもの／おこなうものとしての〈宗教〉—現代北インドにおける「改宗仏教徒」の事例から—」、吉田匡興・石井美保・花淵馨也（編）『宗教の人類学』（シリーズ 来たるべき人類学 第3巻）、春風社、2010年11月19日、3-35頁
遠藤 環	Tamaki Endo, 'Occupational Change and Upward Mobility of Low Income Residents in Bangkok', 『東南アジア研究』 Vol.48 No.2, 2010年9月、pp.131-154.
河野泰之	Sidle, R.C., Furuichi, T., Kono, Y., 2010. Unprecedented rates of landslide and surface erosion along a newly constructed road in Yunnan, China. <i>Natural Hazards</i> , DOI 10.1007/s11069-010-9614-6.
	Gunawan, H., Kobayashi, S., Mizuno, K. and Kono, Y. 2010. Degradation and Preliminary Efforts to Recovery Tropical Peat Swamp Forests in Riau's Biosphere Reserve, Sumatra, Indonesia. 『熱帯生態学会年次大会講演要旨集』, pp. 47-48.
	Ahmad Muhammad and Yasuyuki Kono. 2010. Smallholder rubber farm in Riau, Indonesia: Its contributions to rural livelihood, biodiversity conservation and climate change mitigation, <i>Proceedings of IUFRO World Congress</i> .
	河野泰之. 2010. 「焼畑農耕とモノ・カルチャー」, 総合地球環境学研究所編『地球環境学事典』, 東京: 弘文堂, pp. 252-253.
	河野泰之. 2010. 「雨緑樹林の生物文化」, 総合地球環境学研究所編『地球環境学事典』, 東京: 弘文堂, pp.196-197.
	河野泰之. 2010. 「人はどこに住む? 1-ラオス人の居住空間」, 菊池陽子, 鈴木玲子, 阿部健一編『ラオスを知るための60章』, 東京: 明石書店, pp. 14-18.
	Xianfeng Song, Zheng Duan, Yasuyuku Kono and Mingyu Wang. 2011. Integration of remotely sensed C factor into SWAT for modeling sediment yield, <i>Hydrological Process</i> , DOI: 10.1002/hyp.8066.
小杉 泰	KOSUGI Yasushi, "The Islamic Umma And Umma-Based Institutions Between The International Society And The Globalized World", Proceedings of the IAS-AEI International Conference on "New Horizons In Islamic Area Studies: Islamic Scholarship Across Cultures & Continents," Asia-Europe Institute, University of Malaya, pp. 305-312, 2010.
	小杉 泰、「中東における戦争・内戦と政治変容」『中東研究』中東調査会, 第509号, 29-49頁 2010/2011.
	小杉 泰、「イスラームとは」サウジアラビア王国大使館文化部編『日本に生きるイスラーム—過去・現在・未来—』サウジアラビア王国大使館文化部, 15-33頁 2010年7月.
	小杉 泰、(編)『イスラームの歴史2——イスラームの拡大と変容』山川出版社, 2010年10月

青山卓史	She, K.-C., Kusano, H., Koizumi, K., Yamakawa, H., Hakata, M., Imamura, T., Fukuda, M., Naito, N., Tsurumaki, Y., Yaeshima, M., Tsuge, T., Matsumoto, K., Kudoh, M., Itoh, E., Kikuchi, S., Kishimoto, N., Yazaki, J., Ando, T., Yano, M., Aoyama, T., Sasaki, T., Satoh, H., and Shimada, H. (2010) A novel factor <i>FLOURY ENDOSPERM2</i> is involved in regulation of rice grain size and starch quality. <i>Plant Cell</i> 10:3280-3294.
	Sato, K., Maki, Y., Imai, K.K., Aoyama, T., Goto, D.B., and Yamaguchi, J. (2010) Control of endoreduplication of trichome by RPT2a, a subunit of the 19S proteasome in Arabidopsis. <i>J. Plant Res.</i> 123: 701-706.
畑 俊充	梶本武志、畑俊充、田川雅人、小嶋浩嗣、今村祐嗣、早川基、上田義勝、山川宏、「原子状酸素照射に対する木質炭素/シリコン材料の抵抗性」、高温学会誌 36、2010年、185-191頁
木村大治	木村大治「インタラク션을捉えるということ」『可能性としての文化情報リテラシー』(岡田浩樹, 定延利之編) ひつじ書房 2010 pp.97-110。
	木村大治「似たようなものたちが向かい合う」『人間文化』神戸学院大学人文学会 第27号 2010 pp.21-26。
	木村大治「複雑さとは何か」霊長類研究 26-2 2011 179-183。
八塚春名	八塚春名、「タンザニアのサンダウェ社会におけるニセゴマ ( <i>Ceratotherca sesamoides</i> ) の半栽培 -乾燥葉の保存と分配に注目して」、『アフリカ研究』78、印刷中
杉島敬志	杉島敬志 2010 「ニューギニア高地・カラム人の動物への関係行為をめぐる複ゲーム状況」『南方文化』37: 1-21、天理南方文化研究会。
谷 誠	谷 誠、山地流域における自然貯留の洪水緩和機能に関する方法論的考察、水利科学 318、2011、151-173
梅村研二	梅村研二、クエン酸を結合剤とした新しい木質成形体の開発、プラスチック、Vol.61, No2, 62~64 (2010)
	梅村研二、木材用接着剤としてのクエン酸の利用、生物資源、Vol.4, No.1, 8-13 (2010)
佐川 徹	Sagawa, Toru 2010 Automatic Rifles and Social Order amongst the Daasanach of Conflict-Ridden East Africa. <i>Nomadic Peoples</i> 14 (1): 87-109. Berghahn Books, London.
	Sagawa, Toru 2010 War experiences and self-determination of the Daasanach in the conflict-ridden area of northeastern Africa. <i>Nilo-Ethiopian Studies</i> 14: 19-37. Japan Association for Nilo-Ethiopian Studies, Kyoto.
杉原 薫	Kaoru Sugihara, "La voie est-asiatique du developpement", <i>Sciences Humaines</i> , Hors-serie special No.11, 'La grande histoire du capitalisme', May-June 2010, pp.82-83.

杉原 薫	杉原薫、「南アジア型経済発展経路の特質」、『南アジア研究』22号(特別企画「20周年記念連続シンポジウム」)、2010年12月、170-184頁。
	杉原薫、「グローバル・ヒストリーとアジアの経済発展経路」、『現代中国研究』28号、2011年3月、13-20頁。
	杉原薫、「熱帯の生存基盤からのパラダイム転換」、『SEEDer (シーダー) -地球環境情報から考える地球の未来-』、人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、2011年3月、90頁。
鈴木史朗	Suzuki S, Suda K, Sakurai N, Ogata Y, Hattori T, Suzuki H, Shibata D, Umezawa T: Analysis of expressed sequence tags in developing secondary xylem and shoot of <i>Acacia mangium</i> . <i>Journal of Wood Science</i> , 57:40-46, 2011.
生方史数	生方史数、「制度の理念的設計・自生的進化とその整合化：タイの共有林管理の事例から」『社会と倫理』24、2010、31-47.
	Ubukata, F. “The Decentralization or Centralization? The CBNRM Policy and Its Local Impacts in Thailand,” In Proceedings of The 2010 International Conference on Community Forestry. 2010, 60-72.
梶 茂樹	Kaji, Shigeki, 2010. “A Comparative Study of Tone of West Ugandan Bantu Languages, with Particular Focus on the Tone Loss in Tooro”, <i>ZAS Papers in Linguistics</i> (53): 99-107.
	梶 茂樹. 2010. 「未知の言語の調査法 -アフリカの言語の場合」『日本語学』29(12): 58-66.
松林公蔵	Hirosaki M, Ishimoto Y, Kasahara Y, Konno A, Kimura Y, Fukutomi E, Chen WL, Nakatsuka M, Fujisawa M, Sakamoto, R, Ishine M, Okumiya K, Otsuka L, Wada T, Matsubayashi K. Self-Rated Health and Comprehensive Geriatric Functions in Community-Living Elderly in Japan. <i>J Am Geriatr Soc</i> 58 (1):207-209, 2010.
	Matsubayashi K, Sakagami T, Wada T, Ishine M, Sakamoto R, Yamanaka G, Otsuka K, Fujisawa M, Okumiya . Mood Disorders in the Community-Dwelling Elderly in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> , 58 (1):213-214, 2010.
	Fujisawa M, Matsubayashi K, Soumah AG, Kasahara Y, Nakatsuka M, Matsuzawa T: Farsightedness (presbyopia) in a wild elderly chimpanzee: The first report. <i>Geriatric Gerontol Int</i> 10:113-114, 2010.
	Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Ishine M, Ishikawa M, Nakajima S, Hozo R, Gr RL, Norbobb T, Otsuka K, Matsubayashi K. Strong association between polycythemia and glucose intolerance in elderly high-altitude dwellers in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> 58 (3):609-611, 2010.
	Matsubayashi K, Ishine M, Wada T, Sakamoto R, Okumiya K, Ishikawa M, Yamanaka G, Yamamoto N, Otsuka K, Nishinaga M, Doi Y, Murakami S, Fujisawa M, Yano S. Community-Based Geriatric Assessment and Preventive Intervention Lowered Medical Expenses for the Elderly. <i>J Am Geriatr Soc</i> , 58 (4):791-793, 2010.

松林公蔵	Yamamoto N, Yamanaka G, Ishizawa K, Ishikawa M, Murakami S, Yamanaka T, Okumiya K, Ishine M, Matsubayashi K, Otsuka K. Insomnia Increases Insulin Resistance and Insulin Secretion in Elderly People. <i>J Am Geriatr Soc</i> , 58 (4):801-804, 2010.
	Miyano I, Nishinaga M, Takata J, Shimizu Y, Okumiya K, Matsubayashi K, Ozawa T, Sugiura T, Yasuda N, Doi Y. Association between brachial-ankle pulse velocity and 3-year mortality in community-dwelling older adults. <i>Hypertens Res Jul</i> ;33(7):678-822010.
	Okumiya K, Sakamoto R, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Ishinr M, Ishikawa M, Nakajima S, Hozo R, Ge RI, Norboo T, Otsuka K, Matsubayashi K. Diabetes mellitus and hypertension in elderly highlanders in Asia. <i>J Am Geriatr Soc</i> , 58 (6):1193-1195, 2010.
	Matsubayashi K, Ishine M, Wada T, Ishimoto Y, Hirosaki M, Kasahara Y, Kimura Y, Fukutomi E, , Cheng WL, Sakamoto R, Fujisawa M, Otuska K, Okumiya K. “Field Medicine” reconsidering for “Optimal Aging”. <i>J Am Geriatr Soc</i> , 2011, in press.
	Matsubayashi K & Okumiya K. Non-Caucasion and High Altitude. <i>Himalayan Study Monographs</i> , 2011, 12:3-6.
	松林公蔵、木村友美、石本恭子、和田泰三、大塚邦明、石川元直、宝蔵玲子、山口哲由、坂本龍太、石根晶幸、小坂康之、Hongxing Wang, Qingxiang Dai, Ri Li Ge, Haisheng Qiao, 奥宮清人：中国青海省高地高齢者における老年医学的総合機能評価、ヒマラヤ学誌 11：11-20. 2010.
	奥宮清人、坂本龍太、石本恭子、木村友美、月原敏博、竹田晋也、小坂康之、野瀬光弘、山口哲由、石川元直、中島俊、宝蔵玲子、Tsering Norboo, Ri-Li Ge、大塚邦明、松林公蔵：高所環境とグローバリゼーションー生活習慣病と老化の変容ー。ヒマラヤ学誌 11：2-10. 2010.
	坂本龍太、松林公蔵、木村友美、石根晶幸、和田泰三、Hongxing Wang, Qingxiang Dai, Airong Yang, Haisheng Qiao, Jidong Gao, Zhanquan Li, Yongshou Zhang, Ri Li Ge, 奥宮清人：チベット高地における老化と酸化ストレス。ヒマラヤ学誌 11：21-28. 2010.
	木村友美、松林公蔵、坂本龍太、石本恭子、和田泰三、大塚邦明、石川元直、宝蔵玲子、Hongxing Wang, Qingxiang Dai, Ri Li Ge, Haisheng Qiao, 奥宮清人：中国青海省の高齢者における肉類摂取頻度と健康との関連。ヒマラヤ学誌 11：29-25. 2010.
	大塚邦明、Tsering Norboo, 西村芳子、山中学、石川元直、中島俊、宝蔵玲子、坂本龍太、松林公蔵、奥宮清人：ヒマラヤ地域住民の生活習慣の調査と心血管系機能の高所適応にみられる男女差。ヒマラヤ学誌 11：36-44. 2010.
石川元直、山本直宗、山中学、中島俊、宝蔵玲子 Tsering Norboo, Ri Li Ge, 坂本龍太、奥宮清人、松林公蔵、大塚邦明：ラダーク・青海省高地住民におけるうつ病研究。ヒマラヤ学誌 11：45-53. 2010.	
中島俊、宝蔵玲子、石川元直、山本直宗、山中学、Tsering Norboo, 坂本龍太、奥宮清人、松林公蔵、大塚邦明：ラダーク地域チベット住民における高所適応。ヒマラヤ学誌 11：54-60. 2010.	

松林公蔵	奥宮清人、坂本龍太、和田泰三、石根昌幸、福富江利子、木村友美、石本恭子、笠原順子、Wingling Chem、藤澤道子、石川元直、中島俊、宝蔵麗子、Ri-Li Ge、Tsering Norboo、大塚邦明、松林公蔵：高所住民の生活習慣病と老化変容—高所適応ろ生活変化の相互作用． 登山医学 30 : 32-36、2010.
	石本恭子、奥宮清人、坂本龍太、小坂康幸、Dani Duri、安藤和雄、松林公蔵：インド・アラナチャル・プラデーシュ州ディラン在住の中高年住民の健康度に関する男女の比較． 登山医学 30 : 65-72、2010.
	石川元直、山本直宗、山中学、諏訪邦明、宝蔵麗子、中島俊、Tsering Norboo、木村友美、福富江利子、奥宮清人、松林公蔵、大塚邦明．ラダーク豪雨災害避難住民におけるストレス関連障害． ヒマラヤ学、2011;12:7-14.
	宝蔵麗子、諏訪邦明、中島俊、石川元直、山本直宗、Tsering Norboo、奥宮清人、松林公蔵、大塚邦明．アンデス・ラダーク地域住民における高所適応の検討． ヒマラヤ学、2011;12:15-22.
	福富江利子、松林公蔵、坂本龍太、和田泰三、石本恭子、木村友美、野瀬光弘、竹田晋也、山口哲由、池田菜穂、平田晶弘、月原敏博、大塚邦明、石川元直、諏訪邦明、Tsering Norboo、奥宮清人．歩数計からみたインド北西部ラダーク・ドムカル高所住民の生活習慣—運動量と食生活—．ヒマラヤ学、2011;12:23-31.
	木村友美、福富江利子、石川元直、諏訪邦明、大塚邦明、坂本龍太、和田泰三、石本恭子、松林公蔵、木村友美、Tsering Norboo、奥宮清人．ラダークにおける基本料理の栄養成分データベースの構築．ヒマラヤ学誌、2011;12:32-39.
	石本恭子、奥宮清人、坂本龍太、木村友美、小坂康之、Dani Duri、安藤和雄、松林公蔵．Brokpa と Unpa における血圧と年齢相関の比較．ヒマラヤ学誌、2011;12:122-39.
山本 衛	Thampi, S. V., and Yamamoto, M., First results from the ionospheric tomography experiment using beacon TEC data obtained using a network along 136°E longitude over Japan, EPS, 62: 359-364, 2010.
	Liu, H., Thampi, S. V., and Yamamoto, M., Phase reversal of the diurnal cycle in the mid-latitude ionosphere, J. Geophys. Res., 115: A01305, doi:10.1029/2009JA014689, 2010.
	Tsunoda, R. T., Bubenik D. M., Thampi, S. V., and Yamamoto, M., On large - scale wave structure and equatorial spread F without a post-sunset rise of the F layer, Geophys. Res. Lett., 37: L07105, doi:10.1029/2009GL042357, 2010.
	Balan, N., Shiokawa, K., Otsuka, Y., Kikuchi, T., Vijaya Lekshmi, D., Kawamura, S., Yamamoto, M., and Bailey, G. J., A physical mechanism of positive ionospheric storms at low latitudes and midlatitudes, J.Geophys.Res., 115: A02304, doi:10.1029/2009JA014515, 2010.
	Thampi, S. V., Yamamoto, M., Liu, H., Saito, S., Otsuka, Y., and Patra, A.K., Nighttime-like quasi periodic echoes induced by a partial solar eclipse, Geophys. Res. Lett., 37: L09107, doi:10.1029/2010GL042855, 2010.
	Shalimov, S., and M. Yamamoto, Influence of midlatitude sporadic E layer patches upon the F region plasma density, J. Geophys. Res., 115, A05309, doi:10.1029/2009JA014964, 2010.

山本 衛	Adachi, T., M. Yamaoka, M. Yamamoto, Y. Otsuka, H. Liu, C.-C. Hsiao, A. B. Chen, and R.-R. Hsu, Midnight latitude-altitude distribution of 630-nm airglow in the Asian sector measured with FORMOSAT-2/ISUAL, <i>J. Geophys. Res.</i> , 115, A09315, doi:10.1029/2009JA015147, 2010.
	Luce, H., Nakamura, T., Yamamoto, M. K., Yamamoto, M., Fukao, S., MU radar and lidar observations of clear-air turbulence underneath cirrus, <i>Mon. Wea. Rev.</i> , 138(2): 438-452, doi:10.1175/2009MWR2927.1, 2010.
	Mega, T., M. K. Yamamoto, H. Luce, Y. Tabata, H. Hashiguchi, M. Yamamoto, M. D. Yamanaka, and S. Fukao, Turbulence generation by Kelvin - Helmholtz instability in the tropical tropopause layer observed with a 47 MHz range imaging radar, <i>J. Geophys. Res.</i> , 115, D18115, doi:10.1029/2010JD013864, 2010.
	橋口浩之, 脇阪洋平, 山本衛, 山本真之, 妻鹿友昭, 今井克之, GNU Radio を用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, <i>信学技報</i> , SANE110, 53-57, 2010.
	Thampi, S. V., N. Balan, C.-H. Lin, H. Liu, and M. Yamamoto, Mid-latitude Summer Night time Anomaly (MSNA) Observations and Model Simulations, <i>Ann. Geophys.</i> , 29, 157-165, 2011.
	Adachi, T., Y. Otsuka, M. Yamaoka, M. Yamamoto, K. Shiokawa, A. B. Chen, R.-R. Hsu, First satellite-imaging observation of medium-scale traveling ionospheric 2 disturbances by FORMOSAT-2/ISUAL, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , 38, L04101, 2011.
	N. Balan, M. Yamamoto, V. Sreeja, I. S. Batista, K. J. W. Lynn, M. A. Abdu, S. Ravindran <sup>3</sup> , T. Kikuchi <sup>6</sup> , Y. Otsuka <sup>6</sup> , K. Shokawa and S. Alex, A statistical study of the response of dayside equatorial F2 layer 2 to the main phase of intense geomagnetic storms, <i>J. Geophys. Res.</i> , 116, A03323, doi:10.1029/2010JA016001, 2011.
	Tabata, Y., H. Hashiguchi, M. K. Yamamoto, M. Yamamoto, M. D. Yamanaka, S. Mori, F. Syamsudin, and T. Manik, Observational study on diurnal precipitation cycle in equatorial Indonesia using 1.3-GHz wind profiling radar network and TRMM precipitation radar, <i>J. Atmos. Solar-Terr. Phys.</i> , 73 (9), 1031-1042, doi:10.1016/j.jastp.2010.10.003, 2011.
	Tabata, Y., H. Hashiguchi, M.K. Yamamoto, M. Yamamoto, M.D. Yamanaka, S. Mori, Fadli Syamsudin, and Timbul Manik, Lower Tropospheric Horizontal Wind over Indonesia: A Comparison of Wind-profiler Network Observations with Global Reanalyses, <i>J. Atmos. Solar-Terr. Phys.</i> , 73(9), doi:10.1016/j.jastp.2010.09.016, 986-995, 2011.
	Liu H., and M. Yamamoto, Weakening of the mid-latitude summer night anomaly during geomagnetic storms, <i>Earth Planets and Space</i> , in press, 2011.
	Balan, N., M. Yamamoto, J. Y. Liu, Y. Otsuka, H. Liu, and H. Luhr, New aspects of thermospheric and ionospheric storms revealed by CHAMP, <i>J. Geophys. Res.</i> , doi:10.1029/2010JA016399, in press, 2011.
	Thampi, S. V., M. Yamamoto, C. Lin, and H. Liu, Comparison of FORMOSAT3/COSMIC radio occultation measurements with radio tomography, <i>Radio Sci.</i> , doi:10.1029/2010RS004431, in press, 2011.
Liu, H., E. Doornbos, M. Yamamoto, and S. T. Ram, Strong thermospheric cooling during the 2009 major stratosphere warming, <i>Geophys. Res. Lett.</i> , doi:10.1029/2011GL047898, in press,	

	2011.
山本 衛	Yamamoto, M.K., T. Mega, N. Ikeno, T. Shimomai, H. Hashiguchi, M. Yamamoto, M. Nakazato, T. Tajiri, and Y. Ohigashi, Assessment of radar reflectivity and Doppler velocity measured by Ka-band FMCW Doppler weather radar, <i>J. Atmos. Electr.</i> , 31(2), in press.
	Yamamoto, M.K., T. Mega, N. Ikeno, T. Shimomai, H. Hashiguchi, M. Yamamoto, M. Nakazato, T. Tajiri, and T. Ichiyama, Doppler velocity measurement of portable X-band weather radar equipped with magnetron transmitter and IF digital receiver, <i>IEICE Transactions on Communications</i> , in press.
玉田芳史	玉田芳史 「タイ政治における黄シャツと赤シャツ：誰、なぜ、どこへ」 『国際情勢 紀要』 81号（2011年2月）、143-159頁。
伊藤正子	伊藤正子 「韓国軍のベトナム派兵をめぐる記憶の比較研究—ベトナムの非公定記憶を記憶する韓国 NGO」 『東南アジア研究』 48巻3号、294-313頁、2010年
	伊藤正子 「社会主義国家による民族確定政策の限界—ベトナムの事例から」 小森宏美編 『リージョナリズムの歴史制度論的比較』 CIAS Discussion Paper No.17, 京都大学地域研究統合情報センター、6-21頁、2010年
山越 言	山越言 (2011) 「道具使用行動の起源と人類進化」 床呂郁哉、河合香史編 『もの人類学』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、東京、pp.281-98
	山越言(2010) 「暗闇の中に何を描くか」 『霊長類研究』 26(2) : 200-204.
	Carvalho S, Yamanashi Y, Yamakoshi G, Matsuzawa T (2010) Bird in the hand: Bossou chimpanzees ( <i>Pan troglodytes</i> ) capture West African wood-owls ( <i>Ciccaba woodfordi</i> ) but not to eat. <i>Pan African News</i> 17(1): 6-9.
藤田幸一	藤田幸一 「インドの食料政策と砂糖をめぐる動向」 『砂糖類情報』 164号、2010年5月。
	Fujita, K, T. Endo, I. Okamoto, Y. Nakanishi and M. Yamada, <i>Myanmar Migrant Laborers in Ranong, Thailand</i> , IDE Discussion Paper No. 257, September, 2010.
	Chansathith, C., K. Fujita, F. Mieno and A. Ohno, <i>Should Microcredit Be a Right for the Poor?: Credit Demand of Poor Households in Laos</i> , Kyoto Working Papers on Area Studies No.111 (GCOE Series 109), January 2011.
山本博之	山本博之 2011 「「数える」から「ともに語る」へ——地域研究による人道支援の創造的評価に向けて」 『人道支援に対する地域研究からの国際協力と評価』 大阪大学「共生人道支援研究班」、pp.38-48。
	山本博之 2011 「災害対応の地域研究：被災地調査から防災スマトラ・モデルへ」 『地域研究』、11(2)、pp.49-61。
	山本博之 2011 「災害と地域研究：流動化する世界における新たなつながりを求めて」 『地域研究』、11(2)、pp.6-13。

山本博之	YAMAMOTO Hiroyuki. 2011 “Kadazan, Sabahan, and Orang Kita: The Development of Nationalism among Land People’ in Sabah, 1950s-2000s”. YAMAMOTO Hiroyuki, Anthony Milner, KAWASHIMA Midori, & ARAI Kazuhiro. (eds.). <i>Bangsa and Umma: Development of People-Grouping Concepts in Islamized Southeast Asia</i> . Kyoto University Press. pp.143-165.
	YAMAMOTO Hiroyuki. 2011 “K. Bali: Sino-Thai Peranakan in Search of Sabah Nationhood”. Hau, Caroline S. & Kasian Tejapira. (eds.). <i>Traveling Nation-Makers: Transnational Flows and Movements in the Making of Modern Southeast Asia</i> . Kyoto University Press. pp.233-247.
	YAMAMOTO Hiroyuki. 2011 “Expiration Date for Ethnic Politics Extended: The Restructuring of Federalism in Malaysia in the 1990s”. Yusuke MURAKAMI, Hiroyuki YAMAMOTO & Hiromi KOMORI (eds.). <i>Enduring States in the Face of Challenges from Within and Without</i> . Kyoto University Press. pp.101-114.
	山本博之 2010 「災害対応と情報：2004年スマトラ沖地震・津波の報道記事をもとに」『シーダー』、No.3、pp.24-31。
	西芳実・山本博之 2010 「流動性の高い社会における復興：2009年西スマトラ地震における日本の人道支援の事例から考える」『日本災害復興学会 2010神戸大会論文集』、pp.93-96。
	YAMAMOTO Hiroyuki. 2010 “The Jawi Publication Network and Ideas of Political Communities among the Malay-Speaking Muslims of the 1950s”. <i>Journal of Sophia Asian Studies</i> . No.27, pp.51-64.
藤岡悠一郎	Yuichiro FUJIOKA, Economic Disparities and Social Ties: Changing and Unchanging Patterns of Natural Resource Use through Reciprocal Gift-Giving in a Rural Society in North-Central Namibia. Proceedings of International Symposium “The Dynamics of Socioeconomic Changes in Local Societies in Southern Africa: The Challenges of Area Studies”, Mar 2011.
	藤岡悠一郎・宮本真二「ナミビア」環境総合年表編集委員会編『環境総合年表—日本と世界—』2011, pp.500-501.
神崎護	Zuidema, Pieter A., Toshihiro Yamada, Heinjo J. During, Akira Itoh, Takuo Yamakura, Tatsuhiko Ohkubo, Mamoru Kanzaki, Sylvester Tan and Peter S. Ashton. 2010. Recruitment subsidies support tree subpopulations in non-preferred tropical forest habitats. <i>Journal of Ecology</i> 98(3):636-644.
	Naoyuki Yamashita, Seiichi Ohta, Hiroyuki Sase, Jesada Luangjame, Thiti Visaratana, Bopit Kievuttinon, Hathairatana Garivait, Mamoru Kanzaki. 2010. Seasonal and spatial variation of nitrogen dynamics in the litter and surface soil layers on a tropical dry evergreen forest slope <i>Forest Ecology and Management</i> 259:1502-1512.
	Sen Nishimura, Tsuyoshi Yoneda, Shinji Fujii, Erizal Mukhtar, Mamoru Kanzaki, and Seiichi Ohta. 2011. Sprouting traits of Fagaceae species in a hill dipterocarp forest, Ulu Gadut, West Sumatra. <i>Journal of Tropical Ecology</i> 27: 107-110.

島田周平	島田周平 「ザンビアの1農村における最近の脆弱性の変化」(梅津千恵子編 『社会・生態システムの脆弱性とレジリエンス』 総合地球環境学研究所 平成22年度PR研究プロジェクト報告) 2001年 pp.266-275.
小林 知	小林知・吉田香世子. 「カンボジアとラオスの仏教」林行夫編『新アジア仏教史第8巻 躍動する仏教——スリランカと東南アジア』佼成出版会. 2011年、266-322ページ
清水 展	Shimizu, Hiromu, "Refiguring Identities in an Ifugao Village: Sketches of Joint Projects from a Filipino Filmmaker, a Native Intellectual, and a Japanese Anthropologist under American Shadow(s)" in Kiichi FUJIWARA & Yoshiko NAGANO (eds.), The Philippines and Japan in Americas Shadow, Singapore: Singapore University Press, pp.282-306. 2011年3月
岡本正明	岡本正明、インドネシアのイスラーム主義政党、福祉正義党の包括政党化戦略、アジア・アフリカ地域研究、4巻1-2号、2011
山田協太	山田協太、「近代都市研究から連環的都市史へ - 植民都市から世界の見通しを考える -」、人間圏の探究シリーズ 12 (Kyoto Working Papers on Area Studies 103/ G-COE Series 101)、全73頁、2011年
田辺明生	田辺明生、「現代インド地域研究—私たちは何をめざすか」『現代インド研究』第1号、2011年3月、1-18頁
島上宗子	島上宗子、「学びあいのメディアとしての映像記録：中スラウェシの山村トンプにおける実践から」、『地域研究』京都大学地域研究統合情報センター刊(2011年3月)
石川 登	Ishikawa, N. 2010. "State-Making and Transnationalism: Transboundary Flows in a Borderland of Western Borneo" in Ishikawa, Noboru, Wil de Jong & Denyse Snelder eds., Transborder Governance of Forests, Rivers and Seas. London: Earthscan.
田中耕司	田中耕司「東南アジアにおける森林管理をめぐる環境史」水島司編『環境と歴史学 歴史研究の新地平』(アジア遊学136) 勉誠出版、pp.190-199、2010年9月
	田中耕司・松田正彦「ミャンマー・シャン州中国国境域における稲作の変容—浸透する米増産政策と国境を越える農業技術」『農耕の技術と文化』 No.27: 86-108、2010年12月
	田中耕司「油をつくる植物—植物油の多様性と利用の増大」『BIOSTORY』 Vol.14: 30-35、2010年12月、生き物文化誌学会

田中耕司	田中耕司「水田という農業空間—その特異性とは」『SEEDer』No.4: 4-7, 2011年3月
竹田晋也	竹田晋也、「マングローブ林の地域生態史」、河合明宣編『地域の発展と産業』NHK出版、2011年、123-132頁
	竹田晋也、「高地から考える生老病死の環境学」、奥宮清人編『生老病死のエコロジー』昭和堂、2011年、205-231頁
	野瀬光弘・竹田晋也、「インド北部ラダーク地方における農用林利用の形態と資源量把握の試み」、『ヒマラヤ学誌』、11、2010年、106-115頁
	Rosy Ne win, R. Suzuki and S. Takeda. Remote sensing analysis of forest damage by selection logging in the Kabaung Reserved Forest, Bago Mountains, Myanmar. <i>Journal of Forest Research</i> , DOI: 10.1007/s10310-011-0276-3 (印刷中).
浜元聡子	浜元聡子 2010 「震災からの社会的復興支援活動の現場—生態環境の復元とともに」『SEEDer』3:17-23
藤田素子	Motoko S. Fujita, Tsuyoshi Yoshimura, Muhammad Iqbal, Satrio Wijamukti, Dwi Mulyawati, Wilson Novarino, Yuli Lestari, Bambang Supriadi, Rosyid Gunawan, Dewi M. Prawiradilaga. 2010. Inventory of Birds in Acacia Plantation in PT. Musi Hutan Persada, Indonesia. Kyoto Working Papers on Area Studies No.110 (G-COE Series 108). pp.1-49
石坂晋哉	石坂晋哉、「チブコー運動によってもたらされたもの—インド森林保護運動と環境主義ネットワークの形成」、長崎暢子・清水耕介編『紛争解決暴力と非暴力』アフラシア叢書1、ミネルヴァ書房、2010年、348-367頁
	石坂晋哉、「ガンディー主義」、田中雅一・田辺明生編『南アジア社会を学ぶ人のために』、世界思想社、2010年、195-196頁
	石坂晋哉、「インド大規模ダム反対運動」、日本環境会議／「アジア環境白書」、編集委員会編『アジア環境白書 2010/11』、東洋経済新報社、2010年、255-268頁
	石坂晋哉、「ウッターカンド州—会議派の大勝、インド人民党の惨敗」、広瀬崇子・北川将之・三輪博樹編『インド民主主義の発展と現実』、勁草書房、2011年、142-144頁
	石坂晋哉、「インド近現代史のなかの社会運動—その共通性をめぐって」、『南アジア研究』第22号、2010年12月15日、107-111頁
角田邦夫	C. Tascioglu and K. Tsunoda 2010 Biological performance of copper azole-treated wood and wood-based composites. <i>Holzforschung</i> 64, 399–406.
	C. Tascioglu, and K. Tsunoda 2010 Laboratory evaluation of wood-based composites treated with alkaline copper quat against fungal and termite attacks. <i>International Biodeterioration &amp; Biodegradation</i> 64, 683-687.

角田邦夫	K. Tsunoda, G. Rosenblat and K. Dohi 2010 Laboratory evaluation of the resistance of plastics to subterranean termite <i>Coptotermes formosanus</i> (Blattodea: Rhinotermitidae). <i>International Biodeterioration &amp; Biodegradation</i> 64, 232-237.
	L. Lenz, C.-Y. Lee, M. J. Lacey, T. Yoshimura and K. Tsunoda 2011. The potential and limits of termites (Isoptera) as decomposers of waste paper products <i>J. Econ. Entomol.</i> 104, 232-242.
中溝和弥	中溝和弥、「回顧と展望 南アジア（近現代）」『史学雑誌』第119編第5号 史学会、2010年5月、274-277頁
	Nakamizo, Kazuya, “Can Democracy Overcome Violence ? An experiment of Bihar, India”, NIHU Program Contemporary India Area Studies(INDAS) Working Paper No.1, 2010
	Nakamizo, Kazuya, “The Politics of Development and Identity under Globalization – 2010 Bihar State Assembly Election, India –”(The Conference Paper submitted to “Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities”, NIHU program “Contemporary India Area Studies” and Global COE Program “In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa”, Kyoto International Community House, 29th-30th January, 2011)
川井秀一	Miyuki Matsuo, Misao Yokoyama, Kenji Umemura, Joseph Gril, Ken'ichiro Yano, Shuichi Kawai: Color changes in wood during heating: kinetic analysis by applying a time-temperature superposition method, <i>Applied Physics A</i> 99 (1): pp.47-52 (2010)
	川井秀一、辻野善夫、藤田佐枝子、山本堯子：クリーンテクノロジー（2010）
渡辺隆司	Verma, P., T. Watanabe, Y. Honda and T. Watanabe: Microwave-assisted pretreatment of woody biomass with ammonium molybdate activated by H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> , <i>Biores. Technol.</i> , 102, 3941-3945 (2011).
	Baba, Y., T. Tanabe, N. Shirai, T. Watanabe, Y. Honda and T. Watanabe: Pretreatment of Japanese cedar wood by white rot fungi and ethanolysis for bioethanol production, <i>Biomass &amp; Bioenergy</i> , 35, 320-324 (2011).
	Ohashi, Y., Y. Uno, R. Amirta, T. Watanabe, Y. Honda and T. Watanabe: Alkoxy and carbon-centered radicals are primary agents to degrade non-phenolic lignin substructure model compounds, <i>Org. Biomol. Chem.</i> , 9, 2481-2491 (2011).
	Liu, J., R. Takada, S. Karita, T. Watanabe, Y. Honda, T. Watanabe: Microwave-assisted pretreatment of recalcitrant softwood in aqueous glycerol, <i>Biores. Technol.</i> , 101, 9355-9360 (2010).
	Kawakubo, T. S. Karita, Y. Araki, S. Watanabe, M. Oyadomari, R. Takada, F. Tanaka, K. Abe, T. Watanabe, Y. Honda, T. Watanabe: Analysis of exposed cellulose surfaces in pretreated wood biomass using carbohydrate-binding module (CBM)-cyan fluorescent protein (CFP), <i>Biotechnology and Bioengineering</i> , 105, 499-508 (2010).

渡辺隆司 :	リグノセルロースバイオリファイナリーのための担子菌特異的リグニン分解能の解析と応用、グリーンスピリッツ、5, 3-11 (2010).
中村香子	中村香子、「牧畜民サンプルの割礼をめぐる新しい選択肢」、平成 22 年 4 月、『JANES ニュースレター』18, 日本ナイル・エチオピア学会
平松亜衣子	平松亜衣子、2011、「現代クウェートにおける政府系ファンドと投資のイスラーム適格性」『日本中東学会年報』27-1 (印刷中) .
	Aiko Hiramatsu, 2010. “The Changing Nature of the Parliamentary System in Kuwait: Islamists, Tribes, and Women in Recent Elections”, in Islamic Area Studies 4 (1), Center for Islamic Area Studies at Kyoto University.
	平松亜衣子、2011、「クウェート国」『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック』（仮）明石書店（印刷中）
小松幸平	Takeshi Shiratori, Adrian J. M Leijten and Kohei Komatsu: Optimisation of Pre/post Stressed Embedment-Type Timber Joint, Structures and Buildings, Proceedings of the Institution of Civil Engineers (UK), doi: 10.1680/stbu.9.00070, 2011.
	Maryoko Hadi, Satoru Murakami, Akihisa Kitamori, Wen-Shao Chang and Kohei Komatsu : Performance of Shear Wall Composed of LVL and Cement Fiber Board Sheathing, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, vol.9 No.2 November, 463-469, 2010.
	Buan Anshari, Zhongwei Guan, Akihisa Kitamori, Kiho Jung, Ivon Hassel and Kohei Komatsu: Mechanical and Moisture-Dependent Swelling Properties of Compressed Japanese Cedar, Construction and Building Materials, Vol.25, 1718-1725, 2010.
	Kohei Komatsu : Analyses on Though-Bolts Type Wooden Beam-Column Joints Subjected to Rotational Moment, WOOD RESEARCH Journal-Journal of Indonesian Wood Research Society, Volume 1, Number 1, 13-22, April 2010.
	鄭 基浩, 北守顕久, Ivon HASSEL, 小松幸平:プレファブ型土壁の水平せん断性能の評価, 日本建築学会技術報告集,第 34 号, 929-934, 2010.
	景山 誠、村上 雅英、小松 幸平：曲げモーメントとせん断力の複合応力を受ける木質ラーメン接合部の構造性能評価法に関する研究、日本建築学会構造系論文集、75(647)、165-173、2010.
	北守 顕久、鄭 基浩、森 拓郎、小松 幸平：圧縮木材の力学的性質の圧縮率依存性、木材学会誌、56(2)、67-78、2010.
	Jung Kiho, Akihisa Kitamori, Kohei Komatsu : Development of a joint system using a compressed wooden fastener II : evaluation of rotation performance for a column-beam joint, Journal of Wood Science, 56(2), 118-126, 2010.

西 真如	Nishi Makoto. Information Sharing, Local Knowledge, and Development Practices: The Experience of Community-based HIV/AIDS Initiatives among the Gurage, Southern Ethiopia. <i>Nilo Ethiopian Studies</i> 15.(forthcoming)
	西 真如 2010 「「明日の私」を葬る—エチオピアの葬儀講仲間がつくりだす応答的な関係性」 『文化人類学』 75(1):27-47.
	西 真如 2010 「ウイルスと共に生きる社会の倫理—エチオピアの HIV 予防運動にみる「自己責任」と「配慮」」 『人間環境論集』 10(2):47-61.

## (2) 著書

井合 進	Iai, S. (ed) (2011): “Geotechnics and Earthquake Geotechnics towards Global Sustainability,” Springer, p.1-254
片岡 樹	片岡 樹(2010) 「妖術からみたタイ山地民の世界観—ラフの例から—」鈴木正崇編 『東アジアにおける宗教文化の再構築』風響社、243-272 頁。(総ページ数 484 頁)
	片岡 樹(2010) 「ラフ族」『アジアの境界を越えて—人間文化研究機構連携展示—』 国立歴史民俗博物館、209-213 頁。(総ページ数 215 頁)
	片岡 樹(2011) 「仏教、民俗宗教、少数民族」奈良康明、下田正弘編『静と動の仏教』(新アジア仏教史 04 スリランカ・東南アジア) 佼成出版社、383-413 頁。(総ページ数 525 頁)
Wil de Jong	Wil de Jong, Denyse Snelder, Noboru Ishikawa, eds. 2010. Transborder governance of forests, rivers and seas. Earthscan, London.
	Wil de Jong and Kristen Evans. 2010. Transnational natural resource governance in border regions. Chapter 1 in: Wil de Jong, Denyse Snelder, Noboru Ishikawa, ed. 2010. Transborder governance of forests, rivers and seas, pp 1-14. Earthscan, London .
	W. de Jong. 2010. Territorialization, regionalism and natural resource management in the Peruvian Amazon. Chapter 5 in: Wil de Jong, Denyse Snelder, Noboru Ishikawa, ed. 2010. Transborder governance of forests, rivers and seas, 67-82. Earthscan, London .
	W.de Jong, J.Borner, P.Pacheco, B.Pokorny, C.Sabogal, C.Benneker, W.Cano, C.Cornejo, K.Evans, S.Ruiz, M.Zenteno. 2010 Amazon Forests at the Crossroads: Pressures, Responses, and Challenges. Chapter 6.8 in: Alfaro, R., Kanninen, M., Lobovikov, M., Mery, G., Swallow, B., Varjo, J. (Eds.). Future of Forests – Responding to Global Changes, pp 283-298. World Forestry Society and Environment.
	W.de Jong B.Pokorny, C.Cornejo, P.Pacheco, D.Stoian, C.Sabogal B.Louman. 2010. Opportunities and Challenges for Community forestry: Lessons from Tropical America. Chapter 6.9 in: Alfaro, R., Kanninen, M., Lobovikov, M., Mery, G., Swallow, B., Varjo, J. (Eds.).Future of Forests – Responding to Global Changes, pp 299-314. World Forestry Society and Environment.
	M. Boissière, M. Sassen, D. Sheil, M. van Heist, W. de Jong, R. Cunliffe, M. Wan, M. Padmanaba, N. Liswanti, I. Basuki, K. Evans, P. Cronkleton, T. Lynam, P. Koponen, C. Bairaktari. 2010. Researching local perspectives on biodiversity: Lessons from ten case studies. In: Lawrence, A., ed. Taking stock of nature: participatory biodiversity assessment for policy planning and practice, pp 113-142. Cambridge, Cambridge University Press.
長岡慎介	長岡慎介『現代イスラーム金融論』名古屋大学出版会、2011 年.
	長岡慎介「ヨルダンにおけるイスラーム金融をめぐるポリティカル・エコノミー再考」濱田美紀・福田安志編『世界に広がるイスラーム金融—中東からアジア、ヨーロッパへ』

	アジア経済研究所（アジ研選書）、47-65 頁、2010 年.
長岡慎介	長岡慎介「流動性管理手法からみたイスラーム金融の多様性再考」濱田美紀・福田安志編『世界に広がるイスラーム金融—中東からアジア、ヨーロッパへ』アジア経済研究所（アジ研選書）、275-294 頁、2010 年.
	吉田悦章・長岡慎介「イスラーム金融の現在と変容する多様性」濱田美紀・福田安志編『世界に広がるイスラーム金融—中東からアジア、ヨーロッパへ』アジア経済研究所（アジ研選書）、255-273 頁、2010 年.
	長岡慎介「中東アラブ諸国における民間部門発展の歴史的沿革—中東湾岸諸国の銀行部門の分析から」土屋一樹編『中東アラブ諸国における民間部門の発展』アジア経済研究所（アジ研双書）、107-133 頁、2010 年.
	長岡慎介「中東における多国籍銀行の歴史的展開と現在—アラブ・コンソーシアム系多国籍銀行 の分析から」土屋一樹編『中東企業の国際事業展開（調査研究報告書）』アジア経済研究所、20-42 頁、2011 年.
田中雅一	田中雅一・田辺明生編『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社、2010、309 頁。
	田中雅一『癒しとイヤラシ エロスの文化人類学』双書 ZERO 筑摩書房、2010、238 頁。
	田中雅一・船山徹編『コンタクト・ゾーンの人文学 第1巻 Problematique／問題系』晃洋書房、2011、284 頁。
	田中雅一・稲葉穰編『コンタクト・ゾーンの人文学 第2巻 Material Culture／物質文化』晃洋書房、2011、260 頁。
吉村 剛	吉村 剛、「アメリカカンザイシロアリ」、積木久明・田中一裕・後藤三千代編『昆虫の低温耐性 —その仕組みと調べ方—』、岡山大学出版会、2010 年 7 月、288 頁-289 頁
篠原真毅	篠原 真毅, “マイクロ波で宇宙から電力伝送 電気自動車や携帯機器も, ワイヤレス給電 2010 第 3 章技術動向”, NE Books, 日経 BP 社, 2010, pp.104-117
	篠原 真毅, “11.5.3 マイクロ波無線電力伝送”, パワーエレクトロニクスハンドブック 第 11 章エネルギーの伝送と貯蔵, オーム社, 2010, pp.198-200
	篠原 真毅, “エネルギー・ハーベスティングの最新動向 (監修: 桑原博喜), 3 編 エネルギーハーベスティング技術 1 章 電磁エネルギー利用 5 電波エネルギーハーベスティング”, シーエムシー出版, 2010, pp.62-72
増原善之	Ketsadong Silythone ; Masuhara Yoshiyuki (eds.). The Collection and Conservation of Local Documents and Oral History in Lao PDR (FY 2007~2010) (本文ラオス語). Vientiane: Faculty of Social Science, National University of Laos. 2011: X+267pp.

藤倉達郎	藤倉達郎、「開発と社会運動」『南アジア社会を学ぶ人のために』田中雅一・田辺明生編、世界思想社、2010年、241-269頁（総312頁中）
	アバドゥライ、アルジュン（著）、藤倉達郎（訳・解説）、『グローバリゼーションと暴力——マイノリティーの恐怖——』、世界思想社、2010年、272頁
佐藤史郎	翻訳、H.バタフィールド、M.ワイト編（佐藤誠ほか共訳）『国際関係理論の探究—英国学派のパラダイム』、日本経済評論社、2010年11月（マーティン・ワイト著「第7章 勢力均衡」、169-200頁を翻訳）。
速水洋子	速水洋子「カレンの宗教・信仰」『ミャンマー概説』（伊東利勝編）めこん 287-305頁 2011
峯 陽一	峯 陽一 『南アフリカを知るための60章』明石書店、2010年4月、全368ページ（編著）。
	峯 陽一 『アフリカから学ぶ』有斐閣、2010年9月、全463ページ（武内進一、笹岡雄一との共編著）
東長 靖	東長 靖（編著）、スーフィズム・タリーカ・聖者信仰用語集 ローマ字順配列、京都大学イスラーム地域研究センター、2011年、90+vi
	東長 靖（編著）、アラビア文字で引く スーフィズム・グロッサリー、京都大学イスラーム地域研究センター、2011年、88+vii
	東長 靖・石坂晋哉（編）、持続型生存基盤論グロッサリー、京都大学東南アジア研究所グローバルCOEプログラム、2011年、142+iii
和田泰三	和田泰三、松林公蔵：どのようなことをしらべるのか、その意味は？I 健康度、虚弱、IADL,QOLの評価、鳥羽研二編「高齢者の生活機能の総合的評価」21-26頁、新興医学出版社、2010年10月
遠藤 環	遠藤環、『都市を生きる人々：バンコク・都市下層民のリスク対応』（地域研究叢書シリーズ）、京都大学学術出版会、2011年2月（356ページ）。
小杉 泰	小杉 泰、（編）『イスラームの歴史2——イスラームの拡大と変容』山川出版社、2010年10月
木村大治	木村大治 『括弧の意味論』 NTT 出版 2011 248pp.
佐川 徹	佐川 徹 2011 『暴力と歓待の民族誌—東アフリカ牧畜社会の戦争と平和』昭和堂、478頁。
	Sagawa, Toru 2010 Local potential for peace: Trans-ethnic cross-cutting ties among the Daasanach and their neighbors. In Christina Echi-Gabbert and Sophia Thubauville (eds.) <i>To Live with Others: Essays on Cultural Neighborhood in Southern Ethiopia</i> .pp. 99-127. Köln, Rüdiger Köppe Verlag .

佐川 徹	Sagawa, Toru 2010 Local Order and Human Security after the Proliferation of Automatic Rifles in East Africa. In Malcolm McIntosh and
杉原 薫	Kaoru Sugihara, "Formation of an Industrialization-Oriented Monetary Order in East Asia", in Shigeru Akita and Nicholas J. White eds, <i>The International Order of Asia in the 1930s and 1950s</i> , Ashgate, Farnham, Surrey, 2010, pp.61-102.
	杉原薫、「比較史のなかの日本の工業化」石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』東京大学出版会、2010年9月、91-118頁。
梶 茂樹	梶 茂樹・小沢剛 『ウガンダ・ノート』 2010年7月, 175頁, 大和プレス.
松林公蔵	松林公蔵：8.フィールド医学—高所医学から老年医学への展開—、梅棹忠夫監修、カラコルム/花嫁の峰チョゴリザーフールド科学のパイオニアたち、京都大学出版会。Pp194-202, 2010
	松林公蔵：第1章 なぜ人は高地で暮らすようになったのか—生理・進化的適応、「生老病死のエコロジー—チベットヒマラヤに生きる」（奥宮清人編）、昭和堂、pp-1-19, 2011.
	松林公蔵：第5章 青海省にみる老・病・死と生きがい—農（漢）牧（西藏）の接点、「生老病死のエコロジー—チベットヒマラヤに生きる」（奥宮清人編）、昭和堂、pp-161-192, 2011.
山本 衛	山本衛, 「GNU Radio と USRP で始めるソフトウェア無線」, 79-51 頁, RF ワールド No. 10, CQ 出版, 2010 年 4 月.
玉田芳史	河原祐馬・島田幸典・玉田芳史編『移民と政治：ナショナル・ポピュリズムの国際比較』昭和堂、2011年、281頁。
柴山 守	柴山 守：時空間概念に基づく地域・歴史事象の写像と知識獲得—地域情報学の視点から見る歴史知識学—、人工知能学会誌、Vol.25, No.1, pp.42-49, 2010
水野一晴	水野一晴 (2011)：森林分布と人間活動。奥宮清人編：『生老病死のエコロジー—チベット・ヒマラヤに生きる』昭和堂、100-104.
山本博之	YAMAMOTO Hiroyuki, Anthony Milner, KAWASHIMA Midori, and ARAI Kazuhiro. (eds.). 2011 <i>Bangsa and Umma: Development of People-Grouping Concepts in Islamized Southeast Asia</i> . Kyoto University Press.
	Yusuke MURAKAMI, Hiroyuki YAMAMOTO, and Hiromi KOMORI. (eds.). 2011 <i>Enduring States in the Face of Challenges from Within and Without</i> . Kyoto University Press.
太田 至	太田 至、2010「東アフリカ牧畜民の生活と文化」『新版アフリカを知る事典』平凡社、pp.9-12.

太田 至	太田 至、2010「トゥルカナ」『新版アフリカを知る事典』平凡社、pp.280-1.
	太田 至、2010「ヌバ」『新版アフリカを知る事典』平凡社、pp.302.
	太田 至、印刷中「他者とのつきあいかたーケニア北西部のカクマ難民キャンプにおける地元民トゥルカナと難民との相互関係」竹内潔・栗本英世（編）『アフリカの平和力』世界思想社
	太田 至、印刷中「難民と地元住民のあいだの多元的で錯綜した関係：カクマ難民キャンプと地元民トゥルカナ」松田素二・津田みわ（編）『ケニアを知るための55章』明石書店
神崎 護	神崎 護・山田明德.2010. 第5章 生存基盤としての生物多様性. 地球圏・生命圏・人間圏（杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編著）. Pp.153-184. 京都大学学術出版会. 京都.
星川圭介	河野泰之、孫曉剛、星川圭介 2010「水の利用から見た熱帯社会の多様性」『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて』（杉原薫・川井秀一・河野泰之・田辺明生編著）. 京都大学学術出版会、185-209
島田周平	島田周平 「脆弱性の視点からみるアフリカ農業・農村考」 『アフリカ研究』 76 2010 pp.43-45
	島田周平 （吉田昌夫、原口武彦、林晃史と共著） 「アジ研のアフリカ研究創成期」 『アジア経済』 51-7 2010 pp.55-85
小林 知	小林知、『カンボジア村落世界の再生』、京都大学学術出版会、2011年、528ページ
岡本正明	Ota Atsushi, Okamoto Masaaki and Ahmad Suaedy eds, Islam in Contention: The Rethinking of Islam and State in Indonesia, Wahid Institute, 2010, x+468p
田辺明生	田中雅一・田辺明生編『南アジア社会を学ぶ人のために』世界思想社 全体を共編ほか、「序章」、「民主主義」、「ポストコロニアルとは何か」を担当。 2010年、309頁
石川 登	Ishikawa, N, Wil de Jong & Denyse Snelder eds. 2010. Transborder Governance of Forests, Rivers and Seas. London: Earthscan.
竹田晋也	Pipat Patanaponpaiboon, Ryuichi Tabuchi, Shinya Takeda and Sasitorn Pongparn (Eds.) Local Conservation and Sustainable Use of Swamp Forest in Tropical Asia. Plant Ecology Research Center, Department of Botany, Faculty of Science, Chulalongkorn University, Bangkok. 2010. 191.
浜元聡子	浜元 聡子 2010「〈テレタピスの家〉からジャワの村へ」『地域から読む現代（仮題）』所収（印刷中）、晃洋書房。

藤田素子	藤田素子「栄養塩の供給からみる、都市におけるハシプトガラスの役割」『カラスの自然史』（樋口広芳・黒沢令子編）北海道大学出版会、2010年9月、pp.83-94.
	藤田素子「大規模プランテーションと生物多様性保全—ランドスケープ管理の可能性—」『地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて—』（杉原薫、川井秀一、河野泰之、田辺明生共編）京都大学学術出版会、2010年4月、pp.233-250.
石坂晋哉	石坂晋哉、『現代インドの環境思想と環境運動—ガンディー主義と〈つながりの政治〉』、昭和堂、2011年、240頁
中溝和弥	中溝和弥・湊一樹著『インド・ビハール州における2010年州議会選挙—開発とアイデンティティ—』（アジア経済研究所ウェブ出版： <a href="http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/2010_301.html">http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/2010_301.html</a> )
川井秀一	川井秀一（共編著）：第7章 熱帯林生命圏の創出、地球圏・生命圏・人間圏—持続的な生存基盤を求めて—、p.215-231、京都大学学術出版会、2010
	川井秀一（共著）：50 LVL(2)—種類、性能、利用—、52 パーティクルボードとファイバーボード、53 構造用木質材料と製造技術、54 その他の木質材料と非木材系原料の利用、「コンサイス木材百科」秋田県律大学木材高度加工研究所編、p. 104—113、2011
渡辺隆司	渡辺隆司：白色腐朽菌の特異的リグニン分解能を利用した木質バイオマスの酵素糖化前処理技術、セルロース系バイオエタノール製造技術—食料クライシス回避のために—、エヌ・ティー・エス、133-145 (2010).
	渡辺隆司：ヘミセルロースの化学、ヘミセルロースの反応、木質の科学、136-153、文永堂出版 (2010).
	渡辺隆司：産業構造の大転換—バイオリファイナリーの衝撃—、地球圏・生命圏・人間圏 持続的な生存基盤を求めて、京都大学学術出版会、281-300 (2010).
	渡辺隆司、築瀬英司：担子菌・マイクロ波照射前処理と高速発酵細菌を用いる高効率バイオエタノール生産システム、次世代バイオエタノール生産の技術革新と事業展開、フロンティア出版、287-294 (2010).
	渡辺隆司：リグノセルロースの酵素糖化前処理、次世代バイオエタノール生産の技術革新と事業展開、フロンティア出版、123-139 (2010).
中村香子	中村香子、「ケニア・サンプル社会における年齢体系の変容動態に関する研究—青年期にみられる集団性とその個人化に注目して—」平成23年3月、京都大学アフリカ地域、研究資料センター発行

(3) 講演

片岡 樹	片岡 樹 (2010) 「非宗教という宗教—南タイ・ブーケットにおける中国系廟にみる制度宗教外の宗教実践—」 東南アジア学会第 83 回研究大会 (於愛知大学 2010.6.5
	片岡 樹 (2010) 「北タイ山地民の視点から」 2010 年度アジア政経学会西日本大会 (於京都大学) 2010.6.12
	片岡 樹 (2010) 「神学論争と人類学」 日本文化人類学会第 44 回研究大会 (於立教大学) 2010.6.12
	片岡 樹(2010) 「従土地神崇拜観察泰國普吉島の地域性」 2010 海外華人與華僑教育國際研討會 (於國立臺灣師範大學) 2010.10.9
Wil de Jong	DE JONG, Wil Border regions: From national backwaters to global commons Presented at: Scaling of Governance. Towards a New Knowledge for Scale Sensitive Governance of Complex Systems. 2010 年 11 月 12 日. Wageningen, Netherlands
	DE JONG, Wil. Strangers among trees. Territorialization and Forest Policies in the Bolivian Amazon. IUFRO World Congress 2010. 2010 年 8 月 28 日, Seoul, South Korea
長岡慎介	Shinsuke NAGAOKA “Why Islamic Economics in Japan? Methodology and Case Study.” Presented at IRTI Internal Seminar、口頭発表 (英語)、2010 年 6 月 27 日、於：サウジアラビア、イスラーム開発銀行附属イスラーム研究教育インスティテュート.
	Shinsuke NAGAOKA “Islamic Finance in East Asia: Current Situation & Future Prospects.” Presented at Durham Islamic Finance Summer School 2010, 口頭発表 (英語)、2010 年 7 月 7 日、於：英国、ダラム大学.
	Shinsuke NAGAOKA "Islamic Finance in Jordan: A Pioneer or an Emerging Market?" Presented at Fourth Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance, New Horizons in Islamic Economics: Country Case Studies ? Developments in Islamic Economics and Finance、口頭発表 (英語)、2010 年 7 月 12 日、於：英国、ダラム大学.

長岡慎介	Shinsuke NAGAOKA "Coordinating Sharia Legitimacy with Economic Feasibility in Islamic Finance: Explaining the Divergence from the Multiple Diversities Perspective." Presented at Third World Congress of Middle Eastern Studies (WOCMES)、口頭発表（英語）、2010年7月21日、於：スペイン、バルセロナ自治大学.
高田 明	Takada, A. (2011). Responsibility formation in early caregiver-child interactions among the !Xun of North-Central Namibia. Paper presented at the international conference: Towards an anthropology of childhood and children: Ethnographic fieldwork diversity and construction of a field, held in Institute of human and social sciences, University of Liege, Belgium, March 9-11 (9th March 2011).
	高田 明 (2011). ナミビア北東部のサンにおける歌／踊り活動を通じた社会化. ネアンデルターとサピエンス交替劇の真相: 学習能力の進化に基づく実証的研究: 第2回研究大会. 於: 神戸学院大学. 2011・2・19-20 (2・19).
	Takada, A. (2010). 9th symposium on the cultural formation of responsibility: Interaction, culture, and morality, Kyoto, Japan, 23rd October 2010. (Organizer)
	Takada, A. (2010). 8th symposium on the cultural formation of responsibility: The Edges of Language Socialization Studies, Kyoto, Japan, 17-18th September 2010. (Organizer)
	Takada, A. (2010). Interactional analysis of the give-and-take activity. Paper presented at the 8th symposium on the cultural formation of responsibility: The Edges of Language Socialization Studies, Kyoto, Japan, 17-18th September 2010 (17th September 2010).
	高田 明 (2010). 転身の物語り: サン研究における「家族」の復権. GCOE イニシアティブ4 「親子のつながり」ワークショップ. 於: 京都大学. 2010・5・15.
	高田 明・嶋田容子 (2010). ものの受け渡しを可能にする相互行為的条件. 社会言語科学会第26回大会研究発表要旨, pp.18-21. 於: 大阪大学豊中キャンパス. 2010・9・4-5 (9・4).
	嶋田容子・高田 明 (2010). 乳児-養育者間, 乳児-兄弟間のインタラクションにおける発声の重複. 社会言語科学会第26回大会研究発表要旨, pp.122-123. 於: 大阪大学豊中キャンパス. 2010・9・4-5 (9・5).

高田 明	<p>高田 明 (2010). エスニシティ・ドック：ナミビア北中部に住むクンのライフストーリー分析. 日本アフリカ学会第 47 回学術大会研究発表要旨, p.59. 於: 奈良県文化会館. 2010・5・29-30 (5・29).</p> <p>Takada, A. (2011). Chimp-Human interactions. Paper presented at "Discourse-lab seminar", Department of Anthropology, UCLA, CA, 28th February 2011.</p> <p>高田 明 (2011). ものの交換を可能にする相互行為的条件. 林原類人猿研究センター・ゼミナール. 於:林原類人猿研究センター. 2011・2・9.</p> <p>高田 明 (2011). ナミビア国概要. 平成 22 年度第 11 回国際協力人材赴任前研修(専門家等). 於:独立行政法人国際協力機構国際協力人材部総合研修センター. 2011・2・7.</p> <p>高田 明 (2010). プロセスとしての家族: サン研究における親族概念の再考. 「リプロダクションと家族のオルターナティブデザイナー文化と歴史の視点から」研究会. 於:国立民族学博物館. 2010・10・24.</p> <p>高田 明 (2010). 特別講義: ブッシュマンの子育て. 於:長野県看護大学. 2010・10・19.</p> <p>高田 明 (2010). アフリカで, 子どもの育ちを考える. 大学学部研究会. 於:東京国際フォーラム. 2010・8・26.</p> <p>高田 明 (2010). 文化が／をつくる子育ての実践. 第 370 回 KSP (関西社会心理学研究会). 於:京都大学. 2010・7・17.</p>
山本佳奈	<p>山本佳奈、「タンザニア農村部における季節湿地の耕地化をめぐる住民の対立と合意」日本アフリカ学会、2010年5月30日、奈良県文化会館</p>

平井將公	平井將公、「セネガルのセレール社会における農地林の利用—アクター間の交錯に着目して—」、京都大学地域研究統合情報センター研究会「『仮想地球』モデルをもちいたグローバル／ローカル認識の接合&京都大学グローバル COE（生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点）イニシアティブ 2 主催研究会「グローバル環境問題の動向と課題—地域社会との接合をめざして—」、2011年3月27日、京都大学
	平井將公、「 <i>Faidherbia albida</i> からみる人と自然のかかわり—西アフリカのサバンナ地域を中心に—」、京都大学地域研究統合情報センター研究会「『仮想地球』モデルをもちいたグローバル／ローカル地域認識の接合」、2010年10月19日、京都大学
	平井將公、「人口稠密地域における自然利用の技術と制度—セネガルのセレール社会の事例—」、京都大学グローバル COE 研究会「アフリカの半乾燥地域における地域社会の潜在力」、2010年7月13日、京都大学
	平井將公、「セネガルのセレール社会における樹木の切枝技術と回復力」、第20回日本熱帯生態学会年次大会、2010年6月20日、広島大学
	平井將公、「セネガルのセレール社会における備蓄型燃料採集「タハン」：私的所有資源の共的利用」、第47回日本アフリカ学会学術大会、2010年5月29日、奈良県文化会館
	平井將公、「生態資源の回復からみた生業の営み—セネガルのセレール社会の事例—」、第30回レジリアンス研究会、2010年4月10日、総合地球環境学研究所
	平井將公、「アフリカのサバンナ地域における人と自然の相互関係—セネガルのセレール社会の事例—」、NPO 法人アフリックアフリカ講演、2010年10月29日、兵庫県立西宮今津高等学校
	平井將公、コメンテーター「南部アフリカにおけるミオンボ林とモパネ林の広域比較研究」、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科院生発案共同研究報告会（大学院教育改革支援プログラム）、2010年10月13日、京都大学
	Hirai, Masaaki、「Local Recognition of <i>Faidherbia albida</i> as a Fodder Tree and the Development of its Pollarding Technique with Increase in Demand: A Case of Sereer in Senegal」、International Workshop “Perspectives on human-nature relationships in Africa: Interrelations between epistemology and practice”、2010年9月19日、kyoto-university

田中雅一	田中雅一 「トラウマ経験の組織化をめぐる領域横断的研究の射程」、人文科学研究所共同研究「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究——ナラティブからモニュメントまで」2010年4月12日、京都大学人文科学研究所。
	田中雅一「韓国における反基地闘争——ムゴンリの事例について」アジアの軍隊研究会「アジアの軍隊にみるトランスナショナルな性格に関する歴史・人類学的研究」、2010年4月24日、国立歴史民俗博物館
	田中雅一「大戦を人類学する トレンチ・アートと戦場の記憶」、人文科学研究所共同研究「第1次世界大戦の総合的研究」、5月24日、京都大学人文科学研究所。
	田中雅一 公開講演「文化をめぐる寛容と非寛容の対立を超えて 相対主義から省察的他者論の試みへ」、第53回印度学宗教学会学術大会、2010年5月29日、大阪国際大学 守口キャンパス
	田中雅一「シェル・ショックからシェル・アートへ—— 惨事トラウマとモノをめぐって」、人文科学研究所共同研究「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究——ナラティブからモニュメントまで」、2010年6月7日、京都大学人文科学研究所。
	田中雅一「男性身体と野生の技法——強精剤をめぐる自然・モノ・身体」、AA研共同研究「もの」の人類学的研究—もの、身体、環境のダイナミクス」2010年7月17日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
	田中雅一「トレンチ・アート——モノから見る戦争と平和」、民博共同研究「平和・紛争・暴力に関する人類学的研究の可能性」、2010年7月24日、国立民族学博物館。
	Masakazu TANAKA, “Transgressive Sexual Contacts in the Works of Tadashi Yoyogi” <i>Workshop on Sexual Boundary Crossings and Sexual Contact Zones in East Asia</i> , 2 Oct. 2010, Sophia University Institute of Comparative Culture.
	田中雅一「探検と共同研究——京都大学を中心とする人類学の歴史」民博共同研究「日本人類史の研究」2010年11月6日、国立民族学博物館。

田中雅一	Masakazu TANAKA, "Anthropology of Religions in Post-War Japan," <i>Workshop on Religious Studies in Asia</i> , 17 Dec 2010、 The National University of Singapore.
水野広祐	Mizuno, Kosuke, 2010, "Global Imbalance and Export-oriented East Asian Model revisited -Twelve Years' Change since Economic Crisis in 1997 and Alternative Model-"ASEM-CIEM Workshop on Overcoming the Crisis-Shaping Sustainable Development In the Next Context, Nha Tang, Vietnam, April 26-27, 2010
	水野広祐、2010、「世界金融危機とインドネシア経済」パネルディスカッション「世界不況下のアジア経済の躍動」アジア政経学会西日本大会、於 京都大学東南アジア研究所、2010年6月10日
	Mizuno, Kosuke, 2010, Indonesian Alternative to Export Oriented Authoritarian East Asian Development Model -Open and Balanced Economy-, The First Indonesian Forum, Center for Southeast Asian Studies, Osaka Consulate General of Indonesian Government, on July 23th, 2010, at Kyoto.
	Mizuno Kosuke, 2010, Peat Land Restoration at Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau and Potentiality of REDD program, The Meeting of the Participating Organizations for 2010 JST-JICA Project Proposal August 3rd, 2010, at LIPI, Jakarta
	Mizuno Kosuke, 2010, Indonesian Alternative to Export Oriented Authoritarian East Asian Development Model -Open and Balanced Economy-, Keynote speech, at PPI Nagoya University, August, 7 <sup>th</sup> , 2010.
	Mizuno, Kosuke, 2010, Entrepreneur in East Asia, Political, Economical, Social and Cultural; Toward a New Model of East Asian Political Economy, at Asian Core University Program Research Conference "Asian Connection" organized by Thammasat University on August 27th, 2010 at Bangkok, Thailand
	Mizuno, Kosuke, 2010, "Indonesian Economy for Sustainable Humanosphere" at the 34 <sup>th</sup> Southeast Asian Seminar on New Concept Building for Sustainable Humanosphere and Society From the Equatorial Zone of Southeast Asia, Center for Southeast Asian Studies, ICIER-LIPI, at LIPI, Jakarta, September 20 <sup>th</sup> , 2010.
	Mizuno, Kosuke, 2010, People's Organization and Institution for Peat Land Restoration at Giam Siak-Bukit Batu Biosphere Reserve of Riau and Potentiality of REDD program, at <i>International Symposium "Scientific Exploration and Sustainable Management of Tropical Peatland Ecosystems</i> , Center for Tropical Peatland Studies, Riau University, and G-COE Program for Sustainable Humanosphere, Kyoto University, Pekanbaru, October 20, 2010

水野広祐	水野広祐 2010「経済成長下インドネシアのジレンマ非工業化 or 開放均衡経済？」地域研究コンソーシアム共同企画研究シンポジウム ASEAN・中国 19 億人市場の誕生とその衝撃 於 愛知大学、2010 年 11 月 3 日
	Mizuno, Kosuke, 2010, Area Study and Sustainable Humansphere, “The Third International Conference on Mathematics And Natural Science (ICMNS) 2010- Science For Sustainable Development”, ITB, Bandung, Indonesia, 23-25 Nopember 2010,
	水野広祐、京大春秋講座「東南アジアはなぜ発展するのかー「東南アジア共生社会発展モデル」と日本のつきあい方」京大時計台 100 年記念ホール、2010 年 4 月 19 日
吉村 剛	吉村 剛、「これからのシロアリ防除」、愛知県しろあり対策協会講演会、2010 年 4 月 2 日、名古屋
	Tsuyoshi Yoshimura, 「Termite for New Energy Options」, HSS2010, 2010.6.11, Jogyakarta, Indonesia
	吉村 剛、「シロアリからエネルギーを創る」、日本昆虫科学連合設立記念シンポジウム、2010 年 7 月 24 日、東京
	吉村 剛、「既存住宅のシロアリ被害調査に必要な基礎知識」、(社) 日本しろあり対策協会 蟻害・腐朽検査員講習会、2011 年 8 月 20 日、大阪
	吉村 剛、「木材の生物劣化とその対策」、国産材研修会、2010 年 8 月 26 日、東京
	吉村 剛、「シロアリの生態と被害」、(社) 日本しろあり対策協会 シロアリ防除施工士第 2 次試験指定講習会、2011 年 9 月 10 日、大阪

吉村 剛	吉村 剛、「外来木材害虫について」、(社)日本しろあり対策協会 シロアリ防除施工士更新研修会、2011年10月15日、大阪
	吉村 剛:「これからのシロアリ防除」、(社)全国木工機械連合会講習会、2011年10月28日、宇治
	S.Nishizawa, A.Nakagawa-Izumi, T.Horisawa, T.Yoshimura, S. Doi, 「Feeding deterrence of <i>Reticulitermes speratus</i> on wood decayed by a brown rot fungus <i>Fibroporia radiculosa</i> 」, The 2 <sup>nd</sup> Internal Symposium of Indonesian Wood Research Society, 13 November 2010, Bali, Indonesia
	丸 尚孝、角田邦夫、吉村 剛、「ベイト工法における誘引・滞留物質の検討ーろ紙選択試験による評価ー」、日本環境動物昆虫学会第22回年次大会、2010年11月24日、彦根
	板倉修司、吉村 剛、森 拓郎、Emiria Chrysanti、築瀬佳之、大村和香子、「アメリカカンザイシロアリ加害木材中でのコロニー展開様式の推定」、日本環境動物昆虫学会第22回年次大会、2010年11月24日、彦根
	竹松葉子、築瀬佳之、大村和香子、土居修一、Sulaeman Yusuf、Chow-Yang Lee、吉村 剛、「東南アジア熱帯 Acacia 植林地におけるシロアリ相」、日本環境動物昆虫学会第22回年次大会、2010年11月24日、彦根
	吉村 剛、「木材を劣化させる生物」、公益財団法人 文化財建造物保存技術協会中堅技術者研修会、2010年12月7日、宇治
	吉村 剛、「シロアリの生態と被害」、(社)日本しろあり対策協会 シロアリ防除施工士第1次試験指定講習会、2011年1月25日、大阪
	吉村 剛、「東南アジア熱帯植林地における生物多様性ーシロアリと木材腐朽菌の視点からー」、日本材料学会木質材料部門委員会講演会、2011年1月27日、京都

吉村 剛	Yoko Takematsu, Tsuyoshi Yoshimura, Sulaeman Yusuf, Wakako Ohmura, Yoshiyuki Yanase, Kohei Kambara, Kazuaki Mitsumaki, 「Differences of temporal changes in the species richness of termites on <i>Acacia</i> hybrid plantationat tropical rain forests and tropical dry forests」, The 161 <sup>st</sup> RISH Symposium: Evaluation of biodiversity of termites and wood-decaying fungi in tropical plantation forests, 2011.2.4, Uji City
	Motoko Fujita, Dewi Prawiradilaga, Tsuyoshi Yoshimura, 「Bird diversity assessment in a tropical <i>Acacia</i> plantation」, The 161 <sup>st</sup> RISH Symposium: Evaluation of biodiversity of termites and wood-decaying fungi in tropical plantation forests, 2011.2.4, Uji
	吉村 剛、「アメリカカンザイシロアリその被害と対策の現状」、注入処理による防腐合板の研究会、2011年3月3日、東京
	丸 尚孝、角田邦夫、吉村 剛、「誘引・滞留液剤によるシロアリ管理法としてのベイ工法効果発現促進」、第61回日本木材学会大会、2011年3月18日、京都市
	Titik Kartika, Tsuyoshi Yoshimura, 「Effect of Wood Powder Substitution with Cellulose in Artificial Diets of <i>Lyctus africanus</i> 」, 第61回日本木材学会大会、2011年3月18日、京都
	築瀬佳之、藤原裕子、藤井義久、奥村正悟、森 拓郎、吉村 剛、鳥越俊行、今津節生、「アメリカカンザイシロアリ食害による空隙と曲げ強度の関係」、第61回日本木材学会大会、2011年3月19日、京都
	森 拓郎、栗崎 宏、築瀬佳之、田中 圭、天雲梨沙、温水章吾、井上正文、森 満範、野田康信、吉村 剛、小松幸平、「生物劣化を受けた木材の残存強度特性 その2：スギを用いた腐朽材の曲げ強度特性」、第61回日本木材学会大会、2011年3月19日、京都
	山下 聡、吉村 剛、本田与一、服部武文、土居修一、服部 力、「東南アジア地域におけるアカシア植林が多孔菌類群集に及ぼす影響」、第122回日本森林学会大会、2011年3月26日、静岡
篠原真毅	(Invited) Naoki Shinohara, “Development of High Efficient Phased Array for Microwave Power Transmission of Space Solar Power Satellite/Station in Kyoto University”, 2 <sup>nd</sup> International Symposium on Radio System and Space Plasma 2010, Blugaria, 2010.8-25-27, Proceedings pp.161-164

篠原真毅	(Invited) Tomohiko Mitani, Hiroshi Yamakawa, Naoki Shinohara, Kozo Hashimoto, Shigeo Kawasaki, Fumito Takahashi, Hideaki Yonekura, Takahiro Hirano, Teruo Fujiwara, Kenji Nagano, Hideki Ueda, and Makoto Ando, "Demonstration Experiment of Microwave Power and Information Transmission from an Airship", 2 <sup>nd</sup> International Symposium on Radio System and Space Plasma 2010, Blugaria, 2010.8-25-27, Proceedings pp.157-160
	(Invited) Blagovest Shishkov, Naoki Shinohara, Hiroshi Matsumoto, Kozo Hashimoto, and Tomohiko Mitani, "On the Optimization of Side-Lobes in Large Antenna Arrays for Microwave Power Transmission", 2 <sup>nd</sup> International Symposium on Radio System and Space Plasma 2010, Blugaria, 2010.8-25-27, Proceedings pp.165-170
	(Invited) Naoki Shinohara, "Recent SPS Research and Development Activity in Japan", International Academy of Astronautics 50th Anniversary Celebration Symposium on Global Climate Change, Nagoya, 2010.8.30, Proceedings pp.73-77
	(Invited) Kozo Hashimoto, Toshiki Ishikawa, Tomohiko Mitani, and Naoki Shinohara, "Revised Ubiquitous Power Source with Microwave Power Transmission", 2010 Asia-Pasific Radio Science Conference (AP-RASC), Toyama, 2010.9.23-26, Proceedings CD-ROM P0521.pdf
	(Invited) Tadashi Takano, Takahiro Yamada, Yasuhiro Kazama, Kazuhiro Ikeda, Shigeo Kawasaki, Naoki Shinohara, Hiroshi Toshiyoshi, and Tamotsu Suda, "The Applicability of the Study Results of Active Phased Array Antennas to a Solar Power Satellite", 2010 Asia-Pasific Radio Science Conference (AP-RASC), Toyama, 2010.9.23-26, Proceedings CD-ROM P0158.pdf
	(招待) 篠原真毅, "電磁波発電技術基礎", 第1回環境発電開発者会議, Techno-Frontier2010, 東京ビックサイト, 2010.7.22, pp.
	(招待) 篠原真毅, "宇宙太陽発電所 SPS- 持続可能な生存圏の拡大に向けて -", 日本生物環境工学会, 京都大学, 2010.9.8-10, 講演集 pp.380-386
	(招待) 篠原真毅, "電磁波を用いたエネルギーハーベスティングとセンサーネットワーク", 応用物理学会, 2011.3.24-27
Naoki Shinohara, "Wireless Power Transmission for Sustainable Humanosphere", Humanosphere Science School 2010, Indonesia, 2010.6.10-12	

篠原真毅	Tomohiko Mitani, Hiroaki Suzuki, Masafumi Oyadomari, Naoki Shinohara, Takashi Watanabe, Takahiko Tsumiya, and Hisayuki Segoe, "Development of a Continuous-Flow-Type Microwave Pretreatment System for Bioethanol Production from Woody Biomass, Renewable Energy 2010, Yokohama, Japan, 2010.6.30-7.2, Proceeding pp.
	Naoki Shinohara, "Development of High Efficient Phased Array for Microwave Power Transmission of Space Solar Power Satellite/Station", 2010 IEEE AP-S/URSI, Toronto, Canada, 2010.7.11-17, Proceedings CD-ROM 521.2.pdf
	Jin-Ping Ao, Kensuke Takahashi, Naoki Shinohara, Naoki Niwa, Teruo Fujiwara and Yasuo Ohno, "S-parameter Analysis of GaN Schottky Diodes for Microwave Power Rectification", 2010 IEEE Compound Semiconductor IC Symposium (CSICS), 2010.10.6
	Nozomu Suzuki, Tomohiko Mitani, and Naoki Shinohara, "Study and Development of a Microwave Power Receiving System for ZigBee Device", 2010 Asia- Pacific Microwave Conference (APMC), Yokohama, 2010.12.8-10, CD-ROM WE1C-02.pdf
	Katsuyuki Yano, Tomohiko Mitani, Naoki Shinohara, Masafumi Oyadomari, Masakazu Daidai, and Takashi Watanabe, "Microwave Absorption Characteristics of Liquid Compounds for an Efficient Microwave Pretreatment System of Woody Biomass toward Bioethanol Production", 2010 Asia- Pacific Microwave Conference (APMC), Yokohama, 2010.12.8-10, CD-ROM WE1C-04.pdf
	園部太郎, 三谷友彦, 蜂谷寛, 篠原真毅, 紀井俊輝, 大垣英明, "マイクロ波直接励起による 酸化亜鉛セラミックスから 原子状亜鉛プラズマの生成", 第 71 回応用物理学会, 2010.9.16, 講演集 16p-ZH-11
	鈴木望, 篠原真毅, 三谷友彦, "ZigBee 端末用マイクロ波受電システムの研究開発", 電子情報通信学会第 3 回無線電力伝送研究会, 2010.10.15, 信学技報 WPT2010-12 (2010-10) pp.27-31
	三谷友彦, 篠原真毅, "電子レンジ用マグネトロン中的作用空間端部における電子挙動とノイズ発生に関する一考察", 電子情報通信学会電子デバイス研究会, 2010.10, 信学技報, vol. 110, No. 249, ED2010-139, pp. 55-60
篠原真毅, "京都大学における SPS 研究の現状 2010", 2010.10.28-29, 第 13 回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 講演集 pp.40-42	

篠原真毅	篠原真毅, “無線電力伝送産業と宇宙太陽発電所”, 2010.10.28-29, 第 13 回宇宙太陽発電システム(SPS)シンポジウム, 講演集 pp.43-47
	篠原真毅, “宇宙太陽発電所のための無線電力伝送技術実証計画”, 第 54 回宇宙科学技術連合講演会, 2010.11.17-19, 講演 CD-ROM 1S08.pdf
	矢野克之, 三谷友彦, 篠原真毅, 大代正和, 親泊政二三, 渡辺隆司, “木質バイオマスのマイクロ波照射糖化前処理に向けた溶媒のマイクロ波吸収特性解析”, 日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム, 2010.11.17-19,
	篠原真毅, “24GHz 用レクテナの大電力化”, 第 29 回宇宙エネルギーシンポジウム, 2011.2.26, 講演集 CD-ROM
	三谷友彦, 篠原真毅, “マイクロ波照射・加熱による新材料創生と超高周波真空管の役割”, 学振委員会 (真空ナノエレクトロニクスシンポジウム), 2011.3.1-2
	鈴木望, 篠原真毅, 三谷友彦, “ZigBee センサーネットワークに対するマイクロ波無線電力供給システムの研究開発 II”, 電子情報通信学会第 5 回無線電力伝送研究会, 第 10 回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2011.3.7, 信学技報 WPT2010-21 (2011-03) pp.1-5
	小澤雄一郎, 平野敬寛, 藤原栄一郎, 藤原暉雄, 飯田光人, 篠原真毅, 三谷友彦, “排熱機能付アンテナの熱特性評価”, 電子情報通信学会第 5 回無線電力伝送研究会, 第 10 回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2011.3.7, 信学技報 WPT2010-22 (2011-03) pp.7-10
	井口裕之, 宮坂寿郎, 小川雄一, 清水浩, 中嶋洋, 大土井克明, 篠原真毅, 三谷友彦, “種子発芽後の成長に対するマイクロ波の影響 ー画像処理によるハウレンソウ種子の成長計測ー”, 電子情報通信学会第 5 回無線電力伝送研究会, 第 10 回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2011.3.7, 信学技報 WPT2010-22 (2011-03) pp.11-14
	井口裕之, 宮坂寿郎, 小川雄一, 清水浩, 中嶋洋, 大土井克明, 篠原真毅, 三谷友彦, “種子発芽後の成長に対するマイクロ波の影響 ー画像処理によるハウレンソウ種子の成長計測ー”, 電子情報通信学会第 5 回無線電力伝送研究会, 第 10 回宇宙太陽発電と無線電力伝送に関する研究会, 2011.3.7, 信学技報 WPT2010-22 (2011-03) pp.11-14

篠原真毅	鈴木望, 篠原真毅, 三谷友彦, “ZigBee 端末用マイクロ波無線電力供給システムの研究開発”, 電子情報通信学会総合大会, 2011.3.14-17, BS-2-10
	長濱章仁, 三谷友彦, 篠原真毅, 辻直樹, 福田敬大, 可成理高, 米本浩一, “火星飛行探査機へのマイクロ波無線電力供給用送電システムの研究開発”, 電子情報通信学会総合大会, 2011.3.14-17, BS-2-11
	石川峻樹, 篠原真毅, “SPS におけるフェーズドアレーアンテナのビーム最適化手法に関する研究”, 電子情報通信学会総合大会, 2011.3.14-17, BS-2-12
	矢野克之, 三谷友彦, 篠原真毅, 渡辺隆司, “溶媒誘電率変化を考慮した木質バイオマスマイクロ波前処理装置の反射低減の研究”, 電子情報通信学会総合大会, 2011.3.14-17, C-2-134
	原内健次, 岩崎裕一, 阿部まみ, 菽金平, 篠原真毅, 外村博史, 大野泰夫, “オープンリング共振器接続によるマイクロ波無線電力伝送”, 電子情報通信学会総合大会, 2011.3.14-17, C-10-8
	園部太郎, 蜂谷寛, 三谷友彦, 篠原真毅, 紀井俊輝, 大垣英明, “マイクロ波直接励起プラズマによるマイクロ波非加熱効果の解析”, 応用物理学会, 2011.3.24-27, 26p-CF-14
	篠原真毅, “ユビキタス電源 - 情報とエネルギーとの融合による無線通信の未来 -“, 東京工業大学移動通信研究グループオープンハウス 2010, 2010.4.16
	篠原真毅, “宇宙太陽発電所のない現在とある未来”, 関西宇宙イニシアティブ, 2010.4.24
	篠原真毅, “マイクロ波無線電力伝送の現状と課題 - 他方式との比較 -“, けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会 2次元通信ワーキンググループ, 2010.5.18

篠原真毅	篠原真毅, “ワイヤレス電力伝送技術の概要と課題”, ワイヤレス・テクノロジー・パーク 2010, (コース H) ワイヤレス電力伝送, 2010.5.14
	篠原真毅, “バイオマス・物質変換のためのマイクロ波高度利用共同研究”, 京都大学生存圏研究所オープンセミナー, 2010.10.27
	篠原真毅, “人間の生存に宇宙圏は必要か? 宇宙太陽発電所 SPS と無線電力伝送技術”, 京都大学春秋講義, 2010.10.27
	篠原真毅, “人間の生存に宇宙圏は必要か? 宇宙太陽発電所 SPS と無線電力伝送技術”, エネルギー・資源学会 平成 22 年度第 4 回エネルギー政策懇話会, 2010.11.19
	篠原真毅, “マイクロ波無線電力伝送”, アンビエント社会基盤研究会第 3 回無線給電 WG, 2011.1.12
	篠原真毅, “電磁波を用いた無線電力伝送の応用”, 日立 I T ユーザ会 第 37 回科学技術分科会オープンセミナー, 2011.3.7
關野伸之	Nobuyuki SEKINO “Marine Protected Areas as Imported Concept: BamboungCommunity-Based Marine Protected Area in Senegal”, 生態リスク COE 第 61 回公開講演会 横浜国立大学 2010 年 12 月 3 日
	Nobuyuki SEKINO “Conflicts on Marine Protected Areas in Senegal”, International Workshop on Contemporary Exchanges in Environment and Development at Bangladesh Agriculture University, Mymensingh, Bangladesh, December, 13-14, 2010.
増原善之	増原善之「ラオスにおける上座仏教の寺院立地と出家者の移動について」京都大学 CIAS 共同研究 複合ユニット「〈宗教〉からみた地域像」個別ユニット「聖なるもののマ ッピング」第 4 回合同研究会 (2011 年 3 月 30 日 ; 京都大学) .

増原善之	増原善之「平成 22 年度の活動報告および三年間の個人総括（ラオス班）」平成 20～22 年度科学研究費補助金基盤研究（A）「大陸部東南アジア仏教徒社会の時空間マッピング:寺院類型・社会移動・ネットワーク（代表者；林行夫）」2010 年度第 3 回国内集会（2011 年 2 月 25 日；ニューセントラルホテル(東京)）。
	Masuhara Yoshiyuki “Ekasan Thang Lasakan nai Samai Anachak Lan Sang (ランサン王国時代における行政文書について；ラオス語)”, International Workshop “The Collection and Conservation of Local Documents and Oral History in Lao PDR (FY 2007～2010)”（2010 年 12 月 24 日；ラオス国立大学）。
	増原善之「ラオス・ランサン王国行政文書から見た政府と地方国の関係について—地方国の領域画定に係る王命を手懸りに」東南アジア学会第 84 回研究大会（2010 年 12 月 4 日；東洋大学）。
	増原善之「タイ国立図書館所蔵『バイチュム文書』に含まれるランサン王国行政文書について」平成 21～22 年度科学研究費補助金基盤研究（B）「メコン河流域地域在地位文書の新開拓と地域史像の再検討—パヴィ調査団文書を中心に（代表者；飯島明子）」国内研究会（2010 年 11 月 12 日；京都大学）。
	増原善之「東南アジア大陸部北方地域：内陸交易国家から半・港市国家へ—16 世紀におけるラオス・ランサン王国の遷都をめぐって」京都大学地域研究統合情報センター2010 年度第 4 回 CIAS 談話会（2010 年 10 月 26 日；京都大学）。
	増原善之「昨年度の活動報告と展望——ラオス」平成 20～22 年度科学研究費補助金基盤研究（A）「大陸部東南アジア仏教徒社会の時空間マッピング:寺院類型・社会移動・ネットワーク（代表者；林行夫）」2010 年度第 1 回国内集会（2010 年 5 月 17 日；京都大学東京オフィス）。
藤倉達郎	Fujikura, Tatsuro Federalism, Indigenusness, and the Production of Locality in Western Nepal, American Anthropological Association Meeting, 17th November 2000, Sheraton New Orleans
	藤倉達郎、社会運動と開発：南アジアにおける事例研究、ネパールの社会運動研究の地平から、水俣学研究センター第 21 回定例研究会、2010.6.18、熊本学園大学
	Fujikura, Tatsuro Community Participation in Forest Management and Utilization of Non-Timber Forest Products: Cases from Nepal, International Workshop on Incentive of Local Community for REDD, 5th March 2011, Kyoto University

藤倉達郎	藤倉達郎、「新しいネパール」とローカリティーの生産、京都人類学研究会、2010.12.17、京都大学
甲山 治	Osamu Kozan, "Hydro-meteorological Cycle in Asian Monsoon Region and Indonesia", 7th Kyoto University Southeast Asian Forum, Hasanuddin University January 8-9, 2011
大村善治	大村 善治, ホイッスラーモード・コーラス放射による相対論的電子加速 P-EM028(3学会合同プラズマ宇宙物理-1), 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010/5/23, 幕張メッセ国際会議場
	大村 善治, 磁気圏におけるホイッスラーモード波およびEMIC波のコーラス放射の非線形理論 P-EM021(宇宙天気), 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010/5/25, 幕張メッセ国際会議場
	Omura, Y., Pickett, J., Grison, B., Santolik, O., Dandouras, I., Engebretson, M., Decreau, P M., Masson, A., Theory and observation of electromagnetic ion cyclotron chorus emissions in the magnetosphere , Western Pacific Geophysics Meeting 2010, 2010/6/22-25, 台北 (台湾)
	Yoshiharu Omura, Jolene Pickett, Benjamin Grison, et al., Theory and Observation of Electromagnetic Ion Cyclotron Triggered Emissions in the Magnetosphere, 7th AOGS Meeting, 2010/7/5-9, Hyderabad, India
	Yoshiharu Omura, Theory and Simulations of VLF Chorus Emissions, 7th AOGS Meeting, 2010/7/5-9, Hyderabad, India
	Yoshiharu Omura, Theory and Simulations of Whistler-Mode Chorus Emissions in the Magnetosphere (Session H), ISRSSP 2010, 2010/8/25-27, Sofia, Bulgaria
	Y. Omura, M. Hikishima, D. Summers, Theory and Simulations of VLF Triggered Emissions, 4th VERSIM Workshop, 2010/9/13-17, Prague, Czech

大村善治	Y. Omura, Plasma Waves and High Energy Particles in the Earth's Radiation Belts, AP-RASC'10, 2010/9/22-26, Toyama, Japan
	Y. Omura, J. Pickett, B. Grison, O. Santolik, I. Dandouras, M. Engebretson, P. M. E. Decreau, Theory and Observation of Electromagnetic Ion Cyclotron Triggered Emissions in the Magnetosphere, AP-RASC'10, 2010/9/22-26, Toyama, Japan
	Y. Omura, Theory and Simulations on Whistler-mode and EMIC Triggered Emissions, AGU Fall Meeting 2010, 2010/12/13-17, San Francisco, USA
千葉悠志	Chiba Yushi. "The Arab Information Order in the Transitional Era" IAS International Conference, Horizons in Islamic Studies: Continuity, Contestations and the Future, (Kyoto International Conference Center, Kyoto, 17 December 2010).
	Chiba Yushi. "Changing Media Landscape in the Arab World after the 1970s", G-COE/ KIAS/ TUFS Joint International Workshop on "Technology, Economics, and Political Transformation in the Middle East and Asia" , at Kyoto University, October 9-10, 2010. (Proceedings, pp.31-44.)
	Chiba Yushi. "Arab Terrestrial Network in the Satellite Era: The Case of Media City", G-COE/ KIAS International Workshop on "Media in the Middle East: Latest Issues", at Kyoto University, October 16.2010.
	Chiba Yushi. "Transformation of the Media Industries in the Arab Countries: From the Socio-Economical Approach", International Workshop on "International Media and Social Changes: Regional Debate in the Arab World and East Asia", at Chulalongkorn University, January 7. 2011.
	千葉悠志 「現代エジプトにおける放送メディアの変容——『汎アラブ・メディア』から『ナショナル・メディア』へ——」第26回日本中東学会年次大会、中央大学、2010年5月9日。
佐藤史郎	佐藤史郎「世界ガバナンス指数（WGI）について」、京都大学 G-COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」、第2パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年5月31日。

佐藤史郎	佐藤史郎「人間圏における『軍事支出』指標の意味合い—ACDA と SIPRI のデータを中心に—」、京都大学 G-COE 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」、第 2 パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010 年 6 月 28 日。
	杉原薫・佐藤史郎・中西宏晃「インド軍事化の長期趨勢—統計的外観—」、合同ワークショップ「軍事化・非軍事化のポリティカル・エコノミー—南アジア・中東地域の趨勢と変動—」、京都大学グローバル COE 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」イニシアティブ 1、NIHU 現代インド地域研究拠点龍谷大学拠点ユニット 1、NIHU 現代インド地域研究拠点京都大学拠点研究グループ 1、京都大学東南アジア研究所、2010 年 7 月 4 日。
	Shiro Sato, “Towards ‘Politics of Non-Western International Relations’”, 「非西洋的国際関係論の再検討—アジア・アフリカ地域の視点から—」研究会、関西学院大学、2010 年 7 月 30 日。
	佐藤史郎「核と日米安保—威嚇型から約束型へ」、2010 年度日本政治学会、パネル「戦後日本の安全保障—安保改定 50 年を契機に—」、中京大学、2010 年 10 月 9 日。
	佐藤史郎「日米中における威嚇型と約束型のコミットメントの相克」、2010 年度第 5 回「日米中政治経済研究会」、立命館大学学而館第 2 研究会室、2010 年 11 月 26 日。
	Shiro Sato, “Introduction to Politics of ‘Non-Western IR’: IR would discipline Asian and African Studies with Academic Hegemony”, International Seminar (with collaboration from the Institute for International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University): <i>The Hegemony of Western/Non-Western International Theory</i> , Ritsumeikan University, 27 November 2010.
	Shiro Sato, “International Relations as a Academic Hegemony for Asian Studies,” International Seminar (G-COE Initiative 1): <i>Politics of ‘Non-Western’ International Relations from Asian Perspective</i> , Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 29 November 2010.
	Shiro Sato, “On the Possibility of Treaty of Non-First Use of Nuclear Weapons between India and China”, International Symposium (KINDAS & G-COE Initiative 1 and 4): <i>Changing Position of India in World Politics and Security</i> , Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, 14 December 2010.
	佐藤史郎「核兵器の使用と倫理—ヒロシマとナガサキのリアリズム」、2010 年度第 7 回南山大学社会倫理研究所講話会、南山大学社会倫理研究所、2011 年 1 月 21 日。

佐藤史郎	Shiro Sato, “Beyond Anti-Non-Western IR from East Asia”, International Seminar: <i>Politics of East Asian International Relations Theory: Towards ‘Non-Western’ International Relations Theory</i> , Leiden University Institute for Area Studies, Leiden (Netherlands), 23 February 2011.
	Shiro Sato, “Future Prospect of U.S.-Japan Alliance”, U.S.-Japan & U.S.-ROK Alliance Project (Research Institute for Peace and Security), Okinawa, 3 March 2011.
	Shiro Sato, “Politics of Non-Western International Relations Theory: Asian Perspectives and Beyond”, 52nd Annual Conference, International Studies Association, Montreal (Canada), 17 March 2011.
	Shiro Sato, “Why Do We Need to Consider ‘Non-Western’ IR?” International Seminar: <i>Towards East Asian International Relations Theory: More May Be Better or More Will Be Worse?</i> Kyung Hee University, Seoul (Korea), 25 March 2011.
速水洋子	Hayami, Yoko “Upland vs. Lowland as Seen through Gender: Distant Representations and Immediate Relationships” JSPS Asian Core Workshop: International Seminar on Radically Envisioning a Different Southeast Asia: From a Non-State Perspective 2011年1月19日 京都大学稲盛記念館
	Hayami, Yoko “From the Intimate Sphere to the Public Sphere in Southeast Asia.” Research Conference “Asian Connections : Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century” Asian Core University Program of Thammasat University. Royal River Hotel, Bangkok Thailand 2010年8月27日
	速水洋子「国境をはさんでみたカレン社会とその変容」南山大学人類学博物館タイ北部山地民プロジェクト・シンポジウム『タイ北部山地民の過去・現在・未来』2010年10月17日南山大学
峯 陽一	峯 陽一 南アフリカの史学史—リベラル・ラディカル論争を超えて」同志社植民地主義研究会『植民地主義研究の現状と課題Ⅹ』（同志社大学人文科学研究所）、2010年4月10日。
	峯 陽一 「アフリカの政治制度選択と紛争予防」龍谷大学龍谷大学社会科学研究所『アフリカと世界』第8回研究会（龍谷大学深草学舎紫英館）、2010年4月17日。

峯 陽一	峯 陽一 「南アフリカとパレスチナをつなぐ」パレスチナの平和を考える会（エルおおさか）、2010年4月18日。
	峯 陽一 「南アフリカの歴史と現在 —虹は消えたか」京都精華大学公開講座 GARDEN『南アフリカのパワーを探る』第1回（COCON 烏丸）、2010年6月4日。
	峯 陽一 「天草から世界へ—南アフリカで考えたこと」熊本県立上天草高等学校開校記念講演会（上天草高等学校体育館）、2010年10月31日。
	Yoichi Mine ‘End of Development?’, <i>Lessons from History for Development</i> , ERSA/FRESH Conference, Stellenbosch Institute for Advanced Study, Stellenbosch, South Africa, 2010年11月25日。
	Yoichi Mine ‘Comments and Questions’, Joint Session: Towards the development of Humansphere Index, <i>Envisioning Environmental Security for Sustainable Development</i> , International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences (GIS-IDEAS), 9-11 December 2010, Hanoi, Vietnam, 2010年12月10日。
	峯 陽一 「全体構想および南アフリカ・ジンバブエの事例」公開シンポジウム『武力紛争から国家建設へ』JICA 研究所国際会議場、2011年3月10日。
古市剛久	古市剛久, 2010c. 東南アジア地域における地表物質中のセシウム 137 濃度：土砂移動研究への利用可能性. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会（セッション：地形）口頭発表（2010.5.25.幕張メッセ）.
	古市剛久, ロバート・ワットソン, ジョン・オリー, 2010. ミャンマー・シャン高原アッパーバルー川の流量と土砂運搬量—大陸部東南アジアからのデータ—. 東北地理学会 2010 年度春季学術大会口頭発表（2010.5.15.仙台市戦災復興記念館）
	古市剛久, 2010d. ミャンマー・エーヤワディー（イラワジ）河の流量と土砂運搬量：100 年単位・10 年単位の変動. 日本地理学会 2010 年春季学術大会口頭発表（2010.3.27.法政大学）

東長 靖	Yasushi Tonaga, Ambiguity in Context' according to Islamic Thought: Bridging Theory and Actuality around the Saints in Islam.,International Workshop, "Pilgrimage and Sanctuaries: Ambiguity in Context",2010年11月13日, Monte Verità, Ascona, Switzerland
和田泰三	石本恭子, 和田泰三, 青山薫, 笠原順子, 木村友美, 福富江利子, 石根昌幸, 奥宮清人, 松林公蔵、都市部ケア付きマンション居住高齢者における ADL 非自立の危険因子に関する検討、日本老年医学会雑誌(0300-9173)47 巻 Suppl. Page63(2010.05)
	和田泰三, 石根昌幸, 石本恭子, 笠原順子, 木村友美, 広崎真弓, 今野亜希子, 青山薫, 奥宮清人, 松林公蔵、有料老人ホーム在住高齢者における End of life care の意向、日本老年医学会雑誌(0300-9173)47 巻 4 号 Page361(2010.07)
	和田泰三, 笠原順子, 石本恭子, 青山薫, 木村友美, 福富江利子, 石根昌幸, 奥宮清人, 松林公蔵、抑うつは生命予後と関連するか? 都市部ケア付きマンションにおける検討、日本老年医学会雑誌(0300-9173)47 巻 Suppl. Page120-121(2010.05)
	和田泰三、生存基盤指数のとくに BioCultural Index と感染症疫学における GIS 技術の有用性に関する発表(鈴木氏と Nathan 氏)の Session Chair、ベトナム・ハノイ鉦山・地質大学(2010年12月)
舟橋健太	舟橋健太、「現代インドの「改宗仏教徒」ーウツタル・プラデーシュ州における「不可触民」のアイデンティティの諸相ー」、2010年度第2回 FINDAS 若手研究者セミナー「ダリト研究の諸相」、2010年10月30日、東京外国語大学(本郷サテライト)
	舟橋健太、「「不可触民」からダリトへ」、龍谷大学『アジアの文化ーインドの文化・宗教・社会ー』（特別講義）、2010年11月10日、龍谷大学(瀬田キャンパス)
	舟橋健太、「「平等的カースト性」を求めてー現代北インドにおける「改宗仏教徒」の宗教儀礼実践の様相からー」、京都人類学研究会、2010年11月19日、京都大学文学部
	舟橋健太、「現代インドにおけるダリト運動の展開とメディアーウツタル・プラデーシュ州における仏教改宗運動の事例からー」、NIHU プログラム・現代インド地域研究・国内全体集会「社会変容とメディア：グローバル・インドの諸相」、2010年12月4日、東京外国語大学(府中キャンパス)

舟橋健太	舟橋健太、「ヒンドゥー社会に生きる「不可触民」—北インドの「改宗仏教徒」の事例から—」、京都中ロータリークラブ例会（招待講演）、2010年12月6日、京都ホテルオークラ
	舟橋健太、"Negotiating with 'Caste': A Case of Buddhist-Dalits in Contemporary Uttar Pradesh"、NIHU プログラム・現代インド地域研究・国際シンポジウム "Voices for Equity: Minority and Majority in South Asia"、2011年1月22日、龍谷大学（大宮キャンパス）
	舟橋健太、"Negotiating with 'Caste': A Case of Buddhist-Dalits in Contemporary Uttar Pradesh"、エディンバラ大学南アジア研究センター・セミナー、2011年1月27日、イギリス・エディンバラ大学
河野泰之	Keynote, International Seminar "Scientific Exploration and Sustainable Management of Bioresources in Tropical Peatland Ecosystems", 2010年10月20日, リアウ大学, プカンバル, インドネシア.
	Discussant, Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities, 2011年1月29~30日, 国際交流会館, 京都.
小杉 泰	KOSUGI Yasushi, "Tasks and Prospects of Islamic Economics as a Frontier Science", G-COE/ KIAS/ Durham University Joint International Workshop on "Islamic Economics: Reconsidering the Idea of Islamic Finance", at Durham University, July 12-13, 2010.
	KOSUGI Yasushi, "Islamic Revival and Islamization of Sciences: A Japanese Perspective", International Symposium on "Islam, Science and Civilization", at Kyoto University, November 11, 2010.
	KOSUGI Yasushi, "Islamic Area Studies: Japanese/Global Perspectives," Kyoto International Conference of Islamic Area Studies on "Continuity, Contestations, and the Future," December 17, 2010.
	KOSUGI Yasushi, "Japanese Global Perspective on the Study of Islam: An Alternative to Western Perspective", International Workshop, at IAIS Malaysia, February 18, 2011.

小杉 泰	KOSUGI Yasushi, "Civilization, Technology and Science: A Japanese Reinterpretation of Global History", 3 <sup>rd</sup> International Kyoto University-UKM Symposium on "Islam and Civilization" at Institute Islam Hadhari, National University of Malaysia, February 21, 2011.
	KOSUGI Yasushi, "Current State of Islamic Studies in Japan", Public Lecture on "The Impact of New Media and Communication Technology on Islam in Indonesia", at State Islamic University "Syarif Hidayatullah" Indonesia, February 23, 2011.
青山卓史	Wada Y, Kusano H, Tasuda K, Tsuge T, Aoyama T. Functions of PIP5K Genes in the Root Hair Elongation Responsive to Environmental Stimuli. 19th International Symposium on Plant Lipids, 2010.7.11-16. Cairns, Australia
	Aki S, Nakai H, Oka A, Aoyama T, Tsuge T. CSN1 Interacting Protein SAP130 Is Important for Pollen Development in Arabidopsis. ZOMES VI, Expanding the PCI Family beyond Proteasome CSN and eIF3 Complex. 2010.10.4-7. Safed Israel
	Aoyama T, Wada Y, Anzai N, Kusano H. Regulatory Mechanism for Shaping Plant Cells. International Symposium on "Young Researcher Global Leader Training Program" Shizuoka University. 2010.10.7-8. Hamamatsu, Japan
	Anzai N, Ohashi Y, Taniguchi M, Tsuge T, Aoyama T. Genetic Analysis of an Arabidopsis thaliana PX-PH-type Phospholipase D gene, PLDzeta1. Cold Spring Harbor Asia Conference "From Plant Biology to Crop Biotechnology". 2010.10.25-29. SuZhou, China
	和田悠貴香、草野博彰、安田敬子、柘植知彦、青山卓史 「環境刺激に応答した PIP5K 遺伝子の機能」 第 23 回植物脂質シンポジウム、2010.11.26-27 宇治
	安齋尚子、大橋洋平、谷口雅俊、柘植知彦、青山卓史 「シロイヌナズナ・ホスホリパーゼ Dzeta1 遺伝子の遺伝学的解析」 第 23 回植物脂質シンポジウム、2010.11.26-27 宇治
	草野博彰、和田悠貴香、安齋尚子、島田浩章、松井南、青山卓史 「植物細胞の形態形成における位置情報のシグナル」 第 23 回植物脂質シンポジウム、2010.11.26-27 宇治

畑 俊充	畑 俊充、梶本武志、Yasin Eker、Sylvie Bonnamy、Francois Beguin、Si/乳酸蒸解リグニンからのリチウムイオン電池負極用炭素材料の開発、第八回木質炭化学会研究発表会、2010年5月28日、東京
	梶本武志、畑 俊充、田川雅人、小嶋浩嗣、早川 基、山川 宏、上田義勝、宇宙用木質材料の耐腐食性の向上、第八回木質炭化学会研究発表会、2010年5月28日、東京
	Toshimitsu Hata, Yoshiharu Uchimoto ,Roland Benoit, Sylvie Bonnamy and Paul Bronsveld, Effect of Structural Changes on ORR Reactivity of N-doped Carbonized SUGI Wood, CARBON2010-The Annual World Conference on Carbon, July 11-16, 2010, Clemson・South Carolina・USA
	畑 俊充、木質系バイオマスの利用と循環型社会形成、低炭素社会の形成に向けた循環技術の開発と社会システム研究部門別発表会（第24回）、2010年6月25日、大阪
木村大治	Daiji Kimura, "Everyday Conversation of the Baka Pygmies" 2010年9月 The International Conference on Congo Basin Hunter-Gatherers Montpellier, France
八塚春名	八塚春名、「タンザニアのサンダウェ社会における多様な環境利用とそれを支える物々交換」、第16回生態人類学会研究大会、2011年3月19日、京都大学
	八塚春名 「タンザニアの半乾燥地域における耕地雑草の半栽培と利用」、日本熱帯農業学会第109回講演会、2011年3月28、29日、日本大学
増田和也	増田和也、「アブラヤシ大農園開発における地域住民の対応：スマトラ、プタランガン社会の事例から」、第10回アブラヤシ研究会、2010年6月19日、京都大学稲盛財団記念館
	MASUDA Kazuya. "Transformations of resource distribution among local communities: Between custom and law". International Symposium, "Scientific Exploration and Sustainable Management of Tropical Peatland Ecosystems", on October 20th 2010, at Faculty of Mathematics and Natural Science, Riau University, Indonesia.

谷 誠	谷 誠、流出場条件の貯留関数への反映について、水文・水資源学会 2010 年度研究発表会要旨集、124-125、2010 年 9 月、東京
	谷 誠、水循環における森林など生態系の役割、水文・水資源学会市民との交流シンポジウム「水の循環と人間のかかわり ―地球温暖化時代を生き抜くための智慧」、5-10、2010 年 9 月、東京
梅村研二	梅村研二、天然由来物質をバインダーに用いた新しい木質材料開発、日本木材加工技術協会関西支部主催「第 26 回木質ボード・木質複合材料シンポジウム/木材・プラスチック複合材部会第 8 回定期講演会」、京都、3/4～5 (2010)
	梅村研二、天然有機酸を利用した接着、第 31 回木材接着研究会、日本木材学会・木材接着研究会、静岡、10/21-22 (2010)
	上田智英、梅村研二、川井秀一：クエン酸を用いた木質成形材料の開発研究、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19 (2010)
	杉原理、梅村研二、川井秀一：クエン酸とスクロースを接着剤としたパーティクルボードの開発、第 60 回日本木材学会大会、宮崎、3/17-19 (2010)
佐川 徹	佐川 徹、2011 「グローバリゼーションの人類学、『争い』と『和解』の諸相：第 11 回ポストコンフリクト状況を生きる（担当講師：湖中真哉氏）」ゲスト、放送大学学園、平成 23 年から放送。
	佐川 徹、2010 「東アフリカ牧畜民の暴力と和解に臨む態度と姿勢」、国立民族学博物館共同研究「交錯する態度への民族誌的接近―連辞符人類学の再考、そしてその先へ」、大阪、2010 年 12 月 12 日。
	Sagawa, Toru 2010 Excessive violence and social order in the Kenya-Sudan-Ethiopia borderland. <i>2010 International Research Forum of African Studies, Kyoto University: Emerging Approaches to Understanding Violence and Social Transformation in East Africa</i> . Kyoto, Japan. 31. Jul. 2010.

佐川 徹	佐川 徹、2010 「平和、開発、アサイラム空間－東アフリカ牧畜社会における再国土化をめぐって」、国立民族学博物館共同研究「<アサイラム>の人類学」、大阪、2010年7月24日。
	佐川 徹、2010 「大規模商業農場の建設が地域社会に与える影響－エチオピア西南部ダサネッチの初期対応」、日本アフリカ学会第47回学術大会、奈良、2010年5月29-30日。
	佐川 徹、2010 「アフリカの紛争を理解する視点」、福島大学公共政策学部講義「現代社会へのアプローチ A」ゲスト、福島、2010年5月10日。
	佐川 徹、2010 「敵性の構築と溶解－東アフリカ牧畜社会の低強度紛争の事例から」、第47回大阪大学コンフリクトの人文科学セミナー、大阪、2010年4月23日。
	佐川 徹、2010 「『無知なるわれわれ』へのいらだち－商業農場建設とダサネッチの自己認識」、日本ナイル・エチオピア学会第19回学術大会、東京、2010年4月17-18日。
杉原 薫	杉原薫、「人類社会の持続型生存基盤パラダイム」国立大学共同利用・共同研究拠点協議会設立記念 一般公開シンポジウム 「地球環境変化と人類社会」、東京大学安田講堂、2010年4月3日。
	杉原薫、「(コメント) アジア間貿易の成長と域内需要の創出」2010年度アジア政経学会西日本大会 共通論題「世界経済不況下のアジア経済の躍動－その経済構造と政府の役割－」、京都大学稲盛財団記念館、2010年6月12日。
	杉原薫、「(趣旨説明・司会) 社会経済史学の新たな課題－その存在理由の共有を求めて－」社会経済史学会第79回全国大会 80周年記念パネル、関西学院大学、2010年6月19日。
	杉原薫、「戦後アジアにおける工業化型国際秩序の形成、1945－1979年」、科学研究費補助金・基盤研究A「グローバルヒストリー研究の新展開と近現代世界史像の再考」第1回定例研究会、大阪大学待兼山会館、2010年7月3日。

杉原 薫	杉原薫、「(佐藤史郎・中西宏晃と共同報告) インド軍事化の長期趨勢—統計的概観—」、科学研究費補助金・基盤研究 B「ガンディーにおける生命・生存・スワラージー—非暴力思想の世界史的水脈—」・基盤研究 B:「化石資源世界経済」の興隆と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較的研究」合同ワークショップ「軍事化・非軍事化のポリティカル・エコノミー—南アジア・中東地域の趨勢と変動—」、京都大学稲盛財団記念館、2010年7月4日。
	杉原薫、「中東軍事紛争の世界経済的文脈—石油、兵器、資金の循環とその帰結—」、科学研究費補助金・基盤研究 B「ガンディーにおける生命・生存・スワラージー—非暴力思想の世界史的水脈—」・基盤研究 B:「化石資源世界経済」の興隆と森林伐採・環境劣化の関係に関する比較的研究」合同ワークショップ「軍事化・非軍事化のポリティカル・エコノミー—南アジア・中東地域の趨勢と変動—」、京都大学稲盛財団記念館、2010年7月4日。
	杉原薫、「戦後アジアにおける工業化型国際秩序の形成、1945—1980年」、科学研究費補助金・基盤研究 A「グローバルヒストリー研究の新展開と近現代世界史像の再考」第2回定例研究会、東京大学文学部、2010年10月17日。
	杉原薫、(コメント)「三つの圏の論理と第4巻の構想」グローバルCOE 第32回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年11月1日。
	杉原薫、「第1巻の全体構想と第2編、第3編のねらいについて」グローバルCOE 第33回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年11月12日。
	杉原薫、「グローバル・ヒストリーとアジアの経済発展径路—環境・技術・制度の長期ダイナミクス—」、名古屋市立大学経済学研究科クラスターセミナー(制度・歴史系)「経済成長の市場・制度・歴史分析—アジア分析を中心に—」、名古屋市立大学、2010年11月18日。
	Kaoru Sugihara, “Regional Dynamics in Postwar Asian Economic Development, 1945-1980”, Economic Research Southern Africa (ERSA)/ Future Research in Economic and Social History (FRESH) Conference “Lessons from History for Development”, STIAS, Stellenbosch, South Africa, 26 <sup>th</sup> November 2010.
	杉原薫、「グローバル・ヒストリーとアジアの経済発展径路」現代中国史研究会、神戸大学、2010年12月5日。
	Kaoru Sugihara, “(Keynote Lecture) Global COE (Center of Excellence) Program on Sustainable Humanosphere at Kyoto and the Humanosphere Index”, International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences, Hanoi, Hanoi University of Technology, 9 <sup>th</sup> December 2010.

杉原 薫	Kaoru Sugihara, “The South Asian Path of Economic Development: A Note on Diversities and Integration”, INDAS Second International Conference on “Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities”, Kyoto International Community House, 29 <sup>th</sup> January 2011.
	Kaoru Sugihara, “(Chair) Session ‘Putting Human Height in Perspective’”, Asia-Pacific Economic and Business History Conference, Hotel Shattuck Plaza, California, 20 <sup>th</sup> February 2011.
	Kaoru Sugihara, “Patterns and Development of Intra-Asian Trade, 1950-1980”, Asia-Pacific Economic and Business History Conference, Hotel Shattuck Plaza, California, 20 <sup>th</sup> February 2011.
鈴木史朗	Suzuki S: EST analysis and establishment of regeneration system of tropical Acacia for cellulosic biomass production. The 5th Korea-Japan Joint Symposium -Current Status and Understanding of Biomass/Bioenergy in Korea and Japan-, August 23-26, 2010, Hyundai Hotel, Gyeongju, Korea,
	Md. Mahabubur Rahman, 鈴木史朗、服部武文、三位正洋、梅澤俊明: <i>In vitro</i> Propagation and Transgenic Callus Induction of Tropical Acacia. 第 28 回日本植物細胞分子生物学会 (仙台) 大会・シンポジウム、2010 年 9 月 2-3 日、東北大学農学部、仙台
生方史数	生方史数、「制度設計と自生的進化：タイの共有林管理の事例から」、南山大学社会倫理研究所設立 30 周年記念公開シンポジウム「誰が環境問題を考えるのか—環境政策における地域レベルの視点と取り組みの重要性」、2010 年 5 月 29 日、南山大学社会倫理研究所
	生方史数、「生産関係から地域をみる：東南アジアのパルプ産業とその原料基盤」、第 10 回アブラヤシ研究会、2010 年 6 月 19 日、京都大学東南アジア研究所
	生方史数、「グローバル経済下における生産・生存・環境」、地域研萌芽研究成果報告会 2010 年 7 月 8 日、京都大学地域研究統合情報センター
	生方史数、「村落自治における二つのガバナンス：タイの共有資源管理の事例から」、東南アジア研究所公募共同研究「農村社会構造の広域アジア間比較」第 1 回研究会、2010 年 10 月 10-11 日、青山学院大学

生方史数	Ubukata, F. "The Development of Raw Material Supply System in Thai Pulp Industry: A Comparative Perspective," Southeast Asian Geography Association Conference 2010, Nov. 23-26, 2010, Hanoi National University of Education, Hanoi.
	Ubukata, F. "The Decentralization or Centralization? The CBNRM Policy and Its Local Impacts in Thailand," The 2010 International Conference on Community Forestry, Dec. 8-9, 2010, Forestry Bureau, Council of Agriculture, Taipei.
	生方史数「熱帯アジアの森林管理制度—その形成、発展、変容—」、京都大学 GCOE 研究会「農業・森林の管理制度の広域アジア間比較—村落構造と歴史的発展径路」、2010年12月23日、京都大学東南アジア研究所
木谷公哉	木谷公哉、「東南アジア研究逐次刊行物総合目録データベース」、東南アジア研究所共同研究・共同研究会「東南アジア逐次刊行物の共有化」、2010年10月15日、大阪大学外国学図書館
梶 茂樹	梶 茂樹 「なぜアフリカ文学は理解できるのか」、2010年7月3日、日本学術会議「文化の邂逅と言語」分科会、東京大学本郷キャンパス.
	梶 茂樹 「トーロ語における他動詞の自動詞的用法について」、2010年10月16日、アフリカ言語研究会、大阪大学中之島センター.
	梶 茂樹 「アフリカ人の知恵」、2011年1月12日、京都学園中学校.
	梶 茂樹 「言語調査は、音声学・音韻論から始めるのか」、2011年1月17日、第6回音韻論フェスタ、湯の宿木もれび.
	梶 茂樹 「アフリカにおける口承文学」、2011年1月20日、アフリカ地域研究会、京都大学稲盛財団記念館.

梶 茂樹	梶 茂樹「多言語使用と共通語使用—アフリカにおける多言語状況への二つの対処法—」, 2011年2月12日, 第50回多言語社会研究会, 東京外大本郷サテライト.
渡辺一生	Watanabe K., Kawai S. and Sadamichi Y., 2010, Toward to Sustainable Plantation Forest -The Research Plan of the Production Unit-, Japan-Indonesia Workshop on Sustainable Management and Development in Peat Swamp Forest in Indonesia, PDII-LIPI, August 3rd.
	Watanabe K., Kozan O., Kawai S. and Sadamichi Y., 2010, Investigation Report of Biomass Team, The 29th Paradimg Formulation Seminar, Center for Southeast Asia Study, Kyoto University, June 21st.
	Watanabe K., 2010, Forest Monitoring by Microwave Remote Sensing, International Symposium Scientific Exploration and Sustainable Management of Tropical Peatland Ecosystems, Riau University, Indonesia, October 20th.
	渡辺一生, 2011, 東北タイ・ドンデーン村における半世紀にわたる現地調査とその時空間データベースの構築, 分野融合型集落定点調査情報の時空間データベースの構築と共有に関する研究会, 京都大学東南アジア研究所, 1月15日
	渡辺一生, 2011, リアウ・バイオスフィアリザーブにおける炭素循環モニタリング構築に向けた現地調査報告, 第34回 G-COE パラダイム研究会, 京都大学東南アジア研究所, 1月24日
	川井秀一, 大村喜治, 甲山治, 渡辺一生, 2011, 琵琶湖集水域における森林バイオマスの動態評価と持続的利用モデルの構築, 京都大学生存基盤科学ユニット 研究成果報告会 講演要旨集, 京都大学生存圏研究所, 2月3日, 69-73.
松林公蔵	松林公蔵、ヒマラヤからフィールド老年医学へ、禅ヒューマンケア 2010 正限夏期講座、正限短期大学、2010年7月25日
	松林公蔵、ブータンのGNH、第5回自然学研究会、吉田泉殿、2010年11月7日

松林公蔵	松林公蔵、フィールド医学、京都大学フィールド諸学研究会、学術情報メディアセンター北館講習室、2010年12月17日
	Matsubayashi K, "Field Medicine"- A New Paradigm of Geriatric Medicine, Aging Seminar in Taiwan, Cheng Kung University in Tainan in Taiwan, 25 February 2011
山本 衛	Yamamoto, M., Research Enhancement and System Establishment for Space Weather in Indonesia, 2010 International Workshop on Space Weather in Indonesia, Bandung, Indonesia, 1-3 December 2010.
	Yamamoto, M., S. V. Thampi, T. Nagatsuma, M. Ishii, Y. Otsuka, K. Shiokawa, and R. Tsunoda, Network of satellite beacon experiment for the study of equatorial Spread-F from Asia and Pacific regions, International Beacon Satellite Symposium, Barcelona, Spain, June 7-11, 2010.
	山本衛・脇阪洋平・橋口浩之, USRP1 と USRP2 のリモートセンシングへの応用, ソフトウェア無線研究会パネリスト, 京都府精華町, ATR 研究所, 2010年7月29日
	Yamamoto, M., S. V. Thampi, T. Tsugawa, T. Nagatsuma, Y. Otsuka, and R. Tsunoda, Study of equatorial Spread-F with satellite beacon network in Asia and Pacific regions, 2010 The Meeting of the Americas, Foz do Iguacu, Brazil, 8-12 August 2010.
	M. Yamamoto, H. Hashiguchi, and T. Tsuda, Overview of MU radar achievements for 25 years, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010年9月2-3日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	M. Yamamoto and S. V. Thampi, Digital satellite beacon receiver; system and application, 2010 Taiwan-Japan Space Instrument Workshop, 2010年9月10日, National Cheng Kung University, Tainan
	M. Yamamoto, S. V. Thampi, Y. Otsuka, T. Tsugawa, and T. Nagatsuma, Study of Equatorial Spread-F with Ground-based Observation Network in Asian Region, 2010 Asia-Pacific Radio Science Conference, 2010年9月25日, 富山国際会議場, 富山

山本 衛	M. Yamamoto, S. V. Thampi, T. Tsugawa, T. Nagatsuma, Y. Otsuka, R. Tsunoda, and P. Baki, Study of Equatorial Spread-F with GNU Radio Beacon Receiver (GRBR) Network in Asia, Pacific, and Africa, SEALION International Symposium 2011, 2011 年 1 月 27 日, Grand Mercure Fortune Hotel, Bangkok
	M. Yamamoto and S. V. Thampi, GNU Radio beacon receiver --- System and application ---, 2010 Beacon Satellite Symposium, 2010 年 6 月 9 日, Universitat Politecnica de Catalunya, Barcelona
	M. Yamamoto, S. Thampi, Y. Otsuka, T. Tsugawa, T. Nagatsuma, and R. Tsunoda, Study of equatorial Spread-F with ground-based large network observations in Asia and Pacific regions, 12th SCOSTEP Sympososium, 2010 年 7 月 16 日, Seminaris CampusCube, Berlin
	M. Yamamoto, S. V. Thampi, H. Liu and C. Lin, Multi-instrument observations of midlatitude summer nighttime anomaly from satellite and ground, 38th Scientific Assembly of the Committee on Space Research, 2010 年 7 月 19 日, Bremen Exhibition & Conference Center, Bremen
	H. Hashiguchi, T. Tsuda, M. Yamamoto, M.K. Yamamoto, J. Furumoto, S. Fukao, T. Sato, M.D. Yamanaka, T. Nakamura, K. Hamazu, S. Watanabe, and K. Imai, Development of 1.3-GHz wind profiler radars at RISH, Kyoto University, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010 年 9 月 2-3 日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	M.K. Yamamoto, N. Ikeno, T. Mega, H. Hashiguchi, M. Yamamoto, T. Shimomai, S. Fukao, M. Nakazato, and T. Tajiri, Precipitation observation by 9.8-GHz and 35-GHz Doppler weather radars during the REQUIPP campaign at Shigaraki, Japan, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010 年 9 月 2-3 日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	M.K. Yamamoto, T. Mega, M. Abo, Y. Shibata, T. Nakamura, M. Yamamoto, H. Hashiguchi, M.D. Yamanaka, and S. Fukao, Vertical air motion and its possible relation to cloud microphysics revealed by 50-MHz clear-air radar and lidar, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010 年 9 月 2-3 日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	T. Mega, M.K. Yamamoto, H. Luce, M. Yamamoto, H. Hashiguchi, M.D. Yamanaka, and S. Fukao, Range imaging observation of turbulence by the Equatorial Atmosphere Radar installed at West Sumatra, Indonesia, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010 年 9 月 2-3 日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	H. Hashiguchi, T. Tsuda, M. Yamamoto, M.K. Yamamoto, J. Furumoto, T. Mega, and S. Fukao, Atmospheric observations with Equatorial Atmosphere Radar (EAR), International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010 年 9 月 2-3 日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治

山本 衛	Y. Tabata, H. Hashiguchi, M.K. Yamamoto, M. Yamamoto, M.D. Yamanaka, S. Mori, Fadli Syamsudin, and Timbul Manik, Lower Tropospheric Horizontal Wind over Indonesia: A Comparison of Wind-profiler Network Observations with Global Reanalyses, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010年9月2-3日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	S. Fukao, H. Luce, M.K. Yamamoto, T. Mega, and H. Hashiguchi, Large-Amplitude Kelvin-Helmholtz Billows Observed with the MU Radar in the Lower Atmosphere, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010年9月2-3日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	Y. Wakisaka, H. Hashiguchi, M. Yamamoto, M.K. Yamamoto, T. Mega, and K. Imai, Development of the digital receiver for wind profiler radar using GNU Radio, International Symposium on the 25th Anniversary of the MU Radar, 2010年9月2-3日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治
	Yamamoto, M., RISH-LAPAN collaborative research activity for atmosphere/ionosphere over Indonesia, 2010 International Workshop on Space Weather in Indonesia, Bandung, Indonesia, 1-3 December 2010.
	脇阪洋平, 橋口浩之, 山本衛, 山本真之, 森谷祐介, 妻鹿友昭, 今井克之・足立アホロ・柴垣佳明, GNU Radioを用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, 日本気象学会2010年度春期大会講演予稿集 P313, 2010年5月23-26日, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京
	橋口浩之, 山本衛, 山本真之, 古本淳一, 津田敏隆, 赤道大気レーダーによる3次元イメージング開発計画, 日本地球惑星科学連合2010年大会講演予稿集 AAS006-03, 2010年5月23-28日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	山本真之, 阿保真, 橋口浩之, 山本衛, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダーとライダーによる雲内の鉛直流観測, 日本地球惑星科学連合2010年大会講演予稿集 AAS006-04, 2010年5月23-28日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	深尾昌一郎, H. Luce, 山本真之, 妻鹿友昭, 橋口浩之, 山本衛, MUレーダーによる対流圏・成層圏大振幅ケルビン・ヘルムホルツ波の高分解能観測, 日本地球惑星科学連合2010年大会講演予稿集 AEM011-03, 2010年5月23-28日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
斎藤享, 山本衛, 丸山隆, デジタル受信機を用いた短波赤道横断伝播によるプラズマバブルの観測, 日本地球惑星科学連合2010年大会, 2010年5月23-28日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張	

山本 衛	山本衛, Thampi Smitha V., Liu Huixin, 斎藤享, 大塚雄一, Patra, Amit Kumar, 部分日食によって誘発された中緯度電離圏E領域イレギュラリティ, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 23-28 日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	坂野井健, 秋谷祐亮, 大塚雄一, 山崎敦, 阿部琢美, 齊藤昭則, 鈴木睦, 武山芸英, 小淵保幸, 田口真, 江尻省, 久保田実, 吉川一朗, 山本衛. ISS-IMAP 搭載 VISI による大気光観測: 開発の現状と観測シミュレーション(3), 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 23-28 日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	森永隆稔, 山田倫久, 山本真行, 羽生宏人, 渡部重十, 阿部琢美, 山本衛, S-520-26 号観測ロケット搭載 LES によるリチウム放出実験: WIND-2 計画, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 23-28 日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	水谷徳仁, 大塚雄一, 塩川和夫, A. K. Patra, 横山竜宏, 山本衛, 赤道大気レーダーで昼間に観測された高度 150km 沿磁力線不規則構造の統計解析, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 23-28 日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	Liu Huixin, Mamoru Yamamoto, H. Luehr, Wave-4 Pattern of the Equatorial Mass Density Anomaly - Evidence for direct penetration of DE3 to upper thermosphere, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 23-28 日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	齊藤昭則, 山本衛, 大塚雄一, PANSY レーダーによる電離圏観測, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 23-28 日, 幕張メッセ国際会議場, 幕張
	山本衛, S. V. Thampi, 塩川和夫, 大塚雄一, 長妻努, 石井守, 丸山隆, 齊藤昭則, R. Tsunoda, アフリカ、アジア、太平洋に広がる赤道スプレッドF現象研究のための衛星ビーコン観測網, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 2010 年 5 月 25 日, 幕張メッセ国際会議場, 千葉
	山本衛, 橋口浩之, 山本真之, 古本淳一, 川島正行, 宮崎雄三, 長澤親生, 阿保真, 柴田泰邦, 下舞豊志, 柴垣佳明, 藤吉康志, 林政彦, 東野伸一郎
	妻鹿友昭, 山本真之, 阿保真, 柴田泰邦, 橋口浩之, Hubert Luce, 山本衛, 山中大学, 深尾昌一郎, 層状性降水雲内における氷晶・雪片の成長と鉛直流の観測的研究, 妻鹿友昭, 山本真之, 阿保真, 柴田泰邦, 橋口浩之, Hubert Luce, 山本衛, 山中大学, 深尾昌一郎, 気象学会関西支部年会, 2010 年 6 月 26 日, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 大阪府大阪市

山本 衛	脇阪洋平, 橋口浩之, 山本衛, 山本真之, 森谷祐介, 妻鹿友昭, 今井克之, 足立アホロ, 柴垣佳明, GNU Radio を用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, 気象学会関西支部年会, 2010年6月26日, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 大阪府大阪市
	田畑悦和, 橋口浩之, 山本真之, 山本衛, 山中大学, 森修一, Fadli Syamsudin, Timbul Manik, インドネシアにおける下部対流圏水平風 ～ウィンドプロファイラネットワーク観測と全球再解析データの比較～, 気象学会関西支部年会, 2010年6月26日, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 大阪府大阪市
	池野伸幸, 山本真之, 妻鹿友昭, 橋口浩之, 山本衛, 中里真久, 田尻拓也, 深尾昌一郎, 局地観測用 9.8-GHz 帯気象レーダーによるドップラー速度観測, 気象学会関西支部年会, 2010年6月26日, 大阪府立男女共同参画・青少年センター, 大阪府大阪市
	田畑悦和, 橋口浩之, 山本真之, 山本衛, 山中大学, 森修一, インドネシアにおける下部対流圏水平風～ウィンドプロファイラネットワーク観測と全球再解析データの比較～, 第4回赤道大気レーダーシンポジウム, 第4回赤道大気レーダーシンポジウム, 2010年9月1-2日, 宇治市
	妻鹿友昭, 山本真之, 阿保真, 柴田泰邦, 橋口浩之, 山中大学, 山本衛, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダーと偏光ライダーによる融解層およびその周辺の詳細構造観測, 第4回赤道大気レーダーシンポジウム, 2010年9月1-2日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治市
	山本衛, 橋口浩之, 山本真之, 大塚雄一, 長妻努, 津川卓也, Sri Kaloka, インドネシアの宇宙天気研究推進と体制構築:プロジェクト紹介と EAR 観測体制, 第4回赤道大気レーダーシンポジウム, 2010年9月1-2日, 京都大学宇治おうばくプラザ, 宇治市
	山本真之, 池野伸幸, 妻鹿友昭, 下舞豊志, 橋口浩之, 山本衛, 田尻拓也, 中里真久, 局地観測用 X 帯気象レーダー及び Ka 帯 FMCW 気象レーダーによるドップラー速度観測, 熱帯気象研究会 2010, 2010年9月21-22日, 香川大学, 高松市
	山本真之, 妻鹿友昭, 阿保真, 柴田泰邦, LUCE Hubert, 橋口浩之, 山本衛, 山中大学, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダー (EAR) による赤道域対流圏の乱流・鉛直観測, 熱帯気象研究会 2010, 2010年9月21-22日, 香川大学, 高松市
	脇阪洋平, 橋口浩之, 山本衛, 山本真之, 妻鹿友昭, 今井克之, GNU Radio を用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, GNU Radio を用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, 日本気象学会 2010年度秋期大会, 2010年10月27-29日, 京都テルサ, 京都市

山本 衛	山本真之, 橋口浩之, 妻鹿友昭, 山本衛, LUCE Hubert, 阿保真, 柴田泰邦, 下舞豊志, 山中大学, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダー・ライダーによる雲・降水・大気乱流の集中観測 CLEAR, 日本気象学会 2010 年度秋期大会, 2010 年 10 月 27-29 日, 京都テルサ, 京都市
	田畑悦和, 橋口浩之, 山本真之, 山本衛, 山中大学, 森修一, Fadli Syamsudin, Timbul Manik, インドネシアにおける下部対流圏水平風 ～ウィンドプロファイラネットワーク観測と全球再解析データの比較～, 日本気象学会 2010 年度秋期大会, 2010 年 10 月 27-29 日, 京都テルサ, 京都市
	妻鹿友昭, 山本真之, 橋口浩之, LUCE Hubert, 山本衛, 山中大学, 深尾昌一郎, 熱帯対流圏界層に発生するケルビンヘルムホルツ(KH)不安定の観測的研究, 日本気象学会 2010 年度秋期大会, 2010 年 10 月 27-29 日, 京都テルサ, 京都市
	山本真之, 池野伸幸, 妻鹿友昭, 橋口浩之, 山本衛, 下舞豊志, 中里真久・田尻拓也・深尾昌一郎, 局地観測用 X 帯気象レーダーによるドップラー速度観測, 日本気象学会 2010 年度秋期大会, 2010 年 10 月 27-29 日, 京都テルサ, 京都市
	池野伸幸, 山本真之, 妻鹿友昭, 橋口浩之, 山本衛, 下舞豊志, 中里真久, 田尻拓也, 深尾昌一郎, 35GHz 帯 FMCW 気象レーダーによるドップラー速度観測, 日本気象学会 2010 年度秋期大会, 2010 年 10 月 27-29 日, 京都テルサ, 京都市
	妻鹿友昭, 山本真之, 阿保真, 柴田泰邦, 橋口浩之, 山本衛, 山中大学, 深尾昌一郎, 50MHz 帯・1.3GHz 帯レーダーを用いた層状性降水における粒径の導出, 日本気象学会 2010 年度秋期大会, 2010 年 10 月 27-29 日, 京都テルサ, 京都市
	山本衛, 衛星ビーコン・デジタル受信機の自律観測システム開発, 地球電磁気・地球惑星圏学会 第 128 回講演会, 2010 年 10 月 31 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇
	山本真之, 妻鹿友昭, 池野伸幸, 下舞豊志, 橋口浩之, 山本衛, 中里真久, 田尻拓也, 深尾昌一郎, IF デジタル受信機を用いた気象ドップラーレーダーにおけるマグネトロン送信位相の較正, 地球電磁気・地球惑星圏学会第 128 回講演会, 2010 年 10 月 31-11 月 3 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇
深尾昌一郎, Luce Hubert, 妻鹿友昭, 山本真之, MU レーダーで観測された下層大気の大振幅ケルビン・ヘルムホルツ波の統計的研究, 地球電磁気・地球惑星圏学会第 128 回講演会, 2010 年 10 月 31-11 月 3 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇	

山本 衛	山本真之, 阿保真, 妻鹿友昭, 橋口浩之, 柴田泰邦, 山本衛, 山中大学, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダー・ライダーによる層状性降水の詳細構造観測, 地球電磁気・地球惑星圏学会第 128 回講演会, 2010 年 10 月 31-11 月 3 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇
	小川 忠彦, 大塚 雄一, 川村 誠治, 村山 泰啓, 山本 衛, 稚内 VHF レーダーと信楽 MU レーダーで観測された夏季中間圏エコーの特性, 地球電磁気・地球惑星圏学会第 128 回講演会, 2010 年 10 月 31-11 月 3 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇
	Balan Nanan, 山本衛, Electric field and neutral wind control of positive ionospheric storms at low and mid latitudes, 地球電磁気・地球惑星圏学会第 128 回講演会, 2010 年 10 月 31-11 月 3 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇
	斎藤享, 丸山隆, 山本衛, デジタル受信機と方向探査装置を用いた短波赤道横断伝播によるプラズマバブルの観測, 2010 年 10 月 31-11 月 3 日, 沖縄県市町村自治会館, 那覇
	橋口浩之, 脇阪洋平, 山本衛, 山本真之, 妻鹿友昭, 今井克之, GNU Radio を用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, 電子情報通信学会宇宙・航行エレクトロニクス研究会, 2010 年 12 月 17 日, 日本工業大学, 南埼玉郡宮代町
	山本衛, 羽生宏人, 阿部琢美, 山本真行, 渡部重十, M. F. Larsen, 横山竜弘, R. F. Pfaff, 昼間下部熱圏風の日米共同観測ロケット実験, 第 11 回宇宙科学シンポジウム, 2011 年 1 月 6-7 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	S. Tulasi Ram, M. Yamamoto, C. H. Liu, H. Liu, The vertical distribution of air temperatures low enough to the formation of Type-1 and Type-2 PSC in Southern and Northern Hemispheres observed by Formosat-1/COSMIC, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	齊藤昭則, 山崎敦, 阿部琢美, 鈴木睦, 坂野井健, 藤原均, 吉川一朗, 大塚雄一, 田口真, 山本衛, 中村卓司, 江尻省, 菊池雅行, 河野英昭, 石井守, 久保田実, 星野尾一明, 坂野井和代, ISS-IMAP ミッションによって明らかになる超高層大気の様相, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
占部享史, 妻鹿友昭, 山本真之, 阿保真, 柴田泰邦, 橋口浩之, 山本衛, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダーによる熱帯対流圏のレンジイメージング観測, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原	

山本 衛	田畑悦和, 橋口浩之, 山本真之, 山本衛, 山中大学, 森修一, Fadli Syamsudin, Timbul Manik, インドネシアにおける下部対流圏水平風 ～ウィンドプロファイラネットワーク観測と全球再解析データの比較～, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	前川泰之, 柴垣佳明, 佐藤亨, 山本衛, 橋口浩之, 深尾昌一郎, 赤道域および温帯対流圏での Ku 帯衛星回線降雨減衰の年変動特性, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	池野伸幸, 山本真之, 妻鹿友昭, 橋口浩之, 山本衛, 下舞豊志, 中里真久, 田尻拓也, 深尾昌一郎, REQUIPP における X 帯・Ka 帯気象レーダーのドップラー速度観測, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	妻鹿友昭, 山本真之, 阿保真, 柴田泰邦, 橋口浩之, 山中大学, 山本衛, 深尾昌一郎, 赤道大気レーダーと偏光ライダーによる鉛直流・降水粒子特性の同時観測, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	脇阪洋平, 橋口浩之, 山本衛, 山本真之, 妻鹿友昭, 今井克之, ソフトウェア無線技術を用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
	Huixin Liu, T. Tsugawa, M. Yamamoto, Tulrasi Ram, Equatorial electrodynamics during sudden stratospheric warming: Lunar tidal effects?, 第 25 回大気圏シンポジウム, 2011 年 2 月 21-22 日, JAXA 宇宙科学研究所, 相模原
玉田芳史	玉田芳史 「東南アジア諸国の民主化(1)(2)」伊丹市立中央公民館主催講座、2010 年 11 月 16、30 日
	玉田芳史「最近のタイ情勢：黄シャツ vs.赤シャツ」拓大東南アジア研究会平成 22 年度第 5 回、2010 年 11 月 12 日（金）、拓殖大学文京キャンパス国際教育会館 F 館 217 教室
	Yoshifumi Tamada “Prachathipatai thai baep nai di”, Special lecture, (A) Faculty of Humanities, Chiang Mai University, 24 Aug 2010. (B)Faculty of Political Science, Chulalongkorn University, 1 Sep 2010.

玉田芳史	玉田芳史 「黄シャツ vs.赤シャツ：選挙政治の否定と不安定」国際政治学会 2010 年度研究大会、2010 年 10 月 31 日、札幌コンベンションセンター、分科会 E-1、中東 II・東南アジア II、。
	玉田芳史 「沸騰する権力闘争」ジェトロ・アジア経済研究所、2010 年アジ研夏期公開講座、ジェトロ本部 5 階 ABC 会議室、2010 年 8 月 3 日。
	玉田芳史 「2010 年 4 月のタイ政治」世界政経調査会、2010 年 4 月 20 日。
山越 言	山越言「西アフリカの精霊の森の不思議 -森と動物を守る知恵- 」第 99 回京都新聞「ソフィアがやってきた」、樂只小学校、京都、2010 年 6 月 11 日
	山越言「自然とともに暮らす知恵：アフリカの野生動物保全を考える」アフリカ地域研究資料センター東京公開講座「アフリカ研究最前線：変貌するアフリカを問い直す」、京都大学品川オフィス、東京、2010 年 7 月 4 日
	山越言「アフリカの自然を護る知恵」2010 アフリカ地域研究資料センター公開講座第 4 回「護る」、京都大学、京都、2010 年 8 月 28 日
	Gen Yamakoshi & Kathelijne Koops “The earliest record of leaf-clipping behavior in wild chimpanzees?” (Poster) XXIII Congress of the International Primatological Society. Kyoto, Japan, August 12-18, 2010. 発表 14 日
	Gen Yamakoshi "Oil-palm-based landscape and chimpanzees in West Africa: Can chimpanzee be a weed species?" International Workshop "Perspectives on human-nature relationships in Africa: Interrelations between epistemology and practice" Kyoto, Japan, August 19, 2010.
	Gen Yamakoshi “Oil palms and bush fallow in Tropical West Africa: Implications for semi-domestication and wildlife conservation” The International Workshop on “Incentive of Local community for REDD and semi-domestication of non-timber forest products (Global Environment Research Fund: E-1002, Ministry of Environment: FY2010-2012)” Kyoto University, Japan, March 5-6, 2011 (presentation on March 5)

柴山 守	Mamoru Shibayama: Đô thị hóa ở Hà Nội Thế kỷ 19-21 --Những Biến chuyển Lịch sử-- ,Proceedings of Thang Long – Hanoi 1000th Anniversary Celebration Symposium, pp.384-389, Hanoi, 7th October, 2010, Vietnam
	Go Yonezawa and Mamoru Shibayama : 3D Urban Model of Hanoi, Vietnam, Proceedings of The International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth & Allied Sciences (GIS-IDEAS) 2010, pp.205-213, 2010, Vietnam
水野一晴	水野一晴(2011): ギニア南部、ニンバ山周辺におけるキュイラス（鉄盤層）の形成と植生の分布，日本アフリカ学会第48回学術大会，弘前（弘前大学）（2011年5月21日）
	水野一晴（2010）: ケニア山とキリマンジャロにおける近年の氷河縮小と植生遷移，第20回日本熱帯生態学会年次大会，広島（広島大学）（2010年6月19日）
	水野一晴(2011) : ケニア山氷河後退域における温暖化等の近年の環境変動と植生遷移，第58回日本生態学会大会，札幌（札幌コンベンションセンター）（2011年3月8日）
	水野一晴（2011）: 「自然に生きる」，アフリカ地域研究資料センター公開講座，京都（京都大），1月22日
	Mizuno, K. (2010): Nature and Human Activity of Namib. Gobabeb (Gobabeb Training and Research Center), Namibia, 2010.11.15.
	水野一晴（2010）: 「熱帯高山の自然と植物ーケニア山、キリマンジャロの氷河と植物の生態」，NPO法人 山の自然学クラブ，東京（環境パートナーシップオフィス（EPO）会議室），10月30日.
	水野一晴（2010）: 「アフリカの自然と人々の暮らし」，京都新聞「ソフィアがやってきた！」，京都（京都市立月輪小学校），10月26日.

山本博之	山本博之 2010 「「数えられないもの」「目に見えないもの」をどう評価するか：地域研究の立場から」（シンポジウム「被災社会との共生を実現する復興・開発を目指して」）JICA 地球ひろば、2010年12月10日。
	YAMAMOTO Hiroyuki & NISHI Yoshimi. 2010. “Social Resilience and Memory: Adaptation Mechanisms in the Post-tsunami Reconstruction in Aceh, Indonesia”. (International Workshop on Multi-disciplinary Hazard Reduction from Earthquakes and Volcanoes in Indonesia.) JICA Hyogo, 24 November, 2010.
	NISHI Yoshimi, YAMAMOTO Hiroyuki & Makmuri Sukarno. 2010. “Special Report on the Eruption of Melapi Volcano”. (International Workshop on Multi-disciplinary Hazard Reduction from Earthquakes and Volcanoes in Indonesia.) JICA Hyogo, 22 November, 2010.
	西芳実・山本博之 2010 「流動性の高い社会における復興：2009年西スマトラ地震における日本の人道支援の事例から考える」（日本災害復興学会2010神戸大会）、2010年10月17日。
太田 至	太田至、京都大学アフリカ地域研究資料センター東京公開講座「変貌するアフリカを問いなおす——家畜とともに暮らす知恵——」、京都大学東京オフィス、2010年7月4日
藤岡悠一郎	藤岡悠一郎、ナミビア農牧社会における経済格差の拡大と自然資源利用の変化、口頭、2010年10月2日（於名古屋大学）。
	Yuichiro Fujioka, Changes in Rural Society in Namibia and in Use of Indigenous Fruit Tree: With Special Reference to the Use of Marula Tree ( <i>Sclerocarya birrea</i> ), International Workshop “Perspectives on human-nature relationships in Africa: Interrelations between epistemology and practice”, 2010 Sep 19th, Kyoto University.
	Yuichiro Fujioka, Economic Disparities and Social Ties: Changing and Unchanging Patterns of Natural Resource use through Reciprocal Gift-giving in a Rural Society in North-central Namibia, International Symposium "The Dynamics of Socioeconomic Changes in Local Societies in Southern Africa: The Challenges of Area Studies", 2010 Nov 20th, Windhoek, Namibia.
神崎 護	安藤菜穂、神崎 護ほか 北タイ熱帯山地林における林冠内植物の多様性とハビタット分割パターン、日本熱帯生態学会 2010年6月19日 広島大学学士会館

神崎 護	Akiyama, Hiroyuki・Ando, Naho・Kanzaki, Mamoru Habitat differentiation in bryophytes; two examples from Doi Inthanon (Thailand) and Isl. Yakushima (Japan), 8th International Symposium of Flora Malesiana 2010年8月27日 Singapore Botanic Gardens, シンガポール
	Kanzaki, Mamoru Diversity and habitat differentiation of canopy plants in a tropical montane forest of Doi Inthanon National Park, Thailand, The 4th East Asian Federation of Ecological Societies International Congress 2010年9月16日 Sangju Campus, Kyungbuk National University, 韓国
	神崎 護 北タイ熱帯山地林における林冠内植物の多様性とハビタット分割パターン、国際ワークショップ 雲霧林と林冠部を探る：林冠部研究の包括化を目指して 2011年2月5日 京都大学稲盛記念館
星川圭介	星川圭介「変わり続ける東北タイ農業」、在タイ日本国大使館講演会、在タイ日本国大使館、バンコク、2011年2月24日
	星川圭介「忘れられた技術体系：東北タイ・カンボジアの伝統的灌漑「タムノップ」」、メナムフォーラム講演会、2011年1月24日、バーンラック幼稚園、バンコク、タイ
	Masatoshi Ishikawa, Masahiro Umezaki, Keisuke Hoshikawa"Integration/Visualization of Data for Location, Physical Activity, and Landscape: An Application in a Field Study in Bangladesh" The 2010 Pacific Neighborhood Consortium (PNC) Annual Conference, 1-3 December 2010, City University of Hong Kong, China
	星川圭介「イサーンを対象とした政府開発事業の始まり —公文書に見る20世紀初頭のイサーン・バンコク関係」、『開発の先にあるもの』研究会、2010年10月28日、PERSONNEL CONSULTANT MANPOWER (THAILAND) CO., LTD.、バンコク、タイ
	Keisuke Hoshikawa、「過去100年間の東北タイにおける農業および生業の変遷（原文タイ語）」、Institute of Asian Studies 学生向け講演、Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University、Bangkok, Thailand
	星川 圭介「東北タイ農業の過去100年」、タイスツッカー研究会、2010年4月3日、東南アジア研究所バンコク連絡事務所、バンコク、タイ

島田周平	島田周平 「地域紛争と環境問題：ナイジェリア産油地域で起きていること」 京都大学 G-COE 「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」 イニシアティブ4 研究会 2010.4.19 京都大学
	島田周平 「多文化共生と地域紛争：アフリカで起きていること」 東北学院大学 社会福祉研究所 オープンセミナー 2010.7.3 東北学院大学
	島田周平 「ジェール・デルタの地域紛争：最近の研究成果と解決への模索」 ジェトロ・セミナー 2010.8.25 JETRO Lagos Office
	島田周平 「ナイジェリア産油地域における地域紛争の特徴：最近の研究成果と解決への模索」 東北地理学会秋季大会 2010.9.18 北海道学園大学
	島田周平 「脆弱性をどう捉えるか:レジリエンスの理解に関連して」 国際開発学会 21回全国大会 2010.12.4 早稲田大学
	島田周平 アフリカ研究最前線 「可能性に生きる」 アフリカ研究資料センター 2011.2.19 京都大学
	島田周平 ‘African studies in Japan and in Kyoto University : A rough sketch of Japanese African studies’ ASC Special Seminar, 2011.2.14, African Studies Centre, Leiden University
岡本正明	岡本正明、インドネシアにおける民主化とイメージ選挙ビジネスの台頭、アジア政経学会東日本大会、2010年5月22日、北海道大学
	Okamoto Masaaki, Weakening Islamic Parties in the Islamizing Indonesia: A Paradox or Not?, The First Public Forum on Indonesia: Current Political & Economic Trends, 2010.6.23, CSEAS, Kyoto University

岡本正明	Okamoto Masaaki, Democratized Jakarta in the Future?, International Workshop: Scenario for Sustainable Megacities, 2010.8.11, Institute of Industrial Science, the University of Tokyo
	Okamoto Masaaki, The Political Economy of Oil Palm Plantation: Expansion Policy in Indonesia and Its Justification, The 34th Southeast Asia Seminar on New Concept Building for Sustainable Humanosphere and Society from the Equatorial Zone of Southeast Asia, 2010. 9. 22, Indonesian Institute of Sciences, Indonesia
	岡本正明、民主化後インドネシアにおける安定化のポリティクス、東南アジア学会関西例会、2010年10月21日、京都大学
	Okamoto Masaaki, “Invisible” and Dysfunctional City Assemblies (Dewan Kota) in the Metropolitan Jakarta: Intriguing Lack of Institutional Democracy in Indonesia, JSPS Asian Core-Program Seminar: Local Politics and Social Cleavages in Transforming Asia, 2010.12.7, CSEAS, Kyoto University
	Okamoto Masaaki, Politics of Stabilization in the post-Authoritarian Indonesia, International Symposium, "Towards New Peace Studies: Reconciliatory Governance & Sustainable Peace Building in Conflict & Post-Conflict Areas", 2011.1.14, Ritsumeikan University, Japan
	Okamoto Masaaki, Current Development of Indonesian Studies in Japan, Public Lecture and Roundtable Discussion: The Impact of New Media and Communication Technology on Islam in Indonesia, 2011.2.23, Prof. Aqib Suminto Room, State Islamic University "Syarif Hidayatullah", Indonesia
	Okamoto Masaaki, The Actors behind the Image Politics (Politik Pencitraaan) in the Era of Democracy, Kyoto University Alumni International Symposium on Politics, Livelihood and Local Praxis in the Era of Decentralization in Indonesia, 2011. 1. 9, Hasanuddin University, Indonesia
田辺明生	Akio Tanabe "Caste and Vernacular Democracy: Post-postcolonial Transformation in Rural India" Faculty of Social Sciences of the Universidad de Chile, Santiago, Chile. 2010年11月23日
	Akio Tanabe “Vernacular Democracy and Circumfluent Economy in Contemporary India”. American Anthropological Association 109th Annual Meeting, 17–21 November 2010, New Orleans, Louisiana, U.S. 2010年11月17日

田辺明生	田辺明生 「現代インド社会の変容—ポストコロニアルからグローバルへ」 現代インド・南アジアセミナー 2010年9月18日～20日 京都大学稲盛財団記念館
荒木 茂	荒木茂, “カメルーン東部・オキシソル痴態における赤色土壌の分布・産状と肥沃度増進の可能性”日本土壌肥料学会北海道大会, 2010.9.7, 於：札幌。
柳澤雅之	柳澤雅之・Wil de Jong, 「熱帯雨林の資源管理—ヨーロッパの介入から見た東南アジアとアマゾン」平成21年度京都大学地域研究統合情報センター共同研究ワークショッププログラム『移植される世界、交雑する地域—「21世紀の『国家』像プロジェクト総括』』2010年4月24日 京都大学稲盛財団記念館
	柳澤雅之、「複合共同研究「自然生態資源の利用における地域コミュニティ・制度・国際社会」」平成21年度京都大学地域研究統合情報センター全国共同利用研究報告会 2010年4月25日 京都大学稲盛財団記念館
	Yanagisawa M. 2010. “Changes in Landuse in the Watershed of the Red River, Vietnam”, International Workshop on Water Resources and Water Disaster Issues of Rivers in Vietnam. Research Institute for Sustainable Humansphere, Kyoto University. January 13, 2011
石川 登	Ishikawa, N. 2011 Statecraft needed Zomia, so did Zomia: An Interactive Perspective, the 21st Century Asian CORE Program International Seminar Radically Envisioning a Different Southeast Asia: from a Non-State Perspective, January 19, 2011, Kyoto: Inamori Memorial Hall, Kyoto Univeristy.
	Ishikawa, Noboru Searching Radically Different Southeast Asia: From Non-State Centered Perspectives, paper presented at a Presidential Session, 109th American Anthropological Association Annual Meeting, New Orleans, LA, USA, 17-21November, 2010.
	Ishikawa, Noboru Searching Radically Different Southeast Asia: From Non-State Centered Perspectives, paper presented at a Presidential Session, 109th American Anthropological Association Annual Meeting, New Orleans, LA, USA, 17-21 November, 2010.
竹田晋也	竹田 晋也・佐々木 綾子・スパクン ソンマイ、「タイ東部チャンタブリ県におけるマングローブ土地利用の履歴と地元住民による保全活動」、第121回日本森林学会大会、平成22年4月4日、筑波大学

竹田晋也	佐々木 綾子・竹田 晋也・スパクン ソンマイ、「タイ・チャンタブリ県における伝統的エビ養殖池が維持するマングローブ林の地図化」、第 121 回日本森林学会大会、平成 22 年 4 月 3 日、筑波大学
	倉島 孝行・竹田 晋也・田淵 隆一、「タイ湿地林利用の変遷メカニズムの解明に向けて」、第 121 回日本森林学会大会、平成 22 年 4 月 3 日、筑波大学
	鈴木 玲治・小林 繁男・竹田 晋也・名村 隆行・渡辺 盛晃・ポムチャン トゥイ、「ラオス北部カム村落焼畑地における休閑初期の植生回復過程」、第 121 回日本森林学会大会、平成 22 年 4 月 4 日、筑波大学
	野瀬 光弘・竹田 晋也、「インド北部ラダック高地における農用林利用の形態と資源量把握の試み」、第 121 回日本森林学会大会、平成 22 年 4 月 3 日、筑波大学
	竹田晋也・佐々木 綾子・スパクン ソンマイ、「タイ東部チャンタブリ県ウェル湿地の土地利用履歴と地元一体型マングローブ保全活動」、第 21 回日本熱帯生態学会年次大会、平成 22 年 6 月 19 日、広島大学
	Hla Maung Thein, Kanzaki Mamoru, Takeda Shinya, Ando Kazuo, Suzuki Reiji. Community structure and species diversity of natural teak forest under selective logging management in different parts of Bago mountain range, Myanmar. 第 21 回日本熱帯生態学会年次大会、平成 22 年 6 月 20 日、広島大学
	Rosy Ne Win, Reiji Suzuki, Shinya Takeda. Forest harvesting damages by selective logging in the Kabaung reserved forest, Bago mountains, Myanmar. 第 21 回日本熱帯生態学会年次大会、平成 22 年 6 月 20 日、広島大学
	鈴木 玲治・小林 繁男・竹田 晋也・名村 隆行・渡辺 盛晃・ポムチャン トゥイ、「焼畑休閑地の植生回復と伐採前の植生の関係 —ラオス北部カム村落の事例—」、第 21 回日本熱帯生態学会年次大会、平成 22 年 6 月 20 日、広島大学
	Takeda Shinya, Ayako Sasaki I and Sommai Suppakun. Land use history and local conservation of a mangrove forest in Chantaburi Province, Thailand. International Workshop on Forest Dynamics and Carbon Monitoring in Forest Ecosystems in East Asia ~ Findings from Forest Dynamics Network~.平成 22 年 10 月 8 日、メルパルク東京

竹田晋也	竹田晋也・鈴木玲治・名村隆行・渡辺盛晃・ポムチャントウイ、「ラオス北部カム村落における焼畑への商品作導入と土地利用安定化」、日本熱帯農業学会第108回講演会、平成22年10月10日、沖縄コンベンションセンター
	Rosy Ne Win, R. Suzuki and S. Takeda. Stand damage and tree regeneration under the Myanmar Selection System in the Kabaung Reserved Forest, Bago Mountains, Myanmar. 日本熱帯農業学会第108回講演会、平成22年10月10日、沖縄コンベンションセンター
	Takeda Shinya. Local Management of Forested Wetlands in Tropical Asia. International Workshop of Contemporary Changes in Environment and Development. 平成22年12月14日、バングラデシュ農科大学
浜元聡子	浜元聡子、「被災コミュニティ復興の〈場〉を考えるー南スラウェシとジャワの事例から」、東南アジア学会関西例会、2011年5月14日、京都大学
藤田素子	Motoko Fujita, Dewi M. Prawiradilaga and Tsuyoshi Yoshimura. Bird diversity assessment in a tropical Acacia plantation. The 161st Symposium on Sustainable Humanosphere, Kyoto, 4 <sup>th</sup> February 2011.
	Motoko Fujita. Landscape Management for Biodiversity Conservation in Tropics, APU ENVOL Guest Lecture Series, 17 <sup>th</sup> January 2011, Beppu.
	Motoko Fujita. Why is Biodiversity Important? APU ENVOL Guest Lecture Series, 17 <sup>th</sup> January 2011, Beppu.
	Motoko Fujita and Hiromitsu Samejima. Bird and mammal diversity assessment, monitoring, and management in a tropical peatland ecosystem. Scientific Exploration and Sustainable Management of Tropical Peatland Ecosystems, Riau, Indonesia. 20 <sup>th</sup> October 2010.
石坂晋哉	石坂晋哉、「チブプー運動再考ーインド森林保護運動における「つながりの政治」」、第41回環境社会学会大会（葛巻セミナー）、2010年6月6日、岩手県葛巻町

石坂晋哉	石坂晋哉、「インドの森林保護運動と森林政策—1970～80年代を中心に」、「現代インド地域研究」京都大学拠点研究グループ1第3回定例研究会「自然生態系と生命の再生産」、2010年12月11日、京都大学
	石坂晋哉、「環境と政治・社会」、2010年度現代インド・南アジア次世代研究者合宿、2011年3月20日、KKRびわこ
	石坂晋哉、“Aim of Session: Social Movements in Postcolonial India”、「現代インド地域研究」京都大学拠点(KINDAS)研究グループ1第4回定例研究“Social Movements in Postcolonial India”、2011年3月27日、京都大学
中溝和弥	中溝和弥、「格差の政治史—全国政党から地方政党へ—」、KINDAS研究グループ3、第一回定例研究会、2010年5月29日、東京
	中溝和弥、「格差と政治変動—インドの事例—」、2010年度日本南アジア学会共通論題「南アジア—グローバリゼーションと格差—」、2010年10月3日、東京
	Nakamizo, Kazuya “The Politics of Development and Identity under Globalization—2010 Bihar State Assembly Election, India—”, INDAS International Conference: “Understanding Global India: The South Asian Path of Development and its Possibilities”, NIHU program “Contemporary India Area Studies” and Global COE Program “In Search of Sustainable Humansphere in Asia and Africa”, 29th-30th January, 2011, Kyoto
	中溝和弥、「革命としてのデモクラシー：インド・ビハール州における村落比較研究」、科研(S)「インド農村の長期変動」研究会『インド農村社会変容の地域的シナリオ：フィールド調査から考える』、2011年3月6日、東京
	中溝和弥、「市民社会論」、2010年度「現代インド地域研究」現代インド・南アジア次世代研究者合宿 パネル1『市民社会』、2011年3月19日、滋賀
	Nakamizo, Kazuya “Violent Revolution and Parliamentary Democracy: The Development of Naxalite Movements in Post-colonial India”, KINDAS Research Group 1, “Social Movements in Postcolonial India”, 27th March, 2011, Kyoto

中溝和弥	中溝和弥、「インドにおけるカーストと民主主義」、横浜中ロータリークラブ 例会卓話、2010年4月16日、横浜
川井秀一	Shuichi Kawai: Biomass assessment and management in a tropical peatland ecosystem
	International Seminar "Scientific Exploration and Sustainable Management of Bioresources in Tropical Peatland Ecosystems" G-COE & Riau University, 20 October 2010, Riau
	<u>Azuma K</u> , Kouda K, Nakamura M, Fujita S, Tsujino Y, Uebori M, Kusaki J, Inoue S, Kawai S: <i>Effects of Emissions from Cedar Timber on Psychological and Physiological Factors in Indoor Environment</i> . 2010 Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology, Seoul, Korea. 2010.
	Shuichi Kawai: Interdisciplinary Research of the Lab. Sustainable Materials, Res. Inst. for Sustainable Humanosphere (RISH), Kyoto University, 中国東北林業大学, 26 Sep., 2011
	Shuichi Kawai: Research Activity in RISH, Kyoto University Forum, 4 January, 2010, Bandung
	川井秀一：熱帯森林生命圏と人間圏・地球圏の繋がり, G-COE パラダイム研究会、平成22年1月18日
	川井秀一：木材・木質材料の機能開発、木材学会年次大会（宮崎大会） 木質材料部門企画招待講演：企 I18-1500、平成22年3月18日
	Shuichi Kawai: Sustainable Production of the Tropical Forest Biomass and its Effective Utilization, Humanosphere Science School, 12 June 2011, Jogjakarta, Indonesia.

川井秀一	Shuichi Kawai: Development of Ligno-cellulosic Materials for Establishing the Resource-Sustainable Society, JSPS Exchange Program for East Asian Young Researchers (Sigaraki Seminar),1 July 2010.
	Shuichi Kawai: Sustainable Management and Development in Peat Swamp Forest in Indonesia
	Shuichi Kawai: Innovative Technology of Resource Utilization, Japan-Indonesia Workshop 3 August, 2010, Jakarta, Indonesia
	川井秀一：マレーシアアカシアハイブリッド造林の現況、G-COE Initiative 3 研究会、平成 22 年 8 月 11 日（京都）
	Shuichi Kawai, Yoshikatsu Matsumoto, Yutaka Yoshida, Yutaka Sato: Forest Biomass Production of Plantation Forest in Sabah, Malaysia, XXIII IUFRO World Congress, p.29, 23-26 August 2010, Seoul, Korea
	Shuichi Kawai: Biomass assessment and management in a tropical peatland ecosystem (aboveground) biomass balance over a landscape as one component in landscape management, International Seminar "Scientific Exploration and Sustainable Management of Bioresources in Tropical Peatland Ecosystems" G-COE & Riau University, 20 October 2010, Pekanbaru, Indonesia
	川井秀一：木材の寿命を考える、生存圏研究所公開講演会、平成 22 年 10 月 24 日、宇治
	川井秀一：熱帯産業造林におけるバイオマス生産の推定とその持続性評価の試み、生存圏フォーラム、平成 22 年 12 月 11 日、宇治
北村由美	北村由美、パネル『国民であること・華人であること—20 世紀東南アジアにおける秩序構築とプラナカン性』、「ポスト・スハルト期インドネシアにおける華人の動向から」、東南アジア学会、2010 年 6 月 6 日、愛知大学豊橋校舎

渡辺隆司	渡辺隆司：Disintegration of plant cell walls and characterization of surface carbohydrates for 2nd generation biofuels & biorefineries, Unit Research and Development Center of Biomaterials, LIPI 特別セミナー (平成 23 年 3 月 9 日、チビノン)
	渡辺隆司：リグニンと糖の同時利用を目指した植物バイオマス解体技術の開発、第 18 回けいはんなシーズフォーラム (平成 23 年 1 月 27 日、大阪)
	渡辺隆司：Disintegration of lignocellulosic biomass with white rot fungi and microwave-assisted chemical reactions for biorefinery, Pacificchem 2010, Lignin Biorefinery Workshop (平成 22 年 12 月 15-18 日、ホノルル)
	渡辺隆司：バイオリファイナリーのための植物細胞壁ディスアッセンブリー戦略、バイオマスエキスポ 2010 専門セミナー(平成 22 年 11 月 18 日、東京)
	渡辺隆司：Lignin degradation by selective white rot fungi and chemo-enzymatic reactions for lignocellulosic biorefinery, 2010 5th WCU Symposium, Chemo-Enzymatic Catalysis of Lignocellulose for Biorefinery(平成 22 年 9 月 9 日、ソウル)
	渡辺隆司：酵素糖化前処理による植物細胞壁多糖の露出とその評価、化学工学会エネルギー部会バイオマス分科会・日本エネルギー学会バイオマス部会共同講習会 (平成 22 年 9 月 5 日、京都)
	渡辺隆司: Microwave- and free radical-mediated lignin-degradation for aromatic and sugar-based biorefineries, BIT' 3 <sup>rd</sup> World Congress of Industrial Biotechnology 2010 (平成 22 年 7 月 25-27 日、大連)
中村香子	中村香子、「マサイの戦士」の観光経験、平成 22 年 9 月、観光と社会・文化の研究会 (奈良県立大学)
	中村香子、「スルメレイ」という選択—ケニアの牧畜民サンプルの女性による新たな年齢範疇の創出—、平成 23 年 3 月、第 16 回生態人類学会研究大会 (京都大学)

佐藤孝宏	佐藤孝宏、「第2パラダイム研究会：最終成果に向けて」、グローバルCOE第27回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年4月19日
	佐藤孝宏、「第2パラダイム研究会の趣旨と生存基盤指数」、グローバルCOE第2パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年4月26日
	佐藤孝宏、「地球圏・生命圏・人間圏における既存指標のレビュー：趣旨説明」、グローバルCOE第2パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年5月31日
	佐藤孝宏、「ケア関連指標のレビュー：趣旨説明」、グローバルCOE第2パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年6月28日
	佐藤孝宏、「3つの圏のその論理：これまでの研究会総括と今後の指数構築に向けて」、グローバルCOE第2パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年7月11日
	佐藤孝宏、「3つの圏の論理と生存基盤指数への展開」、グローバルCOE第32回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2010年11月1日
	Sato, Takahiro "Introduction of the joint sessions -Towards the development of Humanosphere Index", International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences (GIS-IDEAS) , Hanoi, Vietnam, December 10th, 2010.
	Sato, Takahiro "Effect of economic liberalization on agricultural land use in a tank-intensive watershed of Tamil Nadu, India.", The seminar of Green Research Unit, Montpellier, France, February 10th, 2011.
	佐藤孝宏、「第5巻の趣旨と構成」、グローバルCOE第36回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2011年3月28日

佐藤孝宏	佐藤孝宏、「地球圏・生命圏の指標化とその限界（第2編および第3編の内容について）」、グローバルCOE第36回パラダイム研究会、京都大学東南アジア研究所、2011年3月28日
平松亜衣子	平松亜衣子、2010。「現代クウェート議会における投資のイスラーム適格性をめぐる議論」第26回日本中東学会年次大会（2010年5月9日於中央大学）
	Aiko Hiramatsu, 2010. “Where should Kuwait’s Oil Wealth Be Invested?: Islamists’ Demands in Kuwaiti National Assembly”, G-COE/ KIAS/ TUFS Joint International Workshop on “Technology, Economics and Political Transformation in the Middle East and Asia”, Kyoto, October 9-10
	Aiko Hiramatsu, 2010. “Overseas Investments and “Shari’a Compliance” in the Arab Gulf Countries: A Case of Study on Kuwait Investment Authority”, The 8th AFMA Conference on “The Middle East Security and East Asia’s Role”, Beijing, September 25-26
小松幸平	Satoru Murakami, Kiho Jung, Akihisa Kitamori, Kohei Komatsu : Study for Bearing Performance Reinforced by Screws, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 621, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Atsushi Tabuchi, Takuro Mori, Satoru Murakami, Kohei komatsu : An Effect of Lapped Length Of Kanawa-Tsugi Connection On A Bending Performance As A Japanese Traditional Connection, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 460, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Wen-Shao Chang, Kohei Komatsu : Experiment On Traditional Timber Connections Subjected To Bi-Axial Bending, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 829, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Buan Anshari, Zhongwei Guan, Kohei Komatsu : Finite Element Modeling Of The Pre-Camber Of Glulam Beams Reinforced By Compressed Wood, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 366, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Zhongwei Guan, Kohei Komatsu, Kiho Jung and Akihisa Kitamori : Structural Characteristics Of Beam-Column Connections Using Compressed Wood Dowels And Plates, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 324, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.

小松幸平	Yasunobu Noda, Naoyuki Furuta, Kohei Komatsu : Development Of Compressed Cross-Lapped Corner Members For Rigid Frames, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 471, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Akihisa Kitamori, Kiho Jung, Ivon Hassel, WenShao Chang, Kohei Komatsu, Yoshiyuki Suzuki : Mechanical Analysis Of Lateral Loading Behaviour On Japanese Traditional Frame Structure Depending On The Vertical Load, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 698, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Buan Anshari, Zhongwei Guan, Kohei Komatsu, Akihisa Kitamori, Kiho Jung : Explore Novel Ways To Strengthen Glulam Beams By Using Compressed Japanese Cedar, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 365, (CD-ROM) , June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy,2010.
	Takuro Mori, Munekazu Minami, Kiho Jung, Akihisa Kitamori, Kohei Komatsu: Development Of Reinforce Method For Bending Stiffness Of Compound Beam Using Pin-Keyed Joint, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 560, (CD-ROM), June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
	Kohei Komatsu, Akihisa Kitamori, Kiho Jung and Takuro Mori : Prediction Of Non-Linear Load-Deformation Curves Of Various Types Of Mud Shear Walls Subjected To Lateral Shear Force, Proceedings of WCTE2010, Paper ID 557, (CD-ROM), June 20-24, Riva Del Garda, Trentino, Italy, 2010.
西 真如	Nishi Makoto. Fight AIDS, not people with AIDS: Public health interventions and HIV-discordant couples in rural Ethiopia. Contextualizing post reconciliation violence: Globalization, politics and identities in Africa. Nairobi, 20 January 2011.
	西 真如「ウイルスと検査キット—エチオピアの農村で HIV とともに生きる人びとの経験」, 日本文化人類学会第 44 回研究大会, 立教大学, 2010 年 6 月 12-13 日.

(4) プロシーディング	
片岡 樹	Tatsuki Kataoka (2011) Border Crossing and Labor Migration of the Lahu Hilltribe. Kyoto Working Papers on Area Studies No. 104. Kyoto: Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University. (総ページ数 11 頁)
高田 明	Takada, A. (2011). Socialization through singing and dancing among the !Xun of Ekoka. Annual Report of the Study on the Relationship between the Environmental Change and Human Activity in Semi-arid Area throughout Namibia, including protected area (April 2010 - March 2011). Windhoek: The Ministry of Environment and Tourism, Republic of Namibia.
吉村 剛	Tsuyoshi Yoshimura, 「Termites for New Energy Options」, HSS2010, 2010.6.11, Jogjakarta, Indonesia, 5pp
	Motoko S. Fujita, Tsuyoshi Yoshimura, Mihammad Iqbal, Satrio Wijamukti, Dwi Mulyawati, Wilson Novarino, Yuli Lestari, Bambang Supriadi, Rosyid Ghunawan, Dewi M. Prawiradilaga, 「Inventory of birds in Acacia plantation in Pt. Musi Hutan Persada, Indonesia」, Kyoto Working Papers on Area Studies No.110 (G-COE Series 108), December 2010
	Tsuyoshi Yoshimura, 「Humanosphere Science School (HSS) 2010 in Gadjah Mada University」, RISH Internatioal Newsletter, No.25, 2010, 3
	吉村 剛, 「Humanosphere Science School (HSS) 2010 in ガジャマダ大学」, 生存圏だより, No.9, 2010, 8
速水洋子	Hayami, Yoko “Upland vs. Lowland as Seen through Gender: Distan Representations and Immediate Relationships” Paper presented at International Seminar “Radically Envisioning a Different Southeast Asia from Non-State Perspectives.” 2011 年 1 月 20 日
小林 知	小林知編. 2011. 『市場経済化以後のカンボジア』 京都大学 G-COE Working Paper Series.
山田協太	Kyota Yamada, "A Review on Historiography of Modern Urban History: Reconsideration of World Perspective from a Viewpoint of Colonial City Studies", <i>Proceedings of the 8th International Symposium on Architectural Interchange in Asia</i> , Nov.9-12, 2010, Kitakyushu, Japan, pp.543-548
柳澤雅之	Yanagisawa M. 2010. “Subsistence Production and Agricultural Cooperative in the Red River Delta, Vietnam”, <i>GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences (GIS-IDEAS)</i> , Hanoi Institute of Technology, Vietnam, 9-11 December 2010
太田誠一	Konda R., Ohta S., Ishizuka S., Heriyanto J, and Wicaksono A. (2010) Spatial-temporal variabilities of N2O emission from Acacia mangium soils, <i>Proceedings of 19th World Congress of Soil Science</i> , 1-6 August 2010, Brisbane, Australia

川井秀一	Kawai Shuichi, Matsumoto yoshikatsu, Yutaka Yoshida and Yutaka Sato: Forest Biomass Production of Plantation Forest in Sabah, Malaysia, A03-P04, XXIII IUFRO World Congress, p.29, 23-26 August 2010, Seoul, Korea
西 真如	真崎克彦、西真如 2010 「共同体の実証的研究を通じた地域振興支援の再検討ーブータンとエチオピアの事例から考える」、『第 21 回国際開発学会全国大会報告論文集』、pp. 499-500

(5) その他 書評 新聞記事 社会貢献

長岡慎介	長岡慎介「世界金融危機後のイスラム金融」(ASAHI 中東マガジン、連載「イスラム金融のいまを読む」、ウェブ掲載)、2011年1月14日。
	長岡慎介「『無利子の銀行』イスラム金融の儲け方」(ASAHI 中東マガジン、連載「イスラム金融のいまを読む」、ウェブ掲載)、2011年1月28日。
	長岡慎介「イスラム金融の歴史:その牽引者サーリフ・カーミルの足跡」(ASAHI 中東マガジン、連載「イスラム金融のいまを読む」、ウェブ掲載)、2011年2月17日。
	長岡慎介「イスラム金融の新時代(1)消費ローン革命」(ASAHI 中東マガジン、連載「イスラム金融のいまを読む」、ウェブ掲載)、2011年3月8日。
	長岡慎介「イスラム金融の新時代(2)イスラム株式投資ブーム」(ASAHI 中東マガジン、連載「イスラム金融のいまを読む」、ウェブ掲載)、2011年3月25日。
高田 明	高田明(2011). 書評:亀井伸孝(2010)『森の小さな<ハンター>たち:狩猟採集民の子どもの民族誌』京都大学学術出版会. 文化人類学, 75(4), 631-634.
	高田明(印刷中). 子育て(child rearing). G-COE「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」図書・資料ユニット:持続型生存基盤論関連用語集.
	高田 明(印刷中). 火の起源(サン). 篠田知和・丸山顕徳(編), 世界神話伝説大事典. 東京: 勉誠出版.
	高田 明(印刷中). ナンゴンベとカンジ. 篠田知和・丸山顕徳(編), 世界神話伝説大事典. 東京: 勉誠出版.
	高田 明(印刷中). 猟場と地名の説話. 篠田知和・丸山顕徳(編), 世界神話伝説大事典. 東京: 勉誠出版.
	高田 明(印刷中). 異常出産. 池谷和信(編著), エリア・スタディーズ: ボツワナを知るための60章. 東京: 明石書店.
	Nonaka, K. & Takada, A. (2010) "migration" In J. Tanaka & K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.84.
	Takada, A. (2010) "baby (nana) and baby care" In J. Tanaka & K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, pp.4-5.

高田 明	<p>Takada, A. (2010) “basin (!kuu) and pan (=khaa)” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, pp.6-7.</p> <p>Takada, A. (2010) “gesture” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.45.</p> <p>Takada, A. (2010) “jumping” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, pp.61-62.</p> <p>Takada, A. (2010) “landscape” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.68.</p> <p>Takada, A. (2010) “navigation” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.87.</p> <p>Takada, A. (2010) “sand (xoam)” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, pp.104-105.</p> <p>Takada, A. (2010) “soothing way (sao kx'am)” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.115.</p> <p>Takada, A. (2010) “springhare (=goo)” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.117.</p> <p>Takada, A. (2010) “suckling” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.119.</p> <p>Takada, A. (2010) “valley (qaa)” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, pp.125-126.</p> <p>Takada, A. (2010) “walking practices and trails (gyio)” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.129.</p> <p>Takada, A. (2010) “weaning” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.131.</p> <p>Takada, A. &amp; Nonaka, K. (2010) “dune” In J. Tanaka &amp; K. Sugawara (Eds.), The Encyclopaedia of the  Gui and   Gana Culture and Society, p.31.</p>
田中雅一	<p>田中雅一 コラム 「『ホモ・キエラルキクス』によせて」 奈良康明・下田正弘編 『新アジアの仏教史 0 1 インド I 仏教出現の背景』 佼成出版社、2010年、pp.62-65。</p>

田中雅一	田中雅一、書評『タブー——パキスタンの買春街で生きる女性たち』『Cutting-Edge』第40, 41 合併号、2011、p.3。
吉村 剛	「アメリカカンザイシロアリの診断・防除法の確立（アメリカカンザイシロアリ委員会・委員長・吉村 剛）」、平成22年度林野庁補助事業「住宅分野への地域材供給シェア拡大総合対策事業報告書」、日本木材防腐工業組合、2011年3月、79頁-117頁
	吉村 剛、「シロアリのフンを利用した水素ガスの効率的生産」、第175回生存圏シンポジウム「生存圏ミッションシンポジウム」要旨集、2011年3月、7頁-8頁
	吉村 剛、「シロアリという不思議な虫の世界」、京都教育大学付附属高校 SSH プログラム、講義・実習、2010年6月5日、宇治市
篠原真毅	篠原真毅, “マイクロ波送電方式給電システムの開発と応用”, R&D 支援センター, 2010.4.21
	篠原真毅, “マイクロ波を用いた無線電力伝送の基礎 -アンテナ技術を中心に-”, IEEE AP-S Kansai Chapter 主催次世代アンテナ・伝播技術ワークショップ, 1日集中, 2010.8.6
	篠原真毅, “基礎から分かるワイヤレス給電”, NE アカデミー in 大阪, 日経エレクトロニクス, 1日集中, 2010.10.1
	篠原真毅, “マイクロ波を用いた EV 用無線充電システムの開発”, Electric Journal 主催電気自動車 (HEV/EV) 充電技術★徹底解説, 2010.10.14
	篠原真毅, “無線充電の基礎・原理”, 電気自動車向け無線充電システムの開発, 日本テクノセンター, 半日講習, 2010.10.21
千葉悠志	千葉悠志「書評：Naomi Sakr, Arab Television Today. London and New York: I.B.Tauris, 2007, x + 262 pp.」『日本中東学会年報』、26（1）、pp.273-276、2010年6月。
	千葉悠志「書店の効用」『フィールド便り』アジア・アフリカ地域研究情報マガジン第91号、2011年01月。
佐藤史郎	(講演録) 佐藤史郎「核兵器の使用と倫理—ヒロシマとナガサキのリアリズム」、南山大学社会倫理研究所編『人間・社会・未来—相繋がり生きる基盤を求めて—』（南山大学社会倫理研究所研究プロジェクト講演集）、南山大学社会倫理研究所、2011年3月、82-97頁。
	(用語集) 佐藤史郎「アフリカの角」ほか23語、東長靖・石坂晋哉編『持続型生存基盤論グLOSSアリー』、京都大学東南アジア研究所、2011年3月。

速水洋子	(書評) Hayami, Yoko Review of Ashley South. Ethnic Politics in Burma: States of Conflict. Oxfordshire: Routledge. Journal of Southeast Asian Studies. 2011 年 10 月号に掲載決定
	(短報) Hayami, Yoko “Burmese Migrants to Thailand: Vignettes from the Border as In-Between Space” CSEAS Newsletter. No.63. 2011.21-22.
峯 陽一	峯 陽一 「南アフリカの行方ー「マンデラの虹」は消えたか」 『學士會會報』 882 号、2010 年 5 月。
	峯 陽一 「南アフリカ史の難しさと面白さ」 『歴史書通信』 189 号 (歴史書懇話会)、2010 年 5 月。
	峯 陽一 「今を読み解く『南アフリカー世界が注目』」 『日本経済新聞』、2010 年 5 月 9 日。
	峯 陽一 「長崎暢子・清水耕介編著『紛争解決ー暴力と非暴力』ミネルヴァ書房 (書評)」 『週刊読書人』、2010 年 10 月 8 日。
	峯 陽一 「ラジ・パテル著 (佐久間智子訳) 『肥満と飢餓』作品社 (書評)」 『日本経済新聞』、2010 年 10 月 24 日。
	峯 陽一 「丸山淳子著『変化を生きぬくブッシュマンー開発政策と先住民運動のはざままで』世界思想社 (書評)」 『アジア・アフリカ地域研究』 第 10 巻第 2 号、2011 年 3 月。
古市剛久	古市剛久, 2010a. 書評. 春山成子・藤巻正己・野間晴雄 (編). 『東南アジア』 ; 立川武蔵・安田喜憲 (監修). 朝倉世界地理講座ー大地と人間の物語ー, 2009, 451p. 東南アジア研究, 48(1), 108-111.
和田泰三	和田泰三、GCOE Newsletter No.6 P17 コラム生存基盤とはなにか? 大脳の 3 層構造と三つの圏
	和田泰三、Geriatrics and Gerontology International 誌、(IF 0.717) (日本)、1 件 (国際誌の査読)
	和田泰三、Health & Social Care in the Community 誌 (IF 1.101) (イギリス)、2 件 (国際誌の査読)
	和田泰三、American Journal of Public Health 誌(IF 4.371) (米国)、1 件 (国際誌の査読)

和田泰三	和田泰三、日本老年医学会 総会 神戸 (2010年6月)、ポスターセッション 「CGA」 座長(学会 座長)
	和田泰三、地域医療学」、地域在住高齢者の寝たきり予防-総合機能評価の視点から、 医学研究科 人間健康科学系専攻 全学共通科目、(2010年6月19日) (学内講義担当)
	和田泰三、有料老人ホーム ライフ・イン京都における高齢者検診(医療活動)
	和田泰三、京都大学附属病院 老年内科における外来診療(医療活動)
	和田泰三、大阪市のホームレスを中心としたセーフティネットとしての入院医療(医療活動)
	和田泰三、高知県・土佐町における高齢者検診(医療活動)
	和田泰三、インドネシア・パプア州・アガッツ 神経難病調査ならびに住民健診(医療活動)
遠藤 環	遠藤 環、「タイのインフォーマル経済：第1回 総論」『タイ国情報』第44巻第4号2010年7月、28-34ページ。
	遠藤 環、「タイのインフォーマル経済：第2回 屋台・露天商」『タイ国情報』第44巻第5号2010年9月、30-36ページ。
	遠藤 環、「タイのインフォーマル経済：第3回 バイクタクシー」『タイ国情報』第44巻第6号2010年11月、41-46ページ。
	遠藤 環、「タイのインフォーマル経済：第4回 建設労働者」『タイ国情報』第45巻第1号2011年1月、58-63ページ。
河野泰之	河野泰之. 2010. 「生物音痴が考える生物多様性」, 『京都大学環境報告書2010』, p. 41.
小杉 泰	小杉 泰、「環インド洋地域におけるイスラーム復興」『イスラーム世界研究』4巻1-2号, 2011年3月
増田和也	増田和也、「むらの人からの提案：余呉・摺墨での試み」『ざいちのち 実践型地域研究ニューズレター』24:3(京都大学生存基盤科学研究ユニット、東南アジア研究所)

佐川 徹	佐川 徹 2010 『大規模開発プロジェクトと周縁社会ーエチオピア西南部のダム／農場建設と地域住民の初期対応 (Kyoto Working Papers on Area Studies No. 101)』 京都大学東南アジア研究所、34p。
木谷公哉	木谷公哉、関西オープンフォーラム 2010 実行委員会、実行委員、目的：本 GCOE でも情報発信ツールとして HP で利用しているオープンソース・ソフトウェアに関する本イベントの実行委員を務めることで、オープンソース・ソフトウェアの新たな知見を得ると共に国内でのネットワークを深め、情報発信に役立てるとともに、オープンソース・ソフトウェアの普及に貢献しました。2009 年 11 月 5 日～6 日、大阪南港 AT
	木谷公哉、「iPhone アプリの iPad ユニバーサルアプリ化とデモ」、iPhone 京都勉強会、2010 年 5 月 19 日、キャンパスプラザ京都、発表資料： <a href="http://bakkers.gr.jp/~kitani/event/iphonekyoto/">http://bakkers.gr.jp/~kitani/event/iphonekyoto/</a>
	木谷公哉、「iPhone4/iPad での外部ディスプレイ表示」、iPhone 京都勉強会、2010 年 11 月 10 日、キャンパスプラザ京都、発表資料： <a href="http://bakkers.gr.jp/~kitani/event/iphonekyoto/">http://bakkers.gr.jp/~kitani/event/iphonekyoto/</a>
	木谷公哉、「XCODE4 / SDK 4.3 概説」、iPhone 京都勉強会、2011 年 3 月 16 日、キャンパスプラザ京都、発表資料： <a href="http://bakkers.gr.jp/~kitani/event/iphonekyoto/">http://bakkers.gr.jp/~kitani/event/iphonekyoto/</a>
渡辺一生	Watanabe K., 2010, Don Daeng Research Project: 50 years of Intensive and Long Term Interdisciplinary Observation in Northeast Thailand, Newsletter Center for Southeast Asian Study, Kyoto University, Center for Southeast Asian Study, Kyoto University, 7-8
山本 衛	2010 年度に受けた研究費：科研費・基盤研究(B) (海外学術調査) (H22～H24)、「インド・東南アジア・太平洋の広域観測による赤道スプレッド F 現象の日々変動の解明」、研究代表者：山本衛、H22 年度の直接経費：6,300 千円
	2010 年度に受けた研究費： 科研費・挑戦的萌芽研究 (H22～H24)、「衛星ビーコン観測と GPS-TEC による電離圏 3 次元トモグラフィの研究開発」、研究代表者：山本衛、H22 年度の直接経費：1,500 千円
	2010 年度に受けた研究費： 文部科学省 科学技術振興調整費 (国際共同研究の推進) (H22～H24)、「インドネシア宇宙天気研究の推進と体制構築」、研究代表者：山本衛、H22 年度の直接経費：18,985 千円
	2010 年度に受けた研究費： 名古屋大学太陽地球環境研究所「地上ネットワーク観測大型共同研究」、「アフリカにおける C/NOFS 衛星ビーコン観測による赤道スプレッド F 現象の経度依存性の研究」、研究代表者：山本衛、H22 年度の直接経費：700 千円
	2010 年度に受けた研究費：科研費・基盤研究(B) (海外学術調査) (H22～H24)、「熱帯域降水特性鉛直分布の日本・インドネシア協同観測」、分担者として (研究代表者：深尾昌一郎)、H22 年度の直接経費：1,000 千円

山本 衛	2010年度に受けた研究費：科研費・基盤研究（B）（海外学術調査）（H20～H22）、「超高層大気下部の経度非一様性の国際協同観測」、分担者として（研究代表者：中村卓司）、H22年度の直接経費：300千円
	2010年度に受けた研究費：科研費・基盤研究（B）（一般）（H21～H23）、「ライダーを活用した中層・超高層大気結合の協同観測—乱流圏界面の解明に向けて—」、分担者として（研究代表者：中村卓司）、H22年度の直接経費：300千円
玉田芳史	玉田芳史（書評）桜井義秀・道信良子編著『現代タイの社会的排除』梓出版社、2010年。『図書新聞』2970号(2010年6月19日号)、5面。
	玉田芳史（書評）柴田直治『バンコク燃ゆ：タックシンと「タイ式」民主主義』めこん、2010年。『週刊読書人』2010年11月5日号、7面。
	玉田芳史（書評）柴田直治『バンコク燃ゆ：タックシンと「タイ式」民主主義』めこん、2010年。『クルンテープ』（泰国日本人会月報）、2011年1月号、38-40頁。
	玉田芳史（雑文）「タイの政治家列伝 第12回 UDD（反独裁民主戦線、赤シャツ）の指導者たち」『タイ国情報』44(3)、2010年5月号、45-51頁。
	玉田芳史（雑文）「タイの政治家列伝 第13回 アピシット政権 2010年6月の内閣改造」『タイ国情報』44(4)、2010年7月号、55-60頁。
	玉田芳史（雑文）「タイ政治混迷の構造的要因」『タイ国情報』44(5)、2010年9月号、1-12頁。
	玉田芳史（雑文）「司法による政治統制：はじめの一步」『タイ国情報』44(6)、2010年11月、1-10頁。
	玉田芳史（雑文）「制限君主制と憲法をめぐる」『タイ国情報』45(1)、2011年1月、28-39頁。
玉田芳史（雑文）「なぜカンボジアと諍いを起こすのか」『タイ国情報』45(2)、2011年3月、2-8頁。	
伊藤正子	伊藤正子 中野亜里著『ベトナムの人権—多元的民主化の可能性』（福村出版、2009年、466頁）書評『アジア・アフリカ地域研究』第10-1号、67-71頁、2010年
	伊藤正子「ベトナム・原発・新幹線」『京大広報』No. 665、＜洛書＞、3386頁、2011年

藤田幸一	藤田幸一 座談会「信頼と協働に基づくコミュニティ形成を目指して—アジアの現状とこれから」（『ジョイント』（トヨタ財団広報誌）No.5）、4～10頁。
星川圭介	星川圭介 2010,「ロイカトンと灯籠流し」『クルンテープ』（タイ国日本人会誌）514号、4-7
	星川圭介 2010「始耕祭・レークナー--タイの始耕祭について」『クルンテープ』（タイ国日本人会誌）508号、4-9
小林 知	小林知, 校正中, 「過去の清算ではなく」『地域から読む現代』京都新聞社
清水 展	Shimizu, Hiromu, "Grassroots Globalization of an Ifugao Village, Northern Philippines," CSEAS News Letter, No.62, pp.4-6. 2011年1月
	「グローバル化に対峙/便乗して里を守る企て：ルソン北部山地・世界遺産棚田村の先住民イフガオの植林と社会開発」『先住民族 サミット in あいち 2010：先住民が伝える共生の知』愛知県立大学多文化共生研究所、pp.28-30。2010年10月
	清水展 「大災害の後に地域と民族が出現した：ピナトゥポ山大噴火後の環境の激変と地域研究考」、『SEEDer』 No.3、pp.36-4。2010年11月
山田協太	Kyota Yamada, "From Modern Urban History to Connected Urban History: Reconsideration of World Perspective from a Viewpoint of Colonial City Studies", 「総合地球環境学研究所・メガ都市プロジェクト 全球都市全史研究会報告書」Vol.4/5, pp.88-99, 2011年
田辺明生	田辺明生 「人類学と地域研究—人文研で学んだこと」『人類学の誘惑—京都大学人文科学研究所社会人類学部門の五〇年』、2010年10月、39-41頁
	田辺明生 「夢想からフィールドへ—『カーストと平等性—インド社会の歴史人類学を上梓して』」『UP』451号、東京大学出版会、2010年5月、46—51頁
荒木 茂	荒木茂, “8. 拠点基盤整備部会の活動”, G-COE2009年度自己点検評価報告書, pp.57-59.
島上宗子	島上宗子, 「蕪（かぶ）の豊かさ」、 「ざいちのち：実践型地域研究ニューズレター」No.25（2010年10月）2頁
	島上宗子, 「トップの宿る村：いりあい交流で訪れた焼畑の不思議な世界」、共著, 「いりあい・よりあい通信」第一号、2010年11月、2～3頁

島上宗子	Motoko Shimagami, "Dari Kyoto Hingga Ujung Kulon", Masaaki Okamoto dan Muhammad Arif Kirdiat eds., <i>Melihat Sisi Lain Dunia</i> , KICO Worldwide Indonesia, December 2010, p. 29-36.
	島上宗子、「フィールド協力スタッフより」、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科フィールドスクール報告書、2010年3月刊行予定
	島上宗子、「映像記録作業を通じた学びあい」、トヨタ財団広報誌 JOINT 6号、2010年3月刊行予定
柳澤雅之	柳澤雅之. 2011. 「熱帯林の包括的な利用システムを考える」 『日本熱帯生態学会ニューズレター』 No.82. pp.2-6
田中耕司	田中耕司「農業における「時間」の利用と効用」 『農業』 No.1532: 4-5、2010年4月
	田中耕司「「個体」と「群落」：農法比較から農業の将来を考える」 『農業』 No.1538: 4-5、2010年10月
竹田晋也	竹田晋也、「森の国ラオス暮らしを支える雨緑林の恵み」、菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子編『ラオスを知るための60章』明石書店、2010年、31-34頁
	【震災により要旨のみ公表された学会報告】
	竹田晋也・山口哲由・野瀬光弘、「インド北部ラダーク地方の農牧生業複合と農林地利用の変容」、『熱帯農業研究』4(別号1)、2011年、(印刷中)
	Adrian Albano and S. Takeda. Tropical Mountane Forest and Temperate Vegetables in Tionoc, Ifugao, Philippines: Can the Two be Balanced? <i>Research for Tropical Agriculture</i> 3(Extra issue 2) 2011. (in print)
	野瀬 光弘・竹田 晋也、「インド北部ラダーク地方の農林地利用状況」、第122回日本森林学会大会学術講演集122巻、2011年、32頁
藤田素子	藤田素子. 「マレーシア・サラワク州の事前の調査を終えて」 東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究ニューズレターNo.3, pp1-2. 2011年2月.
	藤田素子. 「生き物の価値と人」、コラム生存基盤とは何か? 京都大学 GCOE ニューズレターNo.6, p14. 2011年1月.

川井秀一	川井秀一：「木づかいが子供を育て、循環型社会へ・・・」、OK ネット住宅セミナー、平成 22 年 6 月 23 日、大阪市
	川井秀一：木づかいのススメ、京都府建築士会 「林業を考える」セミナー、平成 22 年 9 月 11 日、京都市
	川井秀一：変貌する木材需給構造とこれに対応した木材産業のあり方、活木活木森のネットワーク 仙台講演会、平成 22 年 10 月 6 日、仙台
	川井秀一：森と木と環境、和歌山県環境シンポジウム基調講演、平成 22 年 10 月 31 日、和歌山市
	川井秀一：木づかいのススメ、公共建築月間記念講演会「木造建築の可能性」国土交通省近畿地区整備局、平成 22 年 11 月 30 日、大阪市
中村香子	書評・ジェイコブ・J・アコル著、小馬徹訳、『ライオンの咆哮のとどろく夜の炉辺で——南スーダン、ディンカの昔話』、平成 22 年 7 月、『神奈川大学評論』66:177, 神奈川大学

(6) 受賞

田辺明生

田辺明生 第14回「国際開発研究 大来賞」受賞 2010年

(7) 学位論文

舟橋健太	舟橋健太、「現代インドの「改宗仏教徒」—ウツタル・プラデーシュ州における「不可触民」のアイデンティティの諸相—」、京都大学博士（地域研究）、2010年9月24日学位授与
八塚春名	八塚春名、『タンザニアのサンダウエ社会における環境利用に関する研究—狩猟採集社会の変容への一考察』、平成23年度京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 学位論文
増田和也	増田和也、『森林をめぐる領有性の生成と重層的展開についての研究——スマトラ、プタランガン社会における森林開発——』、京都大学大学院人間・環境学研究科提出、2011年1月

(8) 特許

篠原真毅

西川健二郎, 関智弘, 平賀健, 篠原真毅, “レクテナ装置”, 特願 2010-216742, 2010.9.28, 出願中

発行日：平成23年6月30日

発行者：グローバルCOEプログラム

「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」事務局

住 所：〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46

U R L： <http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/>